

ANNUAL REPORT

1999 - 2000

No. 23



University of Tsukuba

Institute of Policy and Planning Sciences

ま え が き

社会工学系は、社会問題（経済、経営、都市・地域、国際関係等の諸問題）を理工的（分析的、数理的、計量的）なアプローチによって解明し、政策的な意味合いを見い出そうとするという研究上の共通目標をもっている研究者・教育者の群れである。それぞれのメンバーが、国際的に認められるような質の高い研究成果を挙げるように、また良き教育者であるように目指し、努めている。平成10年度（平成11年3月31日現在）の本学系所属の教員は東京大塚地区を含めて、教授39名、助教授32名、講師21名、助手5名であり、その活動は以下のように評価できる。

（1）研究活動では、平成10年度も全分野にわたって研究活動が展開されており、学会賞等の件数は4件（経営情報学会論文賞、日本品質管理学会論文奨励賞等）であった。昨年の研究発表数は国内外で大幅に増加しており、特に国内の論文、国内の学会発表の増加が著しい。本学系では審査付き学術誌への発表を重視しており、多くの教員はそのための努力を続けている。科研費の採択件数は多少減少したが金額は増加しているし、学内プロジェクトに関しては、採択率・金額とも昨年と同様である。また学系発行のDiscussion Paper は46件、Reprint Series は2件であった。

（2）学系として国際交流協定を韓国の建国大学、国土開発研究院、ウィーン経済・経営大学と結んでいる。学系の外国人教員は8名、外国教師は1名である。教員の海外研修・出張は長期のものは2件であったが、短期のものは極めて多く研究交流が盛んであることを示している。

（3）本学系の教員は、教育組織としては社会工学類、国際総合学類、経営・政策科学研究科（夜間課程を含む）、環境科学研究科、地域研究研究科、社会工学研究科、国際政治経済学研究科において多様な教育活動に参加している。また、3名が先端学際領域センター、大学研究センターにおいて研究に専念参加し、18名に対して大塚における勤務が義務付けられている。

本学系の教員による研究成果は着実に業績となっているが、退職・転出者も多く、優秀な人材を確保するために一層の努力が必要である。多様な教員間の活発な学際的交流と研究成果を継続していくために、中長期的な視野にたつて有能な若手の研究者を確保するとともに、他大学以上に魅力のある学系としてさらに成長できるようにしたい。そのため、自己点検・自己評価を行い、教育・研究意欲を刺激するための開かれた体制と雰囲気を育成していくことが継続して必要とされている。本誌が、そうした課題に対応していくための資料を提供し、構成員ならびに関係者の意識向上のために貢献できれば幸いである。

平成11年9月14日

社会工学系長
腰塚武

志

目 次

I 概 要.....	1
------------	---

_Toc463079051

2 . 学系(研究組織)・教育組織等の関係.....	4
----------------------------	---

_Toc463079053

III 教 育 活 動 (平成10年度各教官担当科目) エラー! ブックマークが定義されていませ	
--	--

_Toc463079058

1 . 科学研究費補助金・受託研究・学内プロジェクト.....	28
---------------------------------	----

_Toc463079060

3 . 研究出版物.....	37
----------------	----

_Toc463079062

I 概 要

I 1 沿 革

- 昭38.9 研究学園都市を筑波地区に建設することを閣議了解
- 昭45.5 筑波研究学園都市建設法成立
- 昭47.5 筑波新大学（仮設）等42機関を閣議決定
- 昭48.10 筑波大学設置
- 昭50.4 社会工学系発足
- 社会科学部 計量計画学専攻（博士課程）発足
- 昭51.4 経営・政策科学研究科 経営政策科学専攻（修士課程）発足
- 昭52.4 第3学群社会工学類発足
- 環境科学研究科（修士課程）発足
- 昭53.4 社会工学研究科（博士課程）計量計画学，都市・地域計画学発足
- 昭54.4 社会工学研究科（博士課程）経営工学発足
- 昭56.3 社会工学類第一回生卒業
- 平 1.4 経営・政策科学研究科 経営システム科学専攻（夜間修士課程、大塚地区）発足
- 平 4.4 国際政治経済学研究科（博士課程）発足
- 平 5.4 新国際システム特別プロジェクト発足
- 平 8.4 経営・政策科学研究科 企業科学専攻（夜間博士課程、大塚地区）発足
- 平 8.4 社会工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻新設、社会経済システム、システム情報数理、都市・環境システムに改組再編

1 2 学系(研究組織)・教育組織等の関係

```
f^fCfjf(:  
(\221g\220D\220) \ (DR\))  
• j• - Ò :  
(\203N\203\211\203\212\203X\203\217\201[\203N\203X v4: LaserWriter 8 J1-8.6.5)  
fvfœfvf... [ :  
,±,| EPS œ` @,|ftf@fCf(:j• A  
fvfœfvf... [•t,«,Ä•Ü•¶,³,ê,Ä,ø,Ü,¹,ñ• B  
fRf• f"fg :  
,±,| EPS œ` @,|• },|  
PostScript fvfŠf" f^,Ä,|,Ý  
`ø ü,Ä,«,Ü,• B
```

II 教 官 一 覽

(專門分野・研究内容)

社会工学系教官一覧

(平成11年8月～平成12年7月)

職名・氏名	専門分野	研究内容
教授		
池田 三郎	社会システム工学、 環境リスク分析	都市、地域及び生態系の統合モデル化とその計算機模擬、地球環境や都市・地域の環境リスクの分析と管理、複雑系のモデル化とその制御の手法に関する研究
石田 東生	都市交通計画、社会基盤施設 計画、交通需要予測	都市公共交通政策、交通施設整備政策の変遷、交通計画策定プロセスにおける評価とパブリックインボルブメントの可能性と方法
太田 誠	経済理論、計量経済学	生産技術・品質・市場構造の理論的・実証的研究、 物価指数論、マクロ経済現象のミクロ理論的・実証的分析
大谷 順彦 (H12.3.31付辞職)	理論経済学、国際経済学	一般均衡理論と戦略的な誘導、国際経済学の一般均衡的接近
大西 治男 (経営・政策科学研究科長H9.4.1～ H11.3.31)	情報計量経済学、計量行政 学、データ解析	統計学や計量経済学の変数選択問題の解法の計算機科学的研究
大村 謙二郎 (社会工学科研究科 長H11.4.1～)	都市計画、都市計画史	土地利用計画、計画制度、都市計画史
小倉 昇	管理会計学、企業評価、コス トマネジメント、業績評価シ ステム	活動基準原価計算、組織の戦略的コントロール、パランスド・スコ アカードを用いた業績管理、キャッシュフロー情報を用いた企業評 価測定
小田切 宏之 (H10.4.1～H12.3.31 併任)	企業経済学、産業組織論、技 術革新の経済学	企業行動・組織の経済学的分析、産業組織論と競争政策、研究開発 活動の分析
金子 守	Foundations of Game Theory - Deductive Game Theory(Game Logic) and Inductive Game Theory	Recently I have been working on foundational issues of game theory and social sciences, and specifically have been concentrating my research activities on game logic and inductive game theory. The latter is the research project undertaken with Akihiko Masui. The main theme of these projects is to analyze interactions between (boundedly) rational thinking and individual social behavior.
河合 忠彦 (経営・政策科学研究 科副研究科長H 11.4.1～)	経営組織論、企業行動論	戦略的組織革新、経営組織論、企業行動論
菊本 虔	科学技術政策・教育政策	大学から産業界への技術移転、科学研究のあり方、科学と社会の関 係、発展途上国に対する教育協力
岸本 一男 (経営政策科学研究 科長H11.4.1～)	数理工学	数理ファイナンス、デジタル幾何、数理政治学
楠本 捷一郎 (大学院博士課 程長H8.5.31～) H12.3.31限り停年退 職	一般均衡理論、ミクロ経済分 析	均衡価格を財空間と同じ空間で考察する研究の流れに沿う理論の 補強・発展。準(弱)競争均衡の存在を明かにすること。外部性 externalitiesの問題を「アロー財」の導入によって、均衡理論にいか に埋め込むか。消費者とインセンティブとリンダール均衡を含む均 衡、公共財の地域間外部性が均衡と社会厚生に与える効果など。
熊谷 良雄	都市計画、都市安全管理 計画	大地震による被害の想定に関する研究、緊急時の危機・情報管理、 災害復興計画
黒田 誼 (社会工学類長H 11.4.1～)	農業経済学、経済発展論	技術進歩、農業成長および経済発展、農業および食料政策
香田 正人	システム科学、応用数理解 析、データマイニング工学	システム最適化、感度解析、ニューラル・ネットワーク、機械学習 等の理論的研究と、それらの技術のデータマイニングや発見科学へ の応用
腰塚 武志 (社会工学系長H 11.4.1～H12.3.31) (副学長H12.4.1～)	都市工学、積分幾何学	都市の物的構造を数理的に明らかにすること、積分幾何とその応 用、移動からみた都市構造の分析

近藤 文代	時系列解析 統計解析 マーケティング データ分析	ビジネスにおける時系列データ解析および解析手法の開発
Neantro Saavedra-Rivano	International Economics, Development Economics, Mathematical and Computational Methods in Economics.	Comparison of Development Policies in East Asia and Latin America, Relation Between Regional Economic Integration Schemes and National Development Strategies in Asia and the Americas, Issues on Transition Economies.
佐々木 康三	資源経済学、農業経済学、需要分析	需要システム研究、消費者行動の実証分析、資源の経済分析
佐藤 英夫 (国際連合大学派遣 H10.4.1~H12.3.31)	国際政治学、国際政治経済学、対外政策決定論	日米関係の政治経済学、グローバル・リーダーシップの分担、アジアの地域主義と国際関係
佐藤 亮	経営システム工学、システム科学	経営情報システム (ERP,MRP,e-Business)、離散事象システム、ビジネスプロセス工学、数理組織論
斯波 恒正	計量経済学、ファイナンスの実証分析	分散確率変動モデルの統計的推測方法の開発と実証
鈴木 久敏	オペレーションズ・リサーチ、数理計画法	オペレーションズ・リサーチの生産、物流、社会システムへの応用
Robin E Sowden	技術評価、化学工学	国際連携と技術移転
高木 英明 (社会工学系長 H12.4.1~)	通信ネットワーク、確率モデル、待ち行列理論	マルチメディア情報通信ネットワークの性能評価モデル
谷村 秀彦 (第3学群長H11.4.1~)	都市施設計画、建築計画	グローバル化時代の都市計画、歴史的都市の現代化、高齢化・少子化と都市施設計画
寺野 隆雄	進化的計算手法、人工知能、計算組織理論 データマイニング	遺伝的アルゴリズムなどの進化的計算手法と人工知能技術の統合とシステム化、これに基づく社会現象の分析
土井 正幸	地域経済学、交通経済学、都市経済学	地域経済発展とインフラストラクチャ、産業連関分析・CGEモデル、開発経済学、国際物流論、港湾・海運経済論、発展途上国交通経済論を含む。
中村 豊	意思決定理論	不確実性下の意思決定の理論的基礎とその応用
橋田 温 (経営・政策科学研究科副研究科長 H10.4.1~)	情報ネットワーク工学、システム性能評価法、待ち行列理論	ネットワーク技術の個人・社会活動に及ぼすインパクト、広帯域ネットワークおよびコンピュータ・ネットワークの性能評価
橋本 昭洋	システム評価論、意思決定論	社会システム評価、非画一的総合評価
早川 弘晃 (H12.3.31付辞職)	マクロ経済学	マクロ経済理論、貨幣経済理論、経済成長理論、ミクロ経済理論、socio-economic theory
藤原 良叔	組合せ理論とその応用	組合せ理論 / 離散数学とその情報科学や統計学への応用
星野 靖雄	経営管理論、経営財務論	企業合併の計量分析、合併企業の行動分析、日本的経営論
細野 昭雄 (併任)	開発経済学、国際政治経済学、ラテンアメリカ経済論	地域統合と開発政策 - 東アジアと米州の比較研究
穂鷹 良介 H12.3.31限り停年退職	情報システム・データモデル	ERPパッケージの導入並びに分析
松尾 博文	生産流通管理論、オペレーションズマネジメント	サプライチェーンの管理と戦略、生産システムの最適化、スケジューリング、在庫管理、オペレーションズリサーチ、経営科学
松田 紀之	認知心理学、感性情報分析とデザイン	Webページのユーザビリティ, 双方向環境での決定支援, リスク認知
松本 正雄	企業情報戦略、産業ソフトウェア工学、品質システム、ソリューション工学	インタープライズモデリング、デジタルキャピタル論、e-ビジネスIT、ソリューション生成実証研究
門田 安弘	管理会計学、生産管理論、原価計算論	原価管理の実証分析、分権組織の業績管理システムの実証分析、JIT生産方式のモデル分析

山田 直志	医療経済学、応用ミクロ経済学	高齢者医療の部分的定額制度導入と医療セクター及びマクロ経済システムへの影響
山本 芳嗣	数理計画	均衡点問題とそのアルゴリズム、計算幾何学、大域的最適化
吉澤 正 (経営・政策科学研究科副研究科長 H9.4.1～H11.3.31)	応用統計、品質・環境マネジメントシステム	多元データの解析；製品及びマネジメントシステムの開発への品質機能展開の応用

助 教 授		
赤根谷 達雄	国際政治理論、安全保障論、日米同盟の再構築、新しい安全保障の概念、日本の対外政策	冷戦後の国際秩序、日米同盟の再構築、新しい安全保障の概念
生田 誠三	生産管理	確率的逐次決定過程の研究
岩城 秀樹	ファイナンス工学	Harrison-Kreps流の無裁定価格理論、及びKartzas et.al流のマルチンゲール・アプローチによる資産価格評価、及び資産選択理論の研究
大澤 幸生	発見科学、予兆発見学	データから、人の未来の意思決定にとって重要となる新稀事象(予兆)を発見するアルゴリズムと、それによって得られた予兆情報の意味に気付き、理解し行動する人間の誘導
大澤 義明	都市計画、地域科学	立地論、空間的競争、地域データ解析
太田 充	地域科学・都市経済学・都市計画	空間経済システムの自己組織化及び構造変化
小場瀬 令二	都市環境デザイン	環境共生住宅、地域重視型住宅、フィンランドの都市計画、まちづくりとワークショップ
梶井 厚志	理論経済学、意思決定理論、ゲーム理論	競争市場理論、特に金融市場と情報の経済的役割の理論研究
金澤 雄一郎	統計科学、およびその政治行動、消費行動、医療への応用	欠損値を含んだ離散的なデータの解析、欠損値を含んだロジスティック・ログリニア・プロポーションアルゴリズムの理論的研究
岸本 直樹	ファイナンス	経路依存型証券の価格理論、CMOの価格モデル、国債市場の実証分析、債券のデュレーション
金 顕哲	流通論、マーケティング	流通論、流通管理論、小売イノベーション、関係性マーケティング、日本型マーケティング
久野(吉瀬) 章子	数理計画、オペレーションズ・リサーチ	線形・非線形最適化問題に対する効率のよい算法の開発
久野 靖	プログラミング言語、プログラミング環境	並列/分散オブジェクト指向言語、ペンコンピュータ等を対象とした新しいユーザインタフェース操作方式
Henrich R. Greve	経営学、社会学、特に、組織の競争性について	企業の成長とイノベーション：戦後の日本造船業の国際競争力の発展について
小林 信一	高等教育、科学技術政策	高等教育政策に関する研究、科学技術政策・学術政策に関する研究、科学技術と社会の相互関係に関する研究
猿渡 康文	数理計画、組合せ最適化	最適化問題に対する高速算法の開発、辺彩色グラフ理論に関する研究
庄司 功	応用時系列解析	ダイナミカルシステムモデルの推定
徐 華	システム制御理論、動的ゲーム理論	システム制御理論、動的ゲーム理論とそのマネジメントサイエンス、社会経済システムへの応用に関する研究
高橋 正文	派生証券評価、金融リスク管理	金融資本市場の価格評価、価格変動解析、VaRを中心とする市場リスク管理手法の研究
竹村 和久	消費者行動研究、認知心理学、社会心理学、マーケティング・サイエンス	判断と意思決定の心理、消費者行動研究、交渉行動の研究
豊谷 整克	理論経済学、公共経済学	社会的に望ましい帰結を達成するメカニズムのデザイン

張 勇兵	分散システム、リアルタイムデータベース、性能評価	分散システムにおける資源の最適配分、リアルタイムデータベースシステムにおけるトランザクションのスケジューリング方式に関する研究
鄭 小平	地域科学、都市経済学	都市・地域における空間構造の経済分析、最適都市規模に関する理論・実証研究、中国の都市・地域問題と政策研究
津田 和彦	自然言語処理、ヒューマン・コンピュータ・インタラクション	文書の意図理解、テキストマイニング、文書からの知識獲得技術に関する研究
樁 広計	応用統計学	環境科学、品質管理、臨床評価などへの統計的方法の開発と応用
永井 裕久	組織行動学、人的資源管理、国際人事	ベンチャー企業の国際化と人材戦略、海外派遣者の雇用管理システム、経営者のキャリア・パーソナリティと組織成果
野上 佳子	統計的推論、統計的決定問題	ラグランジェ法による統計推論、経験的ベイズ及び、複合決定問題
平瀬 (西尾) チヅル	マーケティング、消費者行動論	マーケティング・コミュニケーション、消費者行動の計量モデル、エコロジカル・マーケティング
古川 俊一	行政学、政治学、公共政策学	地方行財政論、地方分権と政府間関係論、公共経営論、比較行政制度論、公共政策評価論
牧本 直樹	確率過程論、オペレーションズ・リサーチ	確率システム性能評価、確率モデルの数値計算法、システムシミュレーション
松井 彰彦 (～H11.3.31併任)	ゲーム理論	進化論的ゲーム理論、社会規範、帰納的ゲーム理論
安田 八十五	都市政策学、環境政策学、ごみとリサイクル政策、循環型社会システム論	大規模公共プロジェクト及び公共政策が社会環境に与えるインパクトのシミュレーション分析と総合評価
横張 真	緑地環境計画	都市近郊における緑地計画の方法論に関する研究、緑地の環境保全機能に関する研究
吉田 雅敏	財政学、マクロ経済学	財政システム理論、独占的競争のマクロ動学理論
李 明宰	計量経済学	Semiparametrics, Sample Selection, Treatment effect panel data, LiMDEP
渡辺 俊	都市計画・建築計画、設計学	ネットワーク・マルチメディア社会における都市計画・建築計画、計画設計支援システムの開発

講師

アイハト ハンリー オサロ	生産システム、生産管理、オペレーションズマネジメント	ジャストインタイム混流組立ラインの順序計画に関する研究、遺伝的アルゴリズムによるスケジューリング、ゴール・プログラミングによる多目標スケジューリング
石井 健一	コミュニケーション研究、情報社会研究	海外の日本番組、情報機器の普及と採用、移動体通信の利用行動
石生 義人	政治社会学	利益集団のロビー戦術、日本人の投票行動
イリチュ (佐藤) 美佳	データ解析、統計科学、多相・多元データ理論	類似度の潜在構造モデルに基づくクラスタリング
祝迫 得夫	ファイナンス、マクロ経済学	消費への資産価格への影響、ライフサイクル・モデルから見た日本の家計のポートフォリオ選択
宇井 貴志	ゲーム理論	ポテンシャル関数を用いたゲームの分析手法、金融危機の発生と連鎖に関する理論、金融政策の有効性に関する理論および実証
上田 貴子	応用計量経済学、開発経済学	動学構造モデルの実証研究
大江 (繁野) 麻衣子	数理計画、組合せ最適化	組合せ最適化問題に関する算法の開発
岡本 直久	交通計画、観光計画	社会資本整備のもたらす効果の計測、観光交通の調査及び需要推計方法
加藤 毅	高等教育	若手研究者の養成システム、学術研究への支援政策
姜 晟振		Economic Growth and Development, Multinational Enterprises, The Effects of Income Transfer

川邊 みどり	沿岸環境科学、沿岸域管理	東京湾沿岸環境の多面的評価、アジア沿岸域における持続的生産の可能性
鈴木 勉	都市解析、立地論	都市空間・立地構造及び環境影響に関する数理的解析、地理情報を活用した施設計画評価
鈴木 秀男	応用統計、品質管理	統計的手法と機械学習法の開発、その品質管理とマーケティングへの応用
曾根 昭夫	計量都市・経済地理学	公共サービス供給の空間分析、公共政策・プログラム評価法
Stephen John Turnbull	ゲーム論・情報経済、実験経済	インターネット経済（設備・システム組織；電子商業）、オープンソースソフトウェアの経済的環境
竹原 均	財務管理論	資産価格評価モデルに関する実証分析、ポートフォリオのリスク管理及び最適化に関する研究
藤川 昌樹	日本建築史・都市史、伝統的都市の保全・再生	日本の近世・近代都市史研究、農村の建築ストックに関する研究
古屋 秀樹	交通計画、交通工学	交通行動分析ならびに交通需要予測分析、都市・地域交通システム計画の策定
Ying Miao	実験計画法、組合せ理論	デザイン、符号、暗号の構成と分類、及び組合せアルゴリズム
吉田 友彦	住環境整備、都市計画	既成市街地の整備手法の開発、基盤整備事業と自治体住宅政策の連携、外国人居住と基盤整備事業の関係
吉野 邦彦	リモートセンシング、地域環境工学	衛星リモートセンシングデータによる土地被覆・土地利用解析、地表面の方向性分光反射特性の解析とモデル化
渡辺 真一郎	組織行動論、相互作用心理学	組織における人間行動を多様に規定する組織特性と個人特性の相互作用に関する研究

助手		
安藤 和敏	数理計画、離散数学	組合せ最適化問題の多面的構造に関する研究、及び、それらに対するアルゴリズムの設計
大木 敦雄	計算機システム	プログラミング環境、ネットワークキング、ユーザインターフェイス
坂本 淳二	都市・農村計画、応用地理学	大都市近郊混住化地域の計画論に関する研究、日本のニュータウンの評価に関する研究
MONDAY OHI ASIKHIA	Public Facilities Planning, Environmental and resource planning, Sustainable regional development, Planning theory.	Population dynamics and public facilities provision. Sustainable regional development in developing countries. Planning theories in regional development planning.

Ⅲ 教 育 活 動

(平成11年度各教官担当科目)

- 池田 三郎 (社会工学類)
環境計画 都市計画実習 人間居住の諸問題
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
公共リスク分析
(社会工学研究科)
環境システム分析特講
- 石田 東生 (社会工学類)
都市構造論 交通計画
都市計画実習 都市計画実習
(環境科学研究科)
国土計画論
(社会工学研究科)
交通計画特講
- 太田 誠 (社会工学類)
数量経済学、社会経済実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
数量経済分析、経済政策演習ⅠⅡ
(社会工学研究科)
計量経済学特講Ⅰ
- 大西 治男 (社会工学類)
応用計量経済学 社会経済実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経済予測論
(社会工学研究科)
計量経済学実習
- 大村 謙二郎 (社会工学類)
土地利用計画 都市計画実習
都市・地域・環境を探る
(環境科学研究科)
都市計画通論
(社会工学研究科)
比較都市計画史特講
- 小倉 昇 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
会計基礎Ⅰ,Ⅱ 会計情報 コストマネジメント
コストマネジメント輪講 ,Ⅱ,Ⅲ 予算管理
経営システム科学特別研究
- 小田切 宏之 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
科学技術政策 産業組織政策
(社会工学研究科)
産業組織論特講
- 金子 守 (社会工学類)
微分積分学 ゲーム論 社会経済実習
(社会工学研究科)
ゲーム理論特講
- 河合 忠彦 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
経営学基礎 経営組織 企業と社会 経営組織輪講
経営システム科学特別研究Ⅰ～Ⅴ

- 岸本 一男 (社会工学類)
 数理解析 経営工学実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 モデル分析
 (社会工学研究科)
 システム数理
- 楠本 捷一朗 (社会工学類)
 数理経済学
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 厚生経済学
 (社会工学研究科)
 ミクロ経済学特講
 (日本語・日本事情編成科目)
 日本の経済
- 熊谷 良雄 (社会工学類)
 都市防災計画 都市計画実習
 (環境科学研究科)
 環境計画論 防災計画論 環境科学実習
 (社会工学研究科)
 都市安全管理特講 都市安全管理演習
- 黒田 諄 (社会工学類)
 計量発展分析 社会経済実習 経済学入門
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 計量発展分析 計量経済学
 (社会工学研究科)
 計量発展分析特講
- 香田 正人 (社会工学類)
 微分積分学 経営工学実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 応用解析学
 (社会工学研究科)
 データマイニング工学
- 腰塚 武志 (社会工学類)
 都市解析 都市計画実習
 地域科学演習 都市計画事例講義および実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 都市構造論
 (社会工学研究科)
 都市解析学特講
- 近藤 文代 (社会工学類)
 数理統計学II 情報基礎および実習 社会工学概論及び実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 統計解析
- Neanthro Saavedra-Rivano (国際総合学類・社会工学類)
 国際開発論
 (国際政治経済学研究科)
 開発経済学

- (地域研究科)
ラテン・アメリカ研究概論(1)
- 佐々木 康三 (社会工学類)
資源経済学 社会経済実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
需要分析
(社会工学研究科)
農業経済論特講
- 佐藤 亮 (社会工学類)
経営工学概論 経営情報システム(講義及び演習)
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
情報科学演習 情報システム論
(社会工学研究科)
システム工学 情報科学演習
- 鈴木 久敏 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
最適化基礎 経営システム科学
ビジネス・ゲーム
最適化モデル輪講 最適化モデル輪講
経営科学総論 システムズ・マネジメント特論
システムズ・マネジメント特論
- 高木 英明 (社会工学類)
フレッシュマンセミナー 数理解析 応用確率過程
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
情報ネットワーク
(社会工学研究科)
応用確率過程特講
- 谷村 秀彦 (社会工学類)
社会工学概論実習 都市計画入門
(環境科学研究科)
都市施設計画特論
(社会工学研究科)
都市計画理論特講
- 寺野 隆雄 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
人工知能 人工知能輪講 I、II、III 複雑系工学
協調システム論 分散知能論、経営システム科学III
システムズマネジメント講究I-VI
経営システム科学特別研究I-VI
- 土井 正幸 (社会工学類)
都市経済学 地域科学演習III
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
交通経済政策論
(社会工学研究科)
地域経済学特講 交通経済学特講
- 中村 豊 (社会工学類)
微分積分学 計画数理 地域科学演習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
意思決定論

- (社会工学研究科)
決定理論特講
- 橋田 温 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
情報ネットワーク シミュレーション
情報ネットワーク輪講I
情報ネットワーク輪講II 情報セキュリティ・マネジメント
経営システム科学特別研究 システムズ・マネジメント講究
- 橋本 昭洋 (社会工学類)
意思決定分析 社会経済実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
数理計画実習 システム評価決定論
(社会工学研究科)
システム評価
- 藤原 良叔 (社会工学類)
社会工学情報処理実習3 シミュレーション
経営工学実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経営工学演習
(社会工学研究科)
数理情報
- 星野 靖雄 (社会工学類)
経営管理論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経営管理論
(経営・政策科学研究科: 大塚地区)
経営学特論 トップ・レクチャーII
(社会工学研究科)
コーポレートファイナンス
- 細野 昭雄 (国際総合学類)
国際政治経済学 国際開発論
(国際政治経済学研究科)
国際政治経済学II 国際政治経済学 演習
(地域研究科)
国際関係論 ラテンアメリカの経済
- 穂鷹 良介 (社会工学類)
計算機科学 情報基礎及び実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
情報システム論
(社会工学研究科)
情報システム設計特講 情報基礎数学
(工学研究科)
データベース特論
- 松田 紀之 (社会工学類)
情報行動分析 情報基礎および実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
心理情報分析 行動科学演習
(社会工学研究科)
行動科学特講 多変量解析特講

- 松尾 博文 (社会工学類)
経営工学概論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
生産流通戦略論 経営演習II
(社会工学研究科)
生産流通情報システム特論
- 松本 正雄 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
企業情報戦略 ソフトウェア工学 ソリューション工学
トップマネジメント 세미나
システムズマネジメント講究II、システムズマネジメント講究III
システムズマネジメント講究IV、システムズマネジメント講究V
システムズマネジメント講究VI、システムズマネジメント講究VII
システムズマネジメント特講I
経営システム科学特別研究I、経営システム科学特別研究II
経営システム科学特別研究III、経営システム科学特別研究IV
経営システム科学特別研究V、経営システム科学特別演習
ソリューション工学輪講I、ソリューション工学輪講II
- 門田 安弘 (社会工学類)
会計学概論 経営計画 生産システム論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
管理会計論 経営演習 1
(経営・政策科学研究科: 大塚地区)
生産管理論
(社会工学研究科)
管理会計学演習
- 山田 直志 (国際総合学類)
経済分析 IRセミナー
人的資源開発論
(国際政治経済学研究科)
応用ミクロ経済学 応用ミクロ経済学演習
- 山本 芳嗣 (社会工学類)
経営工学概論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
基礎数学
(社会工学研究科)
数理計画特講
- 吉澤 正 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
数学基礎 データ解析 品質経営 品質経営輪講
品質経営輪講 品質経営総論
環境経営論 システムズ・マネジメント特別演習 同講究
(経営・政策科学研究科: 大塚地区, 経営システム科学専攻)
データ解析 品質経営 品質経営輪講 品質経営輪講
経営システム科学特別演習 経営システム科学特別研究I - V
トプレクチャー企画担当
(経営・政策科学研究科: 大塚地区, 企業科学専攻)
品質経営総論 環境経営論 システムズ・マネジメント特別演習
同講究 -
- 赤根谷 達雄 (国際総合学類)

国際関係概論 世界システム論
国際学ゼミナールI 国際学ゼミナールII
(国際政治経済学研究科)
国際政治学 国際政治学演習

生田 誠三

(社会工学類)
生産管理
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経営演習 生産管理論
(社会工学研究科)
生産計画論特講

岩城 秀樹

(経営・政策科学研究科: 大塚地区)
ファイナンス工学 ファイナンス工学輪講 , ,

大澤 幸生

(経営・政策科学研究科: 大塚地区)
計算機科学基礎2 情報システム論 予兆発見論 経営システム特論

大澤 義明

(社会工学類)
都市・地域・環境を探る 代数学 都市計画数理
都市計画実習 都市計画事例講義および演習
(環境科学研究科)
都市経営論 情報処理法
(社会工学研究科)
都市・地域解析学演習

太田 充

(社会工学類)
経済立地論 地域科学演習
図学・測量学 社会工学情報処理実習1
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
シミュレーション実習 都市地域計画
(社会工学研究科)
地域科学特講

小場瀬 令二

(社会工学類)
住宅地計画 都市計画実習
図学・測量学 都市・地域・環境を探る
(環境科学研究科)
住環境計画論
(社会工学研究科)
都市環境・景観論特講

梶井 厚志

(社会工学類)
経済学原論 社会工学概論及び実習 組織と情報の経済学
経済学入門

金澤 雄一郎

(社会工学類)
応用統計学
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
基礎統計、データ解析
(社会工学研究科)
統計学特講I、統計学特講II

岸本 直樹

(社会工学類)
財務管理 Intro MSE フレッシュマンセミナー

- (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
財務管理論
- (社会工学研究科)
デリバティブズ論
- 金 顕哲 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
マーケティング
- (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
流通論 流通組織 組織マーケティング 経営学基礎
経営システム科学特別研究 流通論輪講
- 久野 章子 (社会工学類)
問題発見とモデル化 代数学
数理計画 経営工学実習
- (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
数理計画実習
- (社会工学研究科)
数理計画特講
- 久野 靖 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
計算機ソフトウェア 計算機プログラミング輪講
計算機プログラミング輪講 計算機システム
ヒューマンインタフェース
- Henrich R. Greve (社会工学類)
行動科学概論 組織行動論
- (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
組織と戦略
- (社会工学研究科)
マクロ組織論特講
- 猿渡 康文 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
数学基礎 計画数理 生産システム 計画数理輪講I
計画数理輪講II 計画数理輪講III 最適化理論
ロジスティクス
- 庄司 功 (社会工学類)
計量時系列分析 統計学
- (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
計量経済学
- (社会工学研究科)
計量時系列解析
- 徐 華 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
システムズアプローチ ゲーム理論 社会システム制御論
社会システム制御論輪講I、II、III
- 高橋 正文 (社会工学類)
社会経済実習
- (社会工学研究科)
計量経済学演習
- 竹村 和久 (社会工学類)
問題発見とモデル化 マーケティング
- (経営・政策科学研究科: 筑波地区)

- マーケティング
(社会工学研究科)
消費者行動論
- 張 勇兵 (社会工学類)
情報基礎及び実習 社会工学情報処理実習 経営情報システム演習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
シミュレーション
(社会工学研究科)
情報ネットワーク
- 鄭 小平 (社会工学類)
地域開発政策 社会工学情報処理実習3 地域科学演習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
地域計量分析
(社会工学研究科)
都市経済学演習
- 津田 和彦 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
プログラミング基礎 ヒューマン・コンピュータ・インタラクション
ヒューマン・コンピュータ・インタラクション輪講
ヒューマン・コンピュータ・インタラクション輪講
ビジネスゲーム
(社会工学研究科)
消費者行動論
- 椿 広計 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
統計モデル 多変量解析第1 多変量解析第2
統計モデル輪講 、 、
- 永井 裕久 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
経営学基礎 組織行動 人材開発 経営システム科学特別研究
組織行動輪講
(社会工学研究科)
人材開発論 企業の組織管理と法
システムズマネジメント特別講究
- 野上 佳子 (社会工学類)
数理統計学I 数理統計学II
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
統計解析
(社会工学研究科)
統計的決定論
- 平瀬 チヅル (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
マーケティング マーケティング輪講
マーケティング輪講 経営学基礎
消費者行動 特別演習
特別研究 ~X 消費者行動論
経営システム科学 システムズ・マネジメント講究
- 古川 俊一 (社会工学類)
地方行財政論 社会システム論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
地方行財政論 公共政策評価論
(社会工学研究科)

比較行政論特講

- 松井 彰彦 (社会工学類)
組織と情報の経済学 経済学原論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
ミクロ経済学
(社会工学研究科)
理論経済学演習
- 安田 八十五 (社会工学類)
都市計画実習 環境政策
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
政策科学特講VI (政策シミュレーション)
(環境科学研究科)
社会環境システム論 環境政策学実習 環境科学
環境科学実習 資源エネルギー環境論
(社会工学研究科)
環境経済政策学特講 環境経済政策学演習
- 横張 真 (社会工学類)
地域資源計画 Introduction to Urban and Regional Planning
都市計画実習
(環境科学研究科)
地域環境共生論 環境計画実習
- 吉田 雅敏 (社会工学類)
財政学 経済学原論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
租税分析 経済政策演習
(社会工学研究科)
財政学特講
- 渡辺 俊 (社会工学類)
社会工学情報処理実習3 都市計画実習
都市施設計画 都市デザイン演習
(環境科学研究科)
環境デザイン論 環境計画実習
(社会工学研究科)
地理情報システム演習
- アイベド ヘンリー (社会工学類)
生産システム論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
生産・プロジェクト計画論 経営演習
- 石井 健一 (社会工学類)
社会調査法及び実習 社会経済実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
社会調査論
コミュニケーション論
- イリチュ 美佳 (社会工学類)
社会工学情報処理実習 多変量解析
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
多変量解析 シミュレーション実習

- (社会工学研究科)
モデル分析
- 祝迫 得夫 (社会工学類)
金融論 社会工学概論及び実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
金融分析 多変量解析実習
(社会工学研究科)
均衡資産価格論
- 宇井 貴志 (社会工学類)
代数学 経済学入門 企業戦略と産業組織 社会工学概論
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
産業労働演習 I
- 上田 貴子 (社会工学類)
社会工学情報処理実習 2 社会経済実習 開発経済学
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経済発生論 産業労働演習 II
- 大江 麻衣子 (社会工学類)
代数学 数理計画
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
基礎数学 離散最適化
(社会工学研究科)
離散システム論
- 岡本 直久 (社会工学類)
都市データ分析 地域科学演習 都市計画実習
情報基礎及び実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
交通システム計画
- 加藤 毅 (経営・政策科学研究科: 大塚地区)
非営利セクターの社会経済学
- 姜 晟振 (国際総合学類)
The Introduction to International Relations,
International Economics, International Trade,
Multinational Enterprises, Seminar I, II
- 川邊 みどり (社会工学類)
地域科学演習
(環境科学研究科)
環境総合評価論 環境政策評価論 環境科学実習
- 鈴木 勉 (社会工学類)
統計学 都市計画実習
立地解析
情報基礎及び実習
(環境科学研究科)
統計処理法 環境計画実習
(社会工学研究科)
都市成長管理論演習

- 鈴木 秀男 (社会工学類)
 応用確率論 経営工学実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 品質管理 社会工学概論及び実習
 (社会工学研究科)
 統計解析
- 曾根 昭夫 (社会工学類)
 社会調査法及び実習 都市データ分析
 地域科学演習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 情報科学演習 公共政策評価論
- Stephen John Turnbull (社会工学類)
 ミクロ経済学 経済動学 社会経済実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 産業労働演習
 (社会工学研究科)
 情報経済システム特講
- 竹原 均 (社会工学類)
 財務管理 経営工学実習
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 多変量解析実習
 (社会工学研究科)
 ファイナンス工学
 (総合科目他)
 経済学入門
- 豊谷 整克 (社会工学類)
 代数学 公共経済学 ミクロ経済学
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)
 ゲーム理論
 (社会工学研究科)
 公共経済学特講
- 藤川 昌樹 (社会工学類)
 都市計画入門 緑地・景観計画 都市計画実習
 (環境科学研究科)
 環境計画史 環境計画実習
 (社会工学研究科)
 都市居住環境史演習
- 古屋 秀樹 (社会工学類)
 交通システム分析 図学・測量学
 総合科目(都市・地域・環境を探る)
 都市計画実習Ⅲ 社会工学情報処理実習Ⅱ
 (環境科学研究科)
 交通計画論 環境計画実習
 (社会工学研究科)
 交通計画演習
- Ying Mlao (社会工学類)
 統計学
 (経営・政策科学研究科: 筑波地区)

実験計画法 経営工学演習I

- 吉田 友彦 (社会学類)
社会学概論及び実習 都市計画実習 都市計画実習
(日本語・日本事情編成科目)
一般日本事情
- 吉野 邦彦 (社会学類)
社会学概論及び実習 都市計画実習 環境解析
(環境科学研究科)
環境科学実習 環境情報調査表現法
環境アセスメント リモートセンシング
(社会学研究科)
地域環境影響評価論演習
- 渡辺 真一郎 (社会学類)
経営組織論 社会調査・実習
(経営・政策科学研究科: 筑波地区)
経営組織論
(社会学研究科)
組織科学

IV 研究活動

IV 1 科学研究費補助金・受託研究・学内プロジェクト

----- 科学研究費補助金 -----

[基盤研究(A)(1)]

金融資本市場の市場リスク、信用リスク、流動性リスクの新しい計測手法に関する研究

(代表者 高橋 正文)

貿易および経済発展に伴う地球規模環境リスクへの事前対応政策に関する総合的研究

(代表者 池田 三郎)

[基盤研究(A)(2)]

移行経済における分配と制度的要因に関する比較研究

(代表者 細野 昭雄)

[基盤研究(B)(2)]

社会構造の変動に対応した地域公共サービス施設の再編成に関する計画的 research

(代表者 谷村 秀彦)

地価下落、少子高齢化車社会における大都市周辺地域の土地利用の将来像

(代表者 大村 謙二郎)

東アジア伝統的都市の現代化における空間制御技術に関する研究

(代表者 谷村 秀彦)

高度職業人養成のためのビジネス教育ツールの開発

(代表者 鈴木 久敏)

[基盤研究(C)(2)]

組織行動論の分析単位の拡張(ワークからワーク ファミリー間インターフェースへ)

(代表者 渡辺 真一郎)

衛星画像データによる水稻品種判別に基づく米の反収量推定

(代表者 吉野 邦彦)

個人経験と個人の社会観の形成

(代表者 金子 守)

外航定期船産業におけるグローバル・アライアンス及び海運同盟の経済評価と今後の政策

(代表者 土井 正幸)

日本企業関連の国際的買収、合併、合弁、全額出資の実証的・理論的研究

(代表者 星野 靖雄)

最適立地問題の均衡解の存在とその応用

(代表者 岸本 一男)

トランスポーテーションギャップモデルを用いた公共交通の成立性に関する研究

(代表者 石田 東生)

非凸数理計画問題の大域的最適化法の研究

(代表者 山本 芳嗣)

経済・生態システムの自己組織化と秩序形成に関する遺伝的行動モデルの研究

(代表者 池田 三郎)

高層建築群の移動時間から見たコンパクト性に関する研究

(代表者 腰塚 武志)

状況依存的な判断と意思決定の実験研究とその計量モデル・数理モデル・
表現定理の解明

(代表者 竹村 和久)

高齢者医療の部分的定額制導入と医療セクター及びマクロ経済システムへの影響

(代表者 山田 直志)

統合情報システムを利用したビジネスプロセスの時間特性分析法

(代表者 佐藤 亮)

代数曲線を用いた組合せ的配列やブロック・デザインの構成に関する研究

(代表者 藤原 良叔)

シームレス情報通信網の設計と性能評価のための通信トラヒック解析

(代表者 高木 英明)

データマイニングの数理モデル構築と確率感度解析

(代表者 香田 正人)

創発的計算と機械学習理論による情報熱ネットワーク社会モデルへの接近

(代表者 寺野 隆雄)

BO T方式による発展途上地域における広域インフラストラクチャー整備に関する研
究

(代表者 鈴木 久敏)

事業部の資金管理と事業部賃借対照表の関係に関する実証研究

(代表者 小倉 昇)

動的ゲーム理論とマネジメントサイエンスへの応用に関する研究

(代表者 徐 華)

[奨励研究(A)(2)]

金融市場における情報の影響と経済効果の理論的研究

(代表者 梶井 厚志)

都市内情報流動を考慮した空間構造の自己組織化

(代表者 太田 充)

地方都市における基盤整備事業別住宅フローの立地に関する研究

(代表者 吉田 友彦)

寺院を中核とした宗教都市における子院の成立・集合過程に関する研究

(代表者 藤川 昌樹)

線形計画問題に対する新しい非内点法型逐次反復解法の開発

(代表者 久野(吉瀬) 章子)

人口変動下での施設配置モデルの構築と都心域における学校統廃合計画立案への応用

(代表者 鈴木 勉)

日本の都市システムの構造と最適化に関する実証的政策研究

(代表者 鄭 小平)

企業年金及び投資信託の運用評価手法の開発

(代表者 竹原 均)

プライシングなどによる交通流動の変化を考慮した環境影響の算出に関する
方法論的研究

(代表者 古屋 秀樹)

ブートストラップ法を用いた品質管理・マーケティング手法に関する研究

(代表者 鈴木 秀男)

グラフ構造を有する組合最適化問題に関する並列解法の構築

(代表者 猿渡 康文)

大学等における若手研究者の養成に関する政策研究

(代表者 加藤 毅)

L o r g e D e v i a t i o nを用いた情報通信システムの性能

(代表者 牧本 直樹)

[萌芽的研究]

社内分社制のもとでの社内資本金制度と社内金利制度に関する研究

(代表者 門田 安弘)

都市計画における時空間自由度の大きさとその影響に関する研究

(代表者 大澤 義明)

大学と産業界の研究連携システムと技術移転に関する実証的研究

(代表者 菊本 虔)

----- 受託研究 -----

家電ネットワークの規格化に関する研究

（代表者 藤原 良叔）

社会システムシミュレーションの研究

（代表者 寺野 隆雄）

都市交通予測モデルの開発と環境影響の費用予測

（代表者 石田 東生）

火山灰災害の影響評価とリスクマネジメント

（代表者 熊谷良雄）

地球環境リスク管理にかかるコミュニケーションと対策決定過程に関する研究

（代表者 池田 三郎）

室内汚染防止のための屋外環境整備計画策定技術開発

（代表者 大村 謙二郎）

TDMが交通流動に与える影響・効果の予測手法に関する研究

（代表者 石田東生）

大規模破壊実験における人体被災計測手法の開発

（代表者 熊谷良雄）

----- 学内プロジェクト -----

[特別助成研究 (S)]

ワーク - ファミリー間インターフェースが人間行動に及ぼす効果に関する研究
(代表者 渡辺 真一郎)

[助成研究 (B)]

金融危機の発生および連鎖についての理論的研究
(代表者 宇井貴志)

土地利用混在地域における連続的な景観体験の評価に関する研究
(代表者 横張 真)

医療と経済政策の効果の推定
(代表者 李明宰)

無視できない欠損値問題の階層的ログリニアモデルとベイズ統計学を用いた解決と応用
(代表者 金澤雄一郎)

日本型営業の本質について：営業部門の情報化への分析を通じて
(代表者 金顕哲)

[奨励研究]

観光行動の便益計測方法に関する基礎的研究
(代表者 岡本直久)

開発途上社会における持続可能な開発
(代表者 モンデェ・オヒ・アシシア)

krigeの劣モジュラ関数と関連する多面体についての考察
(代表者 安藤和敏)

動的クラスタリングモデルの開発と応用
(代表者 イリチュ(佐藤)美佳)

企業年金及び投資信託の運用評価手法の開発
(代表者 竹原 均)

[奨励研究 準研究員]

都市部における避難距離に関する調査および分析
(代表者 石井儀光)

[実地調査等研究]

本州地区石造アーチ橋の現況調査

(代表者 大澤義明)

IV 2 ファカルティ・セミナー

年月日	報告者	所属	テーマ
1 11.4.15	高安 秀樹 (金子)	ソニー コンピュータサイエンス研究所	経済現象への物理学的なアプローチ
2 11.4.21	近藤 文代 (香田)	総合研究大学院大学	POSデータ分析における時系列モデルアプローチ
3 11.4.21	繆 宝 (香田)	筑波大学 社会工学系	Uses and Constructions of Resolvable Balanced Incomplete Block Designs
4 11.4.22	川越 敏司 (梶井)	埼玉大学 経済学部	The Free-Rider Problem in Corporate Takeovers: Evidence from Laboratory Markets
5 11.4.23	速水 祐次郎 (黒田)	青山学院大学国際政治経済学部	INCOME GROWTH AND DISTRIBUTIONAL CHANGE IN A PHILIPPINE VILLAGE IN THE THREE DECADES OF GREEN REVOLUTION
6 11.5.7	増田 靖 (山本)	慶應義塾大学理工学部管理工学科	Braess's Paradox and Capacity Management in Decentralized Networks
7 11.5.13	Stephen Turnbull (梶井)	社会工学系 講師	
8 11.5.20	茂見 岳志 (梶井)	東京大学大学院経済学研究科	Non-Existence of Equilibrium in An Incomplete Stock Market Economy
9 11.5.28	今井 弘之 (黒田)	Lingnan College, Hong Kong	The Labor Income Tax Equivalent of Price Scissors in Pre-Reform China
10 11.6.28	奥村 綱夫 (太田)	ノースウェスタン大学大学院経済学研究科	On Money as a Signal
11 11.5.27	中村 豊 (梶井)	筑波大学 社会工学系 助教授	Probabilistic Sophistication and Nonmonotonic Preferences
12 11.6.4	Dr. Richard Arnott (土井)	Department of Economics, Boston College	Urban Road and Rail: Second-Best Capacity and Pricing
13 11.6.10	山内 太 (祝迫)	京都大学経済研究所 講師	Social Learning and Investment in Human Capital: Evidence from Schooling Investments in India
14 11.6.3	グレーヴァ 香子 (梶井)	慶應義塾大学経済学部 助教授	Learning with Forward Looking Players
15 11.6.10	原 千秋 (梶井)	神戸大学経済経営研究所 助教授	Prices of the Market Portfolio in the CAPM with Incomplete Asset Markets
16 11.6.14	焼田 党 (吉田)	中京大学経済学部	Government and Economic Growth with Monopolistic Competition
17 11.6.17	豊谷 整克 (梶井)	筑波大学 社会工学系 講師	Implementation by Self-Relevant Mechanisms
18 11.7.7	松井 知己 (山本)	東京大学大学院工学系研究科助教授	重み付き多数決ゲームにおける投票力指数の計算について
19 11.7.9	中川 浩宣 (祝迫)	一橋大学経済研究所 助手	Real Exchange Rates and Net Foreign Asset Positions: A Reconsideration of the Balassa-Samuelson Hypothesis
20 11.6.22	松井 知己 (梶井)	デューク大学 準教授	General Equilibria Large Economies with Transaction Costs and Specialization and Division of Labor
21 11.6.24	大浦 博子 (梶井)	東京大学大学院経済学研究科大学院生	Imperfect Information and Endogenous Capital Flight
22 11.7.15	武藤 功 (金子)	防衛大学校 社会科学教室 助教授	Cournots Economics and the Tradition of Social Mathematics
23 11.7.22	中止		

24	11.7.9	有村 俊秀 (豊谷)	ミネソタ大学経済学 部大学院生	A Competitive Dynamic Model of Coal Plants under the SO Allowance Market
25	11.8.26	江口 匡太 (太田)	東京大学 経済学部 助手	Unions, Job Security, and Incentives of Warkers
26	11.9.1	足立 基洗 (土井)	和歌山大学 経済学 部 講師	Agricultural Land Conversion and inheritance tax in Japan
27	11.9.9	神取 道宏 (梶井)	東京大学 経済学部 助教授	Aggregate demand fluctuations in search equilibrium
28	11.9.27	東郷 賢 (祝迫)	武蔵大学経済学部	地域所得収束仮説と経済成長メカニズム
29	11.9.9	Alfred Taudes (佐藤)	ウィーン経済大学教 授	Organizational Learning
30	11.10.2 9	戸堂康之 (黒田)	スタンフォード大学 経済学部 大学院生	Technology Diffusion and Scale Effects in an Endogenous Growth Model
31	11.9.30	室田 一雄 (金子)	京都大学数理解析研 究所 教授	M-convex Functions and Economies with Indivisibilities
32	11.10.7	松島 斉 (梶井)	東京大学経済学部 助教授	The Role of Mobility among Regions in Coordination
33	11.10.1	藤井 聡 (竹村)	京都大学工学部 助 手	Contingent Focus Model of Decision Framing under Risk
34	11.9.27	清水 剛 (松田)	東京大学大学院経済 学研究科大学院生	20世紀後半の日本企業の『寿命』に関する計量分 析
35	11.11.2 5	植田 健一 (梶井)	シカゴ大学経済学研 究科	Increasing Returns, Long-Run Growth and Financial Intermediation
36	11.10.2 1	松原 聖 (祝迫)	オハイオ州立大学経 済学部	"Labor Market Effects of International Trade and Technological Change"
37	11.11.1 1	Anjan Mukherji (豊谷)	Jawaharlal Nehru 大 学	The Robustness of Closed Orbits in a Class of Dynamic Economic Models
38	11.11.1 8	宇井 貴志 (豊谷)	筑波大学社会工学系 講師	Contagious Financial Crises
39	11.11.8	平木 多賀人 (大西)	国際大学大学院国際 経営学研究科 教 授	The Japanese Open-End Fund Puzzle
40	11.12.1 6	木嶋 恭一 (佐藤)	東京工業大学 社会 理工学研究科 教授	Poly-agent Systems Theory and its Models
41	11.12.2	市石 達郎 (金子)	Ohio State University 教授	JOB MATCHING: A MULTI-PRINCIPAL, MULTI-AGENT MODEL
42	11.12.2 2	小野 理恵 (山本)	富山大学 経済学部 助教授	日本の連立政権と安定性
43	11.12.7	松尾 博文 (香田)	筑波大学社会工学系 教授	A Framework for Analysing Supply Chains
44		中止		
45	11.12.14	香田 正人 (松尾)	筑波大学社会工学系 教授	An Overview of Data Mining Technology and Its Applications
46	12.1.27	中野 純司 (香田)	統計数理研究所 教 授	統計学とデータマイニングに関する私見
47	12.1.20	秋山 英三 (金子)	慶応大学 理工学部 助手	Dinamical Systems Game
48	12.1.27	佐柄 信純 (梶井)	明海大学 経済学部 講師	Convergence of Learning Process with Unknown Probability Distributions: A Maximum Likelihood Approach

49	12.1.13	井上 正 (金子)	筑波大学 系 教授	社会科学	On the Global Stability , Dynamic Trade Patterns and Asset Dept Positions of the Two Good Endogenous Growth Model with Adjustment Costs of Educational Investment
50	12.1.18	鈴木 秀男 (松尾)	筑波大学 系 講師	社会工学	Statistical Model Selection and it ' s Application
51	12.2.3	広川 みどり (梶井)	法政大学 教授	経済学部	Formation of Communities by Natives and Newcomers
52	12.2.8	阿部 誠 (松尾)	東京大学 助教授	経済学部	ノンパラメトリック効用関数を使ったロジットモデル
53	12.1.25	吉瀬 章子 (松尾)	筑波大学 系 助教授	社会工学	How can we solve "linear" programs using "nonlinear" functions?
54	12.2.1	近藤 文代 (松尾)	筑波大学 系 講師	社会工学	Business and Research around POS Data
55	12.2.17	寺尾 建 (梶井)	北九州大学 部 助教授	経済学	On the Notion of Underemployment Equilibrium
56	12.3.23	谷村 秀彦・趙 時 (坂本)	筑波大学社会工学系 教授・清華大学建築学北京四合院住区の現代化と再生 院教授		
57	12.3.29	Kim Swales (土井)	筑波大学 類 外国人教師	社会工学	A Regional Computable General Equilibrium Analysis of the Demand and "Eficiency Spillover" Effects of Direct Investment
58	12.3.29	C. R. Pathak (土井)	Indian Institute of Technology, Kharaghapur , Professor		"Sustainable Development in South Asia(SAARC) Countries"

IV 3 研究出版物

1999年度 DP(Discussion Paper Series)一覧表

- No. 817 Tetsuji Yamada and Tadashi Yamada,
“ TRANSITION FROM FEE-FOR-SERVICE TO PROSPECTIVE PAYMENT SYSTEM:HOSPITAL SERVICES UNDER NATIONAL HEALTH INSURANCE SYSTEM ” , (April 1999)
- No. 818 山田直志,
“ 高齢者の在宅介護費用の計量経済学的分析 ” , (April 1999)
- No. 819 山田直志,
“ 一般病院と老人病院の効率性の比較：フロンティア生産関数 ” , (April 1999)
- No. 820 Atsuko Ueda,
“ Intrafamily Time Allocation of Housework: Evidence from Japan ” , (March 1999)
- No. 821 Toshiaki Koide,
“ Dislike for Inflation Creates Endogenous Price Fluctuations: An Analysis under a Logarithmic Utility Function ” , (May 1999)
- No. 822 Atsushi Fujii,
“ Determinants and Probability Distribution of Inefficiency in the Stochastic Cost Frontier of Japanese Hospitals ” , (May 1999)
- No. 823 Atsushi Fujii,
“ Cost Analysis of Japanese Municipal Hospitals:Cross-Section Data in1992 Fiscal Year ” , (May 1999)
- No. 824 Yoshitsugu Kitazawa,
“ Estimation of Persistence in Log Volatility under Panel Data Model Specification ” , (June 1999)
- No. 825 Kazuhisa Takemura and Marcus Selart,
“ Decision making with information search constraints: An analysis of information search pattern and perceived inner states ” , (June 1999)
- No. 826 Tadashi Yamada and Tetsuji Yamada,Seiritsu Ogura,and Reiko Suzuki,
“ Technical Efficiency of Production in Hospitals in Japan ” , (July 1999)
- No. 827 Akihiro Hashimoto,
“ Proposing non-uniform evaluation in social systems analysis ” , (July 1999)
- No. 828 Mamoru Kaneko and Nobu-Yuki Suzuki,
“ Epistemic Models of Shallow Depths and Decision Making in Games ” , (August 1999)

- No. 829 野上佳子,
 “ 縮み型分布族と、それに、含まれる母数の、推測問題
 (Statistical Inference under a Family of Retreated (or Retracted)(*)
 Distributions) ” , (August 1999)
- No. 830 Kazutoshi Ando,
 “ The Greedy Algorithm for a Class of Lattice Polyhedra and its Consequences ” ,
 (August 1999)
- No. 831 Yutaka Nakamura,
 “ Real Interval Representations ” , (August 1999)
- No. 832 Yuji Honjo,
 “ Do venture businesses really wish to go public? An empirical analysis ” , (August
 1999)
- No. 833 Yutaka Nakamura,
 “ Additive Utilities on Densely Ordered Sets ” , (August 1999)
- No. 834 石井健一,
 “ 「台湾における日本流行文化と消費行動」報告書 ” , (September 1999)
- No. 835 LEE, Sang-Gil and KANAZAWA, Yuichiro,
 “ Handling "Don't Know" Survey Responses:
 The case of Japanese Voters on Party Support ” , (October 1999)
- No. 836 Tsutomu Suzuki,
 “ Size-Density Hypothesis in p-Median Problems ” , (October 1999)
- No. 837 Sung Jin Kang and Yasuyuki Sawada,
 “ Financial Repression and External Openness in an Endogenous Growth Model ” ,
 (November 1999)
- No. 838 Tetsuji YAMADA, Tadashi YAMADA, Ratna KARMAKAR, and Gordon G. LIU,
 “ DETERMINANTS OF SOCIAL VIOLENCE AMONG THE YOUTH AND THEIR
 RISKY HEALTH BEHAVIORS:POLICY IMPLICATIONS ” , (November 1999)
- No. 839 Tetsuji Yamada, Tadashi Yamada, Chang-Gun Kim, and Haruko Noguchi,
 “ Medical Services and Imperfect Information in Japan ” , (November 1999)
- No. 840 Tadashi Sonoda,
 “ The Response of the Internal Prices in the Agricultural Household Model with
 Two Missing Markets ” , (November 1999)
- No. 841 Tadashi Sonoda,
 “ Price Response of Agricultural Households with Heterogeneous Types of Family
 Labor:A Structural Estimation for Japanese Rice Farmers ” , (November 1999)

- No. 842 Norikazu Kawasaki, Hideaki Takagi, Yutaka Takahashi, Sung-Jo Hong and Toshiharu Hasegawa,
 “ Waiting Time Analysis of MX/G/1 Queues with/without Vacations under Random Order of Service Discipline ” , (November 1999)
- No. 843 Norikazu Kawasaki, Hideaki Takagi, Yutaka Takahashi, Sung-Jo Hong and Toshiharu Hasegawa,
 “ Waiting Time Analysis for MX/G/1 Priority Queues with/without Vacations under Random Order of Service Discipline ” , (November 1999)
- No. 844 Wirat. Krasachat and Yoshimi Kuroda,
 “ Production Structure and Technical Change in Thai Agriculture, 1972-1994 ” , (November 1999)
- No. 845 Yoshiaki OHSAWA,
 “ Two-Dimensional Commodity Tax Competition ” , (December 1999)
- No. 846 石井健一,
 “ ホームページにみる情報発信の国際比較 ” , (December 1999)
- No. 847 Maiko Shigeno,
 “ Minimax Inverse Problems of Minimum Cuts ” , (December 1999)
- No. 848 Atuko Ueda,
 “ Marriage, Family Structure, and Time Spent on Housework in Japan ” , (December 1999)
- No. 849 Tadashi Yamada,
 “ The Demand for Health Check-up and Uncertainty ” , (January 2000)
- No. 850 尾鷲瑞穂 橋本昭洋,
 “ 都道府県ランキング再考 — 「新国民生活指標」を例に — ” , (January 2000)
- No. 851 Takashi Norimatsu and Hideaki Takagi,
 “ Performance Analysis of the IEEE 1394 Serial Bus Interface by a Simple Queueing Model ” , (January 2000)
- No. 852 Sung Jin Kang ,
 “ Relative Backwardness and Policy Determinants of Technological Catching Up ” , (February 2000)
- No. 853 Georges Dupret and Masato Koda,
 “ BOOTSTRAP RE-SAMPLING AND CROSS-VALIDATION FOR NEURAL NETWORK LEARNING ” , (March 2000)

- No. 854 Hsiao-chien Tsui,
“ Exchange rate, price behavior and market structures : a case of Taiwan ” , (March 2000)
- No. 855 Toshiaki Koide,
“ “ Dislike-for-Inflation Psychology ” and Endogenous Price Fluctuations Reconsidered ” , (March 2000)
- No. 817 Tetsuji Yamada and Tadashi Yamada,
“ TRANSITION FROM FEE-FOR-SERVICE TO PROSPECTIVE PAYMENT SYSTEM:HOSPITAL SERVICES UNDER NATIONAL HEALTH INSURANCE SYSTEM ” , (April 1999)
- No. 818 山田直志,
“ 高齢者の在宅介護費用の計量経済学的分析 ” , (April 1999)
- No. 819 山田直志,
“ 一般病院と老人病院の効率性の比較：フロンティア生産関数 ” , (April 1999)
- No. 820 Atsuko Ueda,
“ Intrafamily Time Allocation of Housework: Evidence from Japan ” , (March 1999)
- No. 821 Toshiaki Koide,
“ Dislike for Inflation Creates Endogenous Price Fluctuations: An Analysis under a Logarithmic Utility Function ” , (May 1999)
- No. 822 Atsushi Fujii,
“ Determinants and Probability Distribution of Inefficiency in the Stochastic Cost Frontier of Japanese Hospitals ” , (May 1999)
- No. 823 Atsushi Fujii,
“ Cost Analysis of Japanese Municipal Hospitals:Cross-Section Data in1992 Fiscal Year ” , (May 1999)

1999年度 RS(Reprint Series)一覽表

- No. 273 Mamoru KANEKO,
“ Common Knowledge Logic and Game Logic ”
reprinted from Journal of Symbolic Logic 64,1999, pp.685-700
- No. 274 Mamoru KANEKO,
“ Epistemic Considerations of Decision Making in Games ”
reprinted from Mathematical Social Sciences 38,1999, pp.105-137

V 各教官研究・教育活動

I . 研究活動**(1) 研究業績**

- 1) 化学物質のリスク管理と事前対応型アプロ - チの課題、用水と排水、第 41 巻第 1 号、20-26, 1999.
- 2) 長江下流域における土地利用変化の構造分析 - 二元配置モデルによる統計的分析 - 地理学評論、第72巻第9号、600-617, 1999.
- 3) 木材貿易と森林資源の持続可能な利用に関する考察、システム農学会誌、第16巻、第1号、53-61, 2000.
- 4) An Empirical Model of Land Use Change in China, RURDS (Applied Regional Science Conference), Vol. 12, No.1, 36-53, 2000.
- 5) Dual Decay Problem in Resource Management, Proceedings of 1st International Symposium on Trade and Environmental Risks in Regional and Global Systems, 24-36, Tokyo, March, 2000.
- 6) Risk Management across the Globe: Insights from a Comparative Look at Sweden, Japan and the United States, Risk Analysis, Vol. 20, No.2, 157-161, 2000.
- 7) リスク管理戦略の形成と予防原則、日本リスク研究学会誌、第12巻第1号、33-42、2000 .

(2) 学会活動

- 1) Society for Risk Analysis, Annual Meeting, Atlanta, USA, Dec. 1999.
Poster presentation: A Transfrontier Risk Profile and Multilateral Risk management Strategy in North-East Asia.
- 2) Open Meeting of The Human Dimensions of Global Environmental Change, Shonan Village, Japan, June, 1999. Papers presentation: Regional Concept of material Flow Analysis toward Sustainable World.
- 3) 異分野研究者交流フォーラム：実態把握に根差した環境問題の促え方、科学技術振興事業団、2000年3月、招待講演：予防原則と環境リスク管理
- 4) STS Network Japan (科学技術と社会) 春期シンポジウム、東京、2000年3月
招待講演：リスク管理政策の形成と予防原則
- 5) International Symposium on Risk and Governance, Society for Risk Analysis, Warrenton, VA, USA, June, 2000. Invited Speaker on The Future of Risk Analysis in Different Disciplines and Cultures.
- 6) 環境科学会理事 (1998 - 2000),
- 7) 日本リスク研究学会理事 (事務局長：1998-2000)
- 8) Associate Editor (Journal of Risk Research) (1998-2000)

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費：基盤研究 A (1), No.1135001 (研究代表者)
貿易および経済発展に伴う地球規模リスクへの事前対応政策に関する総合的研究
- 2) 文部省科学研究費：基盤研究 C (2) (研究代表者)
複雑系における秩序形成に関する遺伝行動モデル
- 3) 環境庁国立環境研究所 - 地球環境研究センター - 客員研究者
土地利用・被覆変化検討プロジェクト：検討委員会委員
- 4) 財団法人 製造科学技術センター -
インバ - スマニユファクチャリング研究プロジェクト：検討委員会委員

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類 3 年次クラス担当・学生委員会委員 (1999.4.1- 2000.3.31)
- 2) 社会工学系研究委員会委員 (1999.4.1- 2000.3.31)
- 3) 経営政策科学研究科修論委員会委員 (1999.4.1- 2000.3.31)
- 4) 社会工学研究科運営委員・論文審査委員 (1999.4.1- 2000.3.31)

. 社会的活動

- 1) 茨城県環境審議会委員、茨城県環境審議会霞ヶ浦専門部会委員

2) 環境庁中央環境審議会大気部会専門委員

石田 東生

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 再資源化施設・最終処分場の適正な立地に関する研究 - 地域の自立と連携によるリサイクル社会の構築に向けて - 、大成出版社、共著(分担)、1999年
- 2) Can Urban Transportation Cope? -Transportation Gap Modeling for Asian Cities: The Case of Metro Manila-、Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.3, No.2: Air, Water and Land Transportation, pp. 239-254, 共著(C. Montalbo Jr., H. Ishida)、1999年
- 3) The Effects of PI Activities of the Road Council on Road Policies and People's Responses、Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.3, No.3: Road and Physical Distribution, pp. 15-30, 共著(W. Matsuda, H. Ishida)、1999年
- 4) Multiple Individual Attribute Expansion Method for Person Trip Surveys、Journal of the
- 5) Eastern Asia Society for Transportation Studies, Vol.3, No.5: Intelligent Transportation System and Demand Analysis, pp. 347-360, 共著(M. Miura, H. Ishida)、1999年
- 6) People's Opinions and Road Policies: Effects of Public Involvement Activities by the Road Council in Japan、TRANSPOTATION RESEACH RECORD, No.1685, pp.103-112, 共著(H. Ishida, W. Matsuda, and C. Montalbo, Jr.) 筆頭、1999年
- 7) Drafting Japan's Mew 5-Year Road Improvement and Management Program: A New Approach、TRANSPOTATION RESEACH RECORD, No.1685, pp.144-155, 共著(S. Kikukawa, M. Yoshioka, M. Mori, H. Ishida)、1999年
- 8) Regional Comparison of Environment Impact of Car Usage in Japan、WORLD TRANSPORT RESEARCH: Proceedings of 8th World Conference on Transport Research, Vol.4: Transport Policy, pp. 241-253, 共著(T. Itoh, H. Ishida)、1999年
- 9) 領域形状が交通ネットワーク必要量に与える影響に関する数理的研究、日本都市計画学会学術研究論文集、No.34, pp.769-774, 共著(渡部・鈴木・石田・古屋)
- 10) プライシングが交通流動・汚染物質排出量に及ぼす影響分析、第23回日本道路会議一般論文集(A)、pp.38-39, 共著(古屋・金・石田)
- 11) メトロマニラにおけるジープニーの路線起終点での滞留行動に関する研究、土木計画学研究・論文集、No.16, pp.809-814, 共著(細見・石田・黒川)
- 12) 複数のCVサーベイに基づく地球温暖化の社会的費用原単位の試算 - 運輸部門における費用便益 分析への適用を念頭に - 、運輸政策研究、Vol.2, No.4, (通巻No.7), pp.2-12, 共著(岩倉・石田・林山・根橋・堀)、2000年

(2) 学会活動

- 1) アジア交通学会理事
- 2) 土木学会土木計画学研究委員会 交通調査技術研究小委員会委員長

(3) その他の研究活動

- 1) 科研基盤研究(c) トランスポーションギャップモデルを用いた公共交通の成立性に関する研究(研究代表者)
- 2) 科学技術庁戦略的基礎研究推進事業応募研究領域 「都市交通の環境負荷制御システムに関する基礎研究(研究代表者 学習院大学 岩田規久男教授)に研究分担者として参加
- 3) 奨学寄付金 「道路交通・都市計画に関する研究」 (株)公共計画研究所
- 4) 奨学寄付金 「道路行政の評価システムに関する研究」
- 5) (財)国土開発技術センター
- 6) 受託研究「都市交通予測モデルの開発」 科学技術振興事業団

. 教育・業務活動

- 1) 交通安全対策委員会副委員長
- 2) 社会工学系予算委員会委員長
- 3) 社会工学類入試実施委員会委員長

・社会的活動

- 1) 経済企画庁物価政策会議 特別委員
- 2) 建設省道路審議会 専門委員
- 3) 国土庁国土審議会 専門委員
- 4) 運輸省運輸技術審議会 特別委員
- 5) 茨城県総合計画審議会 専門委員
- 6) 茨城県環境審議会 委員

太田 誠

・研究活動

(1) 研究業績

- 1) "Stochastic Cost Frontier and Cost Inefficiency of Japanese Hospitals: A Panel Data Analysis," Applied Economics Letters, 1999, Vol. 6, pp. 527-532, jointly with A. Fujii.
- 2) "An Hedonic Analysis of the Rental Office Market in the Tokyo Central Business District: 1985-1994 Fiscal Years," The Japanese Economic Review, Vol. 51, No. 1, March 2000, pp.130-154, jointly with K. Nagai and Y. Kondo.
- 3) 「女性の就業継続の分析と公共政策－育児休業制度の影響を中心として－」未発表論文、2000年3月、木部力淑と共著

・教育・業務活動

- 1) 社会工学系運営委員
- 2) 社会工学研究科運営委員
- 3) 社会工学研究科論文審査委員
- 4) 中央図書館資料配置専門委員会委員
- 5) 学生個別指導（学類：3名、経営・政策科学研究科（修士）：3名、
 1. 社会工学研究科：7名（休学含む）

・社会的活動

- 1) 総務庁統計局物価指数研究会委員
- 2) 経済企画庁物価動向把握研究会委員

大谷 順彦

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) The envelope theory in a smooth constrained optimization problem with applications in economics, in Moore, J.C., R. Riezman, and J.R. Melvin, Trade, Theory and Econometrics: Essays in Honor of John S. Chipman, Routledge, 1999, 323-337.
- 2) The Structure and Limit Properties of Equilibrium Allocations of Lindahl Strategic Game (mimeo.) の修正 .

(3) その他の研究活動

- 1) カンサス大学経済学部セミナー報告(1998 . 10 . 28) : The Structure and Limit Properties of Equilibrium Allocations of Lindahl Strategic Game

・教育・業務活動

- 1) カンサス大学経済学部客員教授
 - Undergraduate: International Trade (Fall 1998, Spring 1999)
 - Ph.D.: Theory of International Trade (Fall 1998)
 - Ph.D.: Advanced Theory of International Finance (Spring 1999)

・社会的活動

- 1) 日本経済学会理事(1999年3月まで)

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 第6次定員モデルについて - - 町村分、第15次地方公共団体定員管理会報告書、自治省
- 2) A knowledge-based variable selection method for Box-Cox transformation (レフェリーから複雑過ぎるためフォロー出来ないのので易しく書き換えて下さいということでリヴァイズ中)
- 3) A knowledge-based variable selection method for regression analysis (revising)
- 4) 変数選択と関数形選択の問題を解決するボックス・コックス変換回帰の知的処理アルゴリズムの研究と知的統計システムO E P Pへの実装を行っている。完成すれば、実証研究・教育及び社会的貢献が大きいと思われる

(2) 学会活動

- 1) 経営・政策科学研究科長の要職を全うした。特に、東京大塚地区の夜間大学院経営・政策科学研究科の博士号と筑波地区の社会工学研究科の博士号の授与資格や審査基準・方法等の懸案を解決してきた。夜間大学院経営・政策科学研究科から4名の博士が出た
- 2) 学系では、社会経済専攻の総務を勤め、多くの教官人事を処理してきた
- 3) 社会工学類では、応用計量経済学を講義し、社会経済実習を教えると共に、世話人を勤めた
- 4) 経営・政策科学研究科では、経済予測論を講義した
- 5) 社会工学研究科では、計量経済学実習を教えた

. 社会的活動

- 1) 自治省の地方公共団体定員管理研究会で、独自開発した知的統計システムO E P Pを提供して定員モデルの作成に貢献し、地方公務員を相当数削減した。

大村 謙二郎

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 『分権社会と都市計画』「ドイツにおける都市計画の分権化」1999.9、ぎょうせい、単著(分担)285-299頁
- 2) 『都市計画の地方分権』「地方分権と都市計画の行方」1999.11、学芸出版社、共著(大村謙二郎・有田智一)14-35頁
- 3) 「市街化調整区域における大規模開発が周辺地域に与える影響」共著(北岡尚子、大村謙二郎)1999年10月『都市住宅学』第27号、pp.160-166
- 4) 都心混合市街地を通る幹線道路沿道とその周辺の土地利用変動に関する研究」共著(藤井さやか、大村謙二郎)1999年10月『都市住宅学』第27号、pp.167-174
- 5) 「形態規制と市街地整備に関する研究」共著(奥村希、大村謙二郎)1999年10月『都市住宅学』第27号、pp.49-54
- 6) 「生産緑地法改正後の市街化区域内農地の開発と問題点」共著(渡辺貴史、大村謙二郎)1999年11月『農村計画論文集』第1集、pp.241-246
- 7) 「育兒期にある共働き世帯の居住地選択からみた都市整備の方向性に関する基礎的研究」共著(小野尋子、大村謙二郎)1999年11月『都市計画論文集』
- 8) 「新しい街づくりにおける熱供給の役割」『熱供給』vol.36,1999 summer,単著,pp.3-5
- 9) 「既成市街地の活性化はエコロジカルな視点で」『公園緑地』Vol.60,No.3,Aug.1999、単著,pp.15-20
- 10) 「筑波研究学園都市の成果と展望：21世紀型モデル都市への脱皮に向けて」『宅地開発』1999.11
- 11) 「多様性に対応できるまちづくりを」『BC』1999年秋号Vol.52、単著、pp.5-8
- 12) 「環境に配慮した再開発の課題と展望」『再開発コーディネーター』2000年3月、第84号、単著、pp.32-35
- 13) 「街を「ネットワーク型」に再構築する」『City in City』2000年3月、Vol.12、鼎談、pp.3-8
- 14) 「ドイツのまちづくりと都市景観形成」『地域政策』Vol.36,2000 Winter,単著、pp.16-19

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会評議員
- 2) 都市住宅学会 常務理事

・教育・業務活動

- 1) 社会工学研究科長(99.4-)
- 2) システム情報工学研究科社会システム工学専攻長(2000.4-)
- 3) 学生生活審議会委員(2000.4-)

・社会的活動

- 1) 都市計画中央審議会専門委員(99.2-)
- 2) 茨城県開発審査会委員(95.4-)

小倉 昇

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 持株会社とカンパニー制の管理会計システム」『企業会計』第51巻第9号, 1999年 8 月 .
- 2) 「変化するコーポレート環境と企業評価 利益からキャッシュフローへ」『経理情報』、No.897,1999年10月.
- 3) 「公益事業の負荷平準化による利益管理」『管理会計学』第7巻 第1・2号, pp.3-21,1999年10月(榎尾博との共著) .
- 4) 「グループ経営と管理会計情報」『Business Research』、第908号,pp.30-34, 2000年 3 月 .
- 5) 「コーポレーションとアカウントビリティ」『オフィス・オートメーション』第89号,pp.52-5,2000年 3 月 .

(2) 学会活動

- 1) 日本管理会計学会 常務理事・学会誌編集委員
- 2) 日本原価計算研究学会 理事
- 3) オフィスオートメーション学会 理事・学会誌編集委員

・教育・業務活動

- 1) 教育担当委員

小田切 宏之

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) The Japanese Business System for Creation and Diffusion of Technological Knowledge: Time for Change? ”, Martin Hemmert and Christian Oberlaender [eds.] Technology and Innovation in Japan: Policy and Industry in the 1990s. London and New York: Routledge, 1998, 115-128.
- 2) 「日本のイノベーションと大学」小宮隆太郎・奥野正寛編『日本経済21世紀への課題』東洋経済新報社, 1998, 117-141.
- 3) Education as a Source of Network, Signal, or Nepotism: Managers and Engineers during Japan's Industrial Development, ” in W. Mark Fruin [ed.] Networks, Markets, and the Pacific Rim. Oxford: Oxford University Press, 1998, 141-153.
- 4) Appropriation of Returns from Technological Assets and the Values of Patents and R&D in Japanese High-Tech Firms, ” with Shoko Haneda, Economics of Innovation and New Technology, 7(4), 1998, 303-321.
- 5) 「企業結合に対する規制」後藤晃・鈴木興太郎編『日本の競争政策』東京大学出版会, 1999, 255-289.
- 6) 「利潤率格差の持続性は持続するか - 企業時系列データによる分析」丸山展弘と共著、『通産ジャーナル』1999年4月号, 66-71.
- 7) University-Industry collaborations in Japan: Facts and Interpretations, Presented at the Conference on 'Universities and Science-Based Industrial Development,' Harvard University, September 1998. To be published in a conference volume.

(2) 学会活動

- 1) Editorial Board Member, Economics of Innovation and New Technology.
- 2) いくつかの国際学術誌のレフェリーを勤めた。(Served as a referee in several international journals)

(3) その他の研究活動

- 1) 科学研究費・基盤研究(A)
「不完全競争下におけるマークアップと価格硬直性に関する総合的研究」(5大学より8名の研究者が参加)の研究代表者として総括にあたった。(Grant-in-Aid to the research project, 'Studies on Markups and Price Rigidities in Imperfectly Competitive Markets')

. 教育・業務活動

- 1) 研究指導(経営・政策科学研究科1名、社会工学研究科4名)
- 2) 筑波大学大学研究センター研究プロジェクト研究員
- 3) 青森公立大学、流通経済大学非常勤講師

. 社会的活動

- 1) 通商産業省通商産業研究所諮問委員および特別研究官
- 2) 労働省「持株会社労使関係懇談会」委員
- 3) 科学技術庁科学技術政策研究所機関評価委員
- 4) 公正取引委員会「今後の競争政策の国際的課題に関する研究会」委員長

金子 守

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Common knowledge logic and game logic. Journal of Symbolic Logic 64 (1999), 685--700.
- 2) Epistemic considerations of decision making in games. Mathematical Social Sciences 38 (1999), 105--137.
- 3) Utility theories in cooperative games, (with M. H. Wooders).
To appear in Handbook of Utility Theory.

II. 教育・業務活動

- 1) 微積分学、ゲーム理論、社経実習、ゲーム理論特講

河合 忠彦

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 学史学会招待発表「複雑適応系パラダイム：第三世代システム論」

(2) 学会活動

- 1) 組織学会大会委員

II. 教育・業務活動

- 1) 経営システム科学専攻で「経営学基礎」、「経営組織」、その他の科目を担当した。
- 2) 企業科学専攻で「企業と社会」、「企業倫理と法」その他の科目を担当した。
- 3) 経営システム科学専攻副研究科長を勤めた。

菊本 虔

. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 菊本、1999年2月、大学から産業界への技術移転、つくば技術シーズ解説集『中小企業における実用化可能性を探る』、(株)つくば研究支援センター、pp.5-8.
- 2) 菊本、1999年2月、大学における特許の意義、TARA NEWS, No.10, p.23.

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費(萌芽的研究) (研究代表者)
- 2) 大学と産業界の研究連携システムと技術移転に関する実証的研究
- 3) 文部省21世紀型産学連携手法の構築に係るモデル事業(研究代表者)
- 4) 社会的ニーズに立脚した新たな産学連携システムの構築に関する実証的研究
- 5) T A R A 研究プロジェクト(研究代表者) 「産・官・学」研究連携システムの構築のための実践的研究
- 6) (財) 松尾学術振興財団松尾研究会(研究代表者)
- 7) 産官学の連携推進の現状と課題、研究連携システムと技術移転の新しい方向、(株) 筑波リエゾン研究所及び(株) つくば研究支援センターとの共同研究
- 8) 大学等研究シーズの普及に関する実践的研究

・教育・業務活動

- 1) 先端学際領域研究センターリエゾン推進室長
- 2) 先端学際領域研究センター運営委員
- 3) 科学技術相談員
- 4) 研究審議会 T L O 関係検討ワーキング・グループ副座長
- 5) 研究審議会リエゾンのための研究センター設置検討委員会副委員長

・社会的活動

- 1) (財) 国際科学振興財団理事
- 2) (株) つくば研究支援センター大学等研究成果技術移転促進事業推進委員
- 3) 筑波研究学園都市研究機関等連絡協議会企画調整委員会委員

岸本 一男

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 朱文増、岸本一男：分散変動時系列データに基準化残差独立性検定を行うことの実証研究での利用可能性の計算機実験による検討--ARCH/GARCH モデルと SV モデルに対して--、経営財務研究双書、印刷中。
- 2) Kishimoto, K.: Spectral properties of the operators which appears in the GARCH(1,1) model, Book of Abstracts, ICIAM 99, Edinburg, Scotland, 5-9 July 1999, p.50.
- 3) Chu, W.T. and Kishimoto, K.: On empirical heteroskedastic properties of Japanese stock price changes, Proceedings of 9th International AFIR Colloquium, 24-27 August 1999, Tokyo, pp.131-150.

(2) 学会活動

- 1) 応用数理学会論文誌編集委員長
- 2) 日本応用数理学会理事
- 3) 日本電子情報通信学会査読委員
- 4) 第9回 AFIR (Actuarial Approach for Financial Risks) 国際会議学術委員
- 5) 日本アクチュアリー会100周年年次大会：パネル・ディスカッション、パネラー

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費(基盤研究(C) (2)) (代表)
最適立地問題の均衡解の存在とその応用

・教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科長
- 2) 留学生センター運営委員

・その他の活動

- 1) 経営科学OR用語大事典、朝倉書店、1999、分担翻訳。

・研究活動

(1) 研究業績

- 1) Economic Protection against Interregional Emergency by Forming a Private Market” (in revision process)
- 2) In the Optimal Timing of New Technology Adoption by the Firms from the Long-Term View points of a R&D Investor and a Follower under Licensing or Imitation (in revision process)

(3) その他の研究活動

- 1) TARA project with Masafumi Takahashi 擧 inancial Risk Management Research Project - Measuring and Integrating Market, Credit & Liquidity Risks” 「ファイナンシャル・エンジニアリング手法による金融・資本市場のリスク管理に関する総合的研究」

・教育・業務活動

- 1) 大学院博士課程長職併任

・社会的活動

- 1) 日本学術振興会審査会審査委員

・その他の活動

- 1) 「国際経済学術誌ランキング」平成11年5月 朝日新聞社出版企画局「大学ランキング2000」

熊谷 良雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 都市安全システムの機能と体制, '99. 6.30, 阪神・淡路大震災調査報告共通篇-3, (社)日本建築学会, 5 ~ 6 頁, 134 ~ 151頁, 219 ~ 232頁, 232 ~ 242頁, 339 ~ 351頁, 362 ~ 370頁, 456 ~ 467頁, 596 ~ 605頁
- 2) 防災まちづくりにおける住民消火への期待と課題 ~ 大規模地震時の同時多発火災への対応 ~, 東京消防 9 月号(通巻831号), '99. 9.10, (財)東京消防協会, 16 ~ 20頁
- 3) 消防活動情報管理システムの開発とその活用方策, 第 4 回都市直下地震災害総合シンポジウム論文集, '99.10.29, 文部省科学研究費補助金特定領域研究「都市直下地震」総括班, 347 ~ 350頁
- 4) 被災から復興へのシナリオをどう描けばよいか?, 第 4 回都市直下地震災害総合シンポジウム特別企画・公開パネル討議「震後学術研究と防災実務への貢献」 - ここまでわかった都市直下地震と防災シナリオ -, 文部省科学研究費補助金特定領域研究「都市直下地震」総括班, '99.10.29, 17 ~ 20頁
- 5) 火災延焼からみた木造密集市街地改善プログラムの評価手法とその適用性に関する研究, 地域安全学会論文集 1, '99.11., 地域安全学会, 57 ~ 62頁
- 6) 大都市震災時における避難所生活者からの物資要望に関する研究, 地域安全学会論文集 1, '99.11., 地域安全学会, 157 ~ 164頁
- 7) 平成10年 8 月末水戸市那珂川水害時における住民の災害情報の認知について, 地域安全学会梗概集 9(1999), '99.11, 地域安全学会, 18 ~ 21頁
- 8) 大都市震災時の徒歩帰宅者数の推計 - 東京都心部からの帰宅ルートに着目して -, 地域安全学会梗概集 9(1999), '99.11, 地域安全学会, 168 ~ 171頁
- 9) 町丁目を単位とした避難所要時間算定モデルの開発 - 東京区部の避難危険度測定のために -, 地域安全学会梗概集 9(1999), '99.11, 地域安全学会, 172 ~ 176頁
- 10) 個人属性から見た大都市震災時の救助・救出行動に関する分析, 地域安全学会梗概集 9(1999), '99.11, 地域安全学会, 186 ~ 189頁
- 11) 都市大火 - 状況と復興の概説 -, 建築防災263号, '99.12. 1, (財)日本建築防災協会, 2 ~ 5 頁
- 12) 安全・安心のまちづくり, 新時代の都市計画第 5 巻, '00. 2.29, (株)ぎょうせい, 290 ~ 310 頁
- 13) 阪神・淡路大震災以降の緊急対応への備え - 都道府県での地域防災計画の改訂と総合防災

訓練の改善 - , 都市問題第91巻第6号, '00.6, 東京市政調査会, 15~32頁

(2) 学会活動

- 1) (社)日本建築学会都市計画委員会都市防災システム小委員会主査
- 2) 地域安全学会会長

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費補助金重点領域研究「都市直下地震」計画研究“発災対応型都市情報管理システム”研究分担者
- 2) 受託研究：火山灰災害の影響評価及びリスクマネジメントの研究／通商産業省工業技術院地質調査所
- 3) 受託研究：大規模破壊実験における人体被災計測手法の開発／科学技術庁防災科学技術研究所

・教育・業務活動

- 1) 安全管理査察専門委員会委員
- 2) 防災対策委員会委員
- 3) 実験環境管理室運営委員会委員

・社会的活動

- 1) 東京都火災予防審議会委員
- 2) 第5回東京都地域危険度測定調査委員会委員('99.7.1~)
- 3) 中央防災会議大都市震災対策専門委員会委員('98.1~)
- 4) つくば市建築審査会会長('98.4~)
- 5) 震災対策国際総合検証事業国内検証委員('99.7~)

黒田 誼

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "Production Structure and Technical Change in Thai Agriculture, 1972-1994," Agricultural Economics under review.
- 2) "Impact of Rural Small and Medium Enterprises on Agriculture: A Sectoral Approach," DP No. 866, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, May, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 今年(2000)度も昨年度に引き続きJapanese Journal of Rural Economics 及び『農業経済研究』の編集委員長を務めている。

(3) その他の研究活動

- 1) Agricultural Economics, American Journal of Agricultural Economics, 及びJapanese Journal of Rural Economics の各1本の論文の査読を行った。
- 2) 多目的データバンク・プロジェクト」推進および管理・運営。

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類長
- 2) 卒業研究指導3人、経営・政策修論指導4人、社会工学研究科博士論文指導4人、大学院研究生2人
- 3) 経営・政策科学研究科のカリキュラム委員
- 4) 植物見本園委員会委員

・その他の活動

- 1) Faculty of Economics & Administration, University of MalayaのExternal Examiner として2000年も務めることになった。
- 2) 本(2000)年度もPECC(Pacific Economic Cooperation Conference-太平洋経済協力会議)日本委員会の食料・農業委員会のメンバーとして春に行われる年次会議に出席した。

香田 正人

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) G. Dupret and M. Koda, "Bootstrap Training for Neural Network Learning," 短期共同研究「確率数値解析における諸問題」、数理解析研究所講究録1127、pp. 27-35、京都大学数理解析研究所、平成12年1月。
- 2) G. Dupret and M. Koda, "Bootstrap Re-Sampling and Cross-Validation for Neural Network Learning," Discussion Paper Series, No. 853, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, March 2000. (Accepted for publication in the European Journal of Operational Research.)
- 3) M. Koda and H. Okano, "A New Stochastic Learning Algorithm for Neural Networks," Discussion Paper Series, No. 859, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, April 2000. (Accepted for publication in the Journal of Operations Research Society of Japan.)

(2) 学会活動

(A) 招待講演 (Invited Lectures)

- 1) M. Koda, "Bootstrap Training for Neural Networks," Watson KDD PIC Seminar Series, IBM T. J. Watson Research Center, New York, August 13, 1999.
- 2) M. Koda, "Status of Industrial Applications of Data Mining Technology in Japan," Management Technology Workshop, IBM GBIS Technology Center, Dallas, August 17, 1999.
- 3) 香田正人、"知識発見科学としてのデータマイニング" 応用統計学会 チュートリアルセミナー、「データマイニング」、pp. 5-14、統計数理研究所、東京、平成11年10月26日。
- 4) M. Koda, "Sensitivity Analysis in Data Mining," Department Seminar, Dept. of Experimental Science and Technology, Rey Juan Carlos University, Madrid, November 18, 1999.
- 5) M. Koda, "Stochastic Neural Network Formulation using SDE," Statistics and Operations Research Seminar Series, Pompeu Fabra University, Barcelona, November 22, 1999.
- 6) 香田正人、"データマイニングの産業応用の現状について(基調講演)" 「高度情報機器を用いた新たな実態調査手法の開発に関する研究」、(財)計量計画研究所交通研究室、東京、平成12年5月8日。

(B) 研究発表 (Conference Presentation)

- 1) G. Dupret and M. Koda, "Bootstrap Re-Sampling and Cross-Validation for Neural Network Learning," 応用統計学会データマイニング研究部会、中央大学、東京、平成12年6月12日。

(C) その他の学会活動 (Other Academic Activities)

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会評議員 (1998 . 5 - 2000 . 5)
- 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 40周年記念事業 企画・実行委員会委員
- 3) 1 - 2000 . 5)
- 4) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 40周年記念事業 国際ワーキング・グループ主査 (1999 . 4 -)
- 5) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 平成11年度秋季研究発表会、第2回APORS国際セッション・オーガナイザー、平成11年9月20日。

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類 4学年クラス担任
- 2) 社会工学類 就職委員
- 3) システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 博士論文審査委員会委員
- 4) システム情報工学研究科 社会システム工学専攻 運営委員会委員
- 5) 経営・政策科学研究科 博士論文審査委員会委員
- 6) 附属図書館 教育図書委員会委員 (経営・政策科学研究科)
- 7) 平成11年度筑波大学課長補佐級研修 講師、「管理者の役割」、平成11年10月25日。

. その他の活動

- 1) 研究評価者、(財)電力中央研究所情報研究所、平成12年6月14日。

腰塚 武志

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 移動からみた放射状と格子状ネットワークの比較, 1999.11 日本都市計画学会 平成11年度論文集, 単著, PP.763-768 .
- 2) 移動費用を最小にする職住分布モデル, 1999.11 日本都市計画学会平成11年度論文集, 共著 (2 人), pp.775-780 .
- 3) 都市空間 (不定形) における距離分布, 1999.9 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 共著 (3 人), pp.74-75.
- 4) 被災率を用いた避難施設の配置評価について, 1999.9 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 共著 (2 人), pp.84-85.
- 5) 非凸領域の流動量分布と部分領域を通過する流動量, 1999.9 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 共著 (2 人), pp.76-77.
- 6) ネットワークの流動量から見た集計誤差に関する考察, 1999.9 日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集, 共著 (2 人), pp.78-79.

(2) 学会活動

- 1) 都市計画学会理事 (情報委員会委員長), 日本OR学会評議委員, 形の科学会幹事委員として活動 .

・教育・業務活動

- 1) 社会工学系長 (~ 2000年3月)
- 2) 副学長 (2000年4月 ~)

近藤 文代

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Kondo, F. N. and Kitagawa, G. (2000), Time Series Analysis of Daily Scanner Sales -- Extraction of Trend, Day-of-Week Effect, and Price Promotion Effect --, Marketing Intelligence & Planning, Vol.18, No.2, pp.53 -66.
- 2) 近藤文代 (1999), 多変量時系列構造モデルの構築におけるAICの役割, 統計数理, 第47巻第2号, pp307-326.
- 3) Kitagawa, G., Higuchi, T. and Kondo, F. N. (1999), Smoothness Prior Approach to Explore the Mean Structure in Large Time Series Data, Lecture Notes in Artificial Intelligence 1721, Springer-Verlag, pp.230-241.

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類学生担当教官
- 2) 社会工学類図書委員
- 3) 経営・政策科学研究科総務 (パンフレット委員)

ネアントロ・サーヴェドラ・リヴァノ

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Sistemas Nacionales de Innovacio ' n (co-edited with Manuel Agosin), Dolmen Ediciones, Santiago de Chike, 1998

(2) 学会活動

- 1) XXI International Congress of the Latin American Studies Association (" Economic relations between Japan and Latin America in the new international environment "), Chicago, September 24-26, 1998
- 2) 4th Annual Meeting of the Japanese Consortium of APEC Study Centers (" Report on Activities of the Tsukuba University APEC Study Center "), Yokohama National University, Yokohama, December 4-5, 1998
- 3) Workshop on the APEC International Assessment Network, University of California, San Diego, January 28-30, 1999
- 4) Seminar on Challenges to Governance in Latin America and the Pacific Rim, University of

California, San Diego, March 4-6, 1999

- 5) International Symposium on National Innovation Systems (" Globalization of Japanese Enterprises "),University of Buenos Aires, Buenos Aires(Argentia), March 8-9, 1999
- 6) International Meeting of APEC Study Centers (" Cross Pacific Academic Cooperation in the Context of APEC "),University of Auckland(New Zealand), May 31-June 2,1999
- 7) Discussant at the Workshop on Peru and APEC, Institute of Developing Economies, Tokyo, June 11, 1999
- 8) 25th Pacific Trade and Development Conference, Kansai Economic Research Centre, Osaka, June 16-18,1999
- 9) Lecture at the Faculty and Economics and Business of Yokohma City University (" Integration Trends in the Pacific Rim "), Yokohama, June 24,1999

・教育・業務活動

- 1) 開発経済学 (国際政治経済学研究科、平成10年度2学期)
- 2) 経済分析2 (国際総合学類、平成10年度2学期)
- 3) 国際開発計画論 (国際総合学類、平成10年度3学期)
- 4) Director, Joint Japan/World Bank Graduate Scholarship Program(国際政治経済学研究)
- 5) Director, APEC Study Center(国際政治経済学研究)
- 6) Member, 運営委員 (国際政治経済研究)
- 7) Chairman, コンピュータ委員会 (国際政治経済学研究)
- 8) Member, 予算委員会 (社会工学系)

佐々木 康三

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「日本企業の対中国直接投資と経営状況に関する考察」(共著)『平成11年度多目的統計データバンク年報』No.76 別冊、1 49頁。

(2) 学会活動

- 1) 『農業経済研究』への投稿論文を査読。
- 2) 『日本農業経済学会論文集』への論文を3編査読。

(3) その他の研究活動

- 1) 平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(B)(1))「多様な食ベクトルを捉える需要分析の新展開」研究代表者

・教育・業務活動

- 1) 2年生クラス担任
- 2) 第3学群教員会議構成員
- 3) 学類学生委員会委員。

佐藤 亮

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Ryo Sato:Modeling and Simulation of Business-Logistics with Business Process Equation, Proceedings for 2000 AI, Simulation and Planning in High
- 2) Autonomy Systems, The Society for Computer Simulation International, pp259- -264, 2000.
- 3) Ryo Sato : Realization theory of discrete-event systems and its application
- 4) the uniqueness and universality of DEVS formalism, revised submission to Int. J. of General Systems, 2000.
- 5) Ryo Sato:Quick Iterative Process Prototyping:A Bridge over the Gap
- 6) between ERP and Business Process Engineering, Proceedings of the 2000 Pacific Asia Conference on Information Systems, Hong Kong, CD-ROM, 8 pages, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 佐藤亮：ERPやIS/ITを前提とするビジネスプロセス方法論，経営情報学会 1999年春季全国研究発表大会予稿集、pp175 - 198、1999.
 - 2) 佐藤亮：業務取引システムによる多品種少量組立ゲームの原理・ゲーミング・コンピュータシミュレーション、経営情報学会1999年秋季全国研究発表大会予稿集、pp163 - 166、1999.
 - 3) 佐藤亮：ビジネスプラントとERPへのシステム工学的アプローチ、システム情報部門シンポジウム1999講演論文集，計測自動制御学会，pp51 - 56、1999.
 - 4) 佐藤亮：階層システムとしてのビジネスプロセスと情報システム，経営情報学会 2000年春季全国研究発表大会予稿集、pp224 - 227、2000.
- (3) その他の研究活動
- 1) 文部省科学研究費補助金基盤研究(C)(2) 「統合情報システムを利用したビジネスプロセスの時間特性分析法」(研究代表者)

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類入試実施委員長、経営政策科学運営委員

・社会的活動

- 1) AIS 2002 (ポルトガル) 国際組織委員会委員

鈴木 久敏

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Understanding Your Business Through Home-Made Simulator Development, Developments in Business Simulation and Experiential Learning, Vol.26, pp.65-71 (1999)

(2) 学会(国際・国内) 活動等

- 1) 「売店の混雑解消 ～生協改造大作戦～」，日本オペレーションズ・リサーチ学会 秋季研究発表会アブストラクト集、pp.86-87 (1998) .
- 2) 「ゲームによる電力会社とガス会社の規制緩和後の負荷平準化戦略」，日本オペレーションズ・リサーチ学会秋季研究発表会アブストラクト集、pp.124-125 (1998) .
- 3) 「企業事例交流会：特集に当たって」，オペレーションズ・リサーチ 43(11) ,p.592(1998) .
- 4) Alexander Islands: GSSM Tiny Business Simulator on WWW," Developments in Business Simulation and Experiential Learning, Vol.26, pp.224-225 (1999)

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費補助金基盤研究(B)
「高度職業人養成のためのビジネス教育ツールの開発」(研究代表者) Development of Educational Tools for Professional Business Persons ”, Scientific Research Fund by Ministry of Education and Culture
- 2) 文部省科学研究費補助金基盤研究(B) (1)
「BOT方式による発展途上地域における広域インフラストラクチャー整備に関する研究」(研究代表者) A Study on BOT Financial Programs and Constructions of Global Infra-structure in Developing Countries ”, Scientific Research Fund by Ministry of Education and Culture

・教育・業務活動

- 1) 医療関係委員会委員
- 2) 大学研究センター：運営委員、外部評価実施委員会委員
- 3) 企画調査室委員
- 4) 衛星通信大学間ネットワーク事業実施委員会委員
- 5) 衛星通信大学間ネットワーク事業実施委員会大塚地区部会長
- 6) 修士課程委員会SCS事業等実施ワーキンググループ委員
- 7) 修士課程委員会夜間大学院ワーキンググループ委員
- 8) 経営・政策科学研究科経営システム科学専攻:出題委員
- 9) 修士(経営学)、修士(経営システム科学) 論文審査委員会委員

- 10) 経営・政策科学研究科企業科学専攻:運営委員、教育担当委員、出題委員
- 11) 博士(経営学)、博士(システムズ・マネジメント) 論文審査委員会委員
- 12) 大塚地区LAN委員会副委員長
- 13) 東京地区社会人大学院将来構想検討委員会委員長

社会的活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会：評議員、各種委員
- 2) 日本経営工学会：レフリー委員
- 3) 日本情報処理学会「数理モデルと問題解決」研究連絡会連絡委員
- 4) 経営工学関連学会協議会委員
- 5) 東海大学工学部非常勤講師(ロジスティック工学)

その他の活動

- 1) 「高度専門職業人養成の現状と展望～社会人大学院の現場から～」,筑波大学教育研究科カウンセリング専攻10周年記念公開講演会・シンポジウム講師, (1998)
- 2) 「高度専門職業人養成の現状と展望～社会人大学院の現場から～」,平成10年度筑波大学公開講演会・シンポジウム「ヒューマンサービスにおける社会人大学院の役割と展望 - カウンセリングとリハビリテーションの立場から - 」, pp.27-36(1998)
- 3) 「10年の歩み：設立に至るまでの経過(設立前史)」, 筑波大学夜間大学院創立10周年記念誌「新世紀を拓く」, pp.3-17 (1999)
- 4) 「夜間大学院の将来：将来構想について」, 筑波大学夜間大学院創立10周年記念誌「新世紀を拓く」, pp.95-99 (1999, 5月)

Robin E Sowden

Research Activities

- (1) TARA Project Research (Tsukuba Advanced Research Alliance)
 - 1) Collected information on the management of intellectual property rights (IPR) and technology transfer from universities to industry in Britain.
 - 2) Proposed a new TARA project, 'Technology transfer from universities to industry: Boundary-spanning in the pharmaceuticals manufacturing industry' that was approved for 3 years to commence on 1 April 1999. Hardware, software and reference books were ordered in preparation for the project. (Research collaborators include Nippon Glaxo, Hisamitsu Pharmaceuticals and Manchester University (UK)).
- (2) International Lecture
 - 1) Invited lecturer on 'International Scientific Liaison' for STA (Science and Technology Agency) Research Fellows at AIST International Centre (MITI, Tsukuba, 12 November 1998).
- (3) International TARA Workshops
 - 1) Developed with the Administration Section of TARA the procedures for the co-ordination of international TARA Workshops.
 - 2) Also, initiated and co-ordinated four international TARA Workshops:
 - TARA Workshop (part 1) on 'Managing Industry-Academic Links: A UK and European Perspective' by Dr Jeremy R L Howells, PREST, Manchester University, UK (TARA Centre, 2 July 1998).
 - TARA Workshop (part 2) on 'Managing University research for Commercial Exploitation' by Dr Malcolm G Cross, Business Development Manager, Technology Transfer Office, Newcastle University, UK (TARA Centre, 2 July 1998).
 - TARA Workshop on 'Entrepreneurship in the United Kingdom' by Mr Paul Lynch, First Secretary (Science and Technology), British Embassy, Tokyo (TARA Centre, 16 February 1999).
 - TARA Workshop on 'Academic Research and Industrial Innovation in the United Kingdom (UK)' by Sir Peter Williams, Chairman of PPARC (UK Particle Physics and Astronomy Research Council) and Chairman of Oxford Instruments plc (TARA Centre, 8 March 1999).
- (3) International Promotion of TARA

- 1) Assisted Professor Naomichi Furukawa, Director of TARA, in receiving, briefing and following up relevant requests of senior visitors to TARA:
 - High-level 22-person visit by the Foundation for Science and Technology (UK) to Tsukuba University and TARA in the context of 'Festival UK98', led by Lord Jenkin of Roding and accompanied by Dr Brendan Barker (British Council) and Mr Osaki (Director-General of JSPS). Initiated the visit. Sponsored by JSPS / British Council. (21 April 1998).
 - Dr Michael Norton, Science and Technology Counsellor, British Embassy. Initiated by the undersigned. (17 November 1998).
 - Dr Koto White, Director of US Air Force Office of Scientific Research-Asian Office of Aerospace R & D, and Dr Julian J Wu, Director of US Army Research Office-Far East. (13 May 1998).
 - 6-person delegation led by Dr Se-Hwan Wu, Director of the Graduate Institute of Technology and Innovation Management, National Chengchi University, Taiwan. (19 June 1998).
 - Dr Raul Villar Lazaro, Rector of Madrid Autonomous University and Dr Carles Sola Ferrando, Rector of Barcelona Autonomous University. Briefing conducted partly in Spanish. (26 June 1998).
 - Prof Dr Heinz B Winzeler, Vice-President, ZHW Zuercher Hochschule Winterthur, University of Applied Sciences, Switzerland. (29 September 1998).
 - 5-person Vietnamese study tour investigating technology transfer in Japan, led by Mr Tran Anh Kiet, Vice-Chairman of Vietnam Industrial Zone Authority. Sponsored by NEDO / JICA. (23 June 1998).
- (4) International Promotion of Tsukuba University
 - 1) International agreements: Initiated and promoted discussions that may lead to inter-institutional agreements, with a view to facilitating co-operation and collaboration in teaching and research through the exchange of students, professors and researchers:
 - University of Texas, Dallas, USA
 - West Virginia University, Morgantown, USA
 - 2) Assisted the Division of International Affairs in devising suitable forms of agreement for the purpose.
- (5) National Promotion of TARA
 - 1) Initiated and planned visits to TARA to take place in 1999-00 by senior representatives of 2 Japanese organisations:
 - NASDA (National Aerospace Development Agency of Japan)
 - Techno-Growth House / AIST International Centre (MITI, Tsukuba)
- (6) Publications
 - 1) R. E. Sowden, 'Technology Transfer in a Japanese University Environment', Proc. 1st Int. Conf. on High-Tech Entrepreneurship (Tsukuba, 2 Oct. 1998)
 - 2) R. E. Sowden, contribution to JUSE Science and Technology Forum [in press on 31 March 1999]
- . Activities in Conferences and Academic Societies
 - 1) Invited panellist at 1st International Conference on 'High-Tech Entrepreneurship' (Tsukuba Research Laboratories, Nippon Glaxo, 2 October 1999).
 - 2) Contributed to discussions at Nature Medicine's 1st International Conference in Japan on 'The Molecular Revolution: A New Approach to Understanding and Eliminating Disease' (Tokyo, 9 - 10 November 1998).
 - 3) Gave a welcome speech at the 'Festival UK98' International Conference on 'Regulation of Antioxidant systems in Oxidative Stress' (Tsukuba University, 10 - 11 November 1998) held in celebration of a UK-Japan collaborative research project promoted while in the post of British Council Science Officer (1991-97).
 - 4) Invited as a panellist at the Round Table on 'Environmental Technologies' at the EU-Japan High Tech Forum 98: 3rd Networking Seminar 'EU-Japan Scientific and Industrial Co-operation at the Dawn of the 21st Century' held by SDSK / EU-Japan Centre for Industrial Co-operation / Tokyo Prefecture / Keidanren (Keidanren, Tokyo, 25 November 1998).
 - 5) Invited panellist at 'Vulcanus in Japan' meeting of EU Research Fellows (EU-Japan Centre for

Industrial Co-operation, Tokyo, 11 December 1998).

- 6) Invited panellist at JUSE (Japan Union of Scientists and Engineers) 'Science and Technology Forum' (Nippon Kogyo Club, Tokyo, 11 March 1999).

(3) Other Research Activities

1) Member of JSAP (Japan Society of Applied Physics)

- A founder member of the international editorial sub-committee for the new quarterly magazine, 'JSAP International' (JSAPI), which will project the activities of JSAP world-wide in succession to the 'OBI' ('Oyo Buturi International') English-language section of 'Oyo Buturi'.
- Presented personal copies of 'Oyo Buturi' to TARA Library for the period to 31 March 1999.

2) Member of Institution of Chemical Engineers (UK).

- Presented personal subscription copies of 'The Chemical Engineer' to TARA Library for the period to 31 March 1999.

3) Fellow of Institute of Petroleum (UK).

- Presented personal subscription copies of 'Petroleum Review' to TARA Library for the period to 31 March 1999.

4) Invited contributor to questionnaire on 'Strategic Directions for Science and Engineering in the 21st Century' for JUSE. (25 March 1999)

. Educational and Business Activities

1) Assisted in devising a means of identifying suitable British PhD research students for training placements in Nippon Glaxo's Tsukuba Research Laboratories by liaising with the British Council (to commencing in 2000).

2) Initiated and promoted the placement of 3rd year undergraduate students of engineering of Nanyang Technological University (Singapore) for 3-month summer vacation training with Nippon Glaxo's Tsukuba Research Laboratories (commencing in 1999).

3) An international judge for the ICEE (Inter-Cultural English Exchange) annual national debating contest in English (Matsumoto Debating Institute / ALC Inc, Tokyo, 18 October 1998).

4) An international judge for the JOES 15th Foreign Language Speech Contest for Returnees (Tokyo, 28 August 1998).

5) Advised 'Diamond Weekly' on a proposed major series of articles on men of science and scientific breakthroughs of the 20th Century.

6) Member of the Board of Advisers of Tsukuba International School (TIS) with responsibility for advising on policy, policy development and promotional materials.

. Social Activities

1) Member of Steering Committee of STAG (Science and Technology Action Group - affiliated to the British Chamber of Commerce in Japan (BCCJ))

- STAG representative for the Tsukuba area
- Active also in cross-posting E-mail messages between STAG, TAIRA-net and Kansai-net (E-mail networks of foreign scientists and engineers in Japan and the UK).

2) Member of TAIRA (Tsukuba Area International Research Association)

- Founder and member of the TAIRA Executive Committee.
- Initiated and planned various monthly international TAIRA Science Seminars to promote intercultural understanding and friendship in a multidisciplinary scientific environment.

. Other Activities

1) Drafting and Editing

- Assisted the International Affairs Division of Tsukuba University with the drafting and editing of official letters and other documents in English.
- Assisted the editor in preparing an updated English-language version of the TARA home page
- Assisted in drafting and editing the nomination papers for a highly prestigious international

scientific research award.

- Assisted Dr Leo Esaki in preparing presentations and articles for publication.
- 2) Video Films
 - Played the role of a drug dealer in the opening scene of the comedy video film, 'Seven Eleven', directed by Robert Juppe (August 1998).
 - Cast for the male lead in the video comedy, 'The Age of TV' (filming in 1999).
- 3) Photography
 - Exhibited twenty-two images in a photographic exhibition, 'A Mixed Bag' (Ebisu, Tokyo, 5 - 12 December 1998).
 - Three publicity photographs published in '1998 Annual Report' (TARA, Tsukuba University) [in press on 31 March 1999].
 - Two photographs of invited speakers published each month on the TAIRA International Science and Technology Seminars home page.

高木 英明

I . 研究活動

(1) 研究業績

(1) 研究論文

- 1) H. Takagi, K. Sakamaki, and T. Miyashiro,
Call Loss and Forced Termination Probabilities in Cellular Radio
Communication Networks with Non-Uniform Traffic Conditions, IEICE Transactions on
Communications, Vol.E82-B, No.9, pp.1496-1504, September 1999.
- 2) 大見川稔・高木英明,
CDMA方式のセルラ移動体通信網における呼損率の評価,
電子情報通信学会論文誌 B, Vol.J82-B, No.12, pp.2311-2319, 1999年12月.
- 3) 工藤誠也・小林和朝・高木英明・濱田元・久保田文人,
スペクトル解析によるMPEG2ビデオトラヒックの自己相似性,
電子情報通信学会論文誌 B, Vol.J83-B, No.1, pp.134-137, 2000年1月.
- 4) H. Takagi, Analysis and Applications of Polling Models,
Performance Evaluation: Origins and Directions,
G. Haring, Ch. Lindemann, and M. Reiser (editors),
pp.423-442, Lecture Notes in Computer Science, Vol.1769,
Springer-Verlag, March 2000.
- 5) S. Kudoh, H. Takagi, and O. Hashida,
Second Moments of the Waiting Time in Symmetric Polling Systems,
Journal of the Operations Research Society of Japan, Vol.43, No.2, pp.306-
316, June 2000.

(2) 記事

- 1) H. Takagi, Queue with Priorities, Encyclopaedia of Mathematics, Supplement II, M. Hazewinkel
(editor), pp.401-404, Kluwer Academic Publishers, 2000.
- 2) H. Takagi, ``Boudewijn R. Haverkort, Performance of Computer Communication
Systems: A Model-Based Approach, John Wiley and Sons, Inc., 1998,`` (book review), Performance
Evaluation, Vol.38, Nos.3-4, pp.253-255, December 1999.
- 3) 高木英明, 新編OR事典 基礎編「待ち行列のバケーションサーバモデル」, 事例編「セルラ
移動体通信網のトラヒックモデル」, 平成12年6月.

(3) 研究発表

- 1) L. Tang and H. Takagi,
Optimal Planning of Freight Trains Operation in a Railroad Terminal,
The 15th Triennial Conference of the International Federation of
Operational Research Societies, Beijing, China, August 16-21, 1999.
- 2) S. Yagy and H. Takagi,
A Queueing Model with Input of MPEG Frame Sequences and Interfering
Traffic, The 15th Triennial Conference of the International Federation
of Operational Research Societies, Beijing, China, August 16-21, 1999.

- 3) S. Yagyu and H. Takagi, A Queueing Model with Input of MPEG Frame Sequences and Interfering Traffic, Part of the SPIE Conference on Performance and Control of Network Systems III, Vol.3841, pp.196-207, Boston, Massachusetts, September 20-21, 1999.
- 4) H. Takagi, Traffic and Geometric Models for Cellular Mobile Networks, International Conference on Stochastic Processes and their Applications, Cochin, India, December 17-20, 1999 (invited plenary talk).
- 5) 乗松隆志・高木英明, Performance Analysis of the IEEE 1394 Serial Bus Interface by a Simple Queueing Model, 「情報通信ネットワークの新しい性能評価法に関する総合的研究」シンポジウム, pp.231-242, 仙台, 平成12年年1月23-25日.
- 6) 高木英明, 平面図形上の距離に関する幾何学的確率の初等的諸問題, 日本オペレーションズ・リサーチ学会「都市のOR」研究グループ, 第14回研究会, 筑波大学, 平成12年3月17日.

(2) 学会活動

- 1) 国際会議 International Conference on the Performance and QoS of Next Generation Networking, 共同組織者.
- 2) 国際会議 Performance '99, プログラム委員.
- 3) 国際会議 SPIE Conference on Performance and Control of Network Systems III, プログラム委員.
- 4) 国際会議 Performance Tools 2000, 11th International Conference on Modelling Tools and Techniques for Computer Communication System Performance Evaluation, プログラム委員.
- 5) 国際会議 European Wireless 2000, プログラム委員.
- 6) 論文誌 Performance Evaluation 編集委員.
- 7) 論文誌 Queueing Systems 編集委員.
- 8) 電子情報通信学会 ソサイエティ論文誌編集委員会, 査読委員.
- 9) 電子情報通信学会 通信ソサイエティ テレコミュニケーションマネジメント研究専門委員会, 専門委員.
- 10) プロジェクトマネジメント学会(任意団体) 研究委員会委員, PM基礎研究会 主査.

(3) その他の研究活動

- 1) 平成11年度 科学研究費補助金 基盤研究(C)(2) 課題番号 11650407 研究課題「シームレス情報通信網の設計と性能評価のための通信トラヒック解析」(1,100千円).
- 2) 平成10年度 電気通信普及財団 研究調査助成金「シームレス情報通信網の設計と性能評価のための通信トラヒック解析」(1,090千円).
- 3) 平成11年度8月期 電気通信普及財団 海外渡航費援助 (230千円).

教育・業務活動

- 1) 全学 学群教職課程委員会委員
- 2) 社会工学系 運営委員
- 3) 社会工学類: 運営幹事, クラス担任1年, カリキュラム委員
学力低下問題検討会委員, 第三学群教員会議構成員
- 4) 社会工学研究科 運営委員, 論文審査委員
システム情報工学研究科開設準備委員会委員
- 5) 経営・政策科学研究科 修論審査委員会委員
- 6) 山形大学工学部電子情報工学科(非常勤講師)「情報ネットワーク工学」(2単位)

谷村 秀彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 谷村秀彦ほか5名、伝統的都市の現代化における空間制御技術に関する研究—北京を事例として—, 住宅総合研究財団研究年報, No.26, 1999. pp. 131-142.

(3) その他の研究活動

- 1) 科学研究費補助金(基盤研究(B)(2)) 11694126, H11-13 東アジア伝統的都市の現代化における空間制御技術に関する研究、研究代表者
- 2) 科学研究費補助金(基盤研(B)(2)) 09450222, H9-11 社会構造の変動に対応した地域公共サービス施設の再編成に関する計画的な研究、研究代表者
- 3) President, Pacific Rim Council on Urban Development

・教育・業務活動

- 1) 第三学群長
- 2) 評議会委員
- 3) 人事委員会委員
- 4) 財務委員会委員
- 5) 大学研究センター運営委員
- 6) 工学視学委員会主査

寺野 隆雄

I . 研究活動

(1) 研究業績

(* : 査読つき学術論文または査読つき国際会議発表論文)

(ア) T. Terano: Pearls before Swinde or Pearl for Experts.

1. PAKDD-99 Panel Discussion, Beijing, China, 1999. (講演)
- 2) T. Terano, S. Kurahashi, U. Minami: Why not Multiple Solutions: Agent-Based Social Interaction Analysis. 9th Annual Workshop on Computational and Mathematical Organization
1. Theory (CMOT99), 1999. (講演)
- 3) 幡鎌 博, 寺野隆雄: ナレッジチェーン-- サプライチェーンモデルを越えて-- . 経営情報学会1999年春季全国研究発表会, pp. 1-4, 1999.
- 4) 角埜恭央, 寺野隆雄: 情報技術による企業経営の価値創造に関する考察. 経営情報学会1999年春季全国研究発表会, pp. 291-294, 1999.
- 5) 野村章, 寺野隆雄: 遺伝的プログラミングによる2次元ユークリッド空間における非線形離散データの極値探索. 電子情報通信学会技報, AI99-20, pp.79-86, 1999.
- 6) 寺野隆雄: 社会科学を実験科学に: エージェントで社会をみる. 人工知能学会全国大会(第13回)論文集, pp. (34)-(39), 1999.
- 7) 稲田政則, 寺野隆雄: 発見知識の有用性と発見手法の理解性. 人工知能学会全国大会(第13回)論文集, pp. (149)-(150), 1999.
- 8) 寺野隆雄: スマートICカードを用いた知的携帯エージェントシステム. 人工知能学会全国大会(第13回)論文集, pp. (212)-(213), 1999.
- 9) 高玉圭樹, 寺野 隆雄, 下原勝憲: マルチエージェント学習における機能獲得に関する考察. 人工知能学会全国大会(第13回)論文集, pp. 290-293, 1999.
- 10) *高玉圭樹, 寺野 隆雄, 下原勝憲, 堀浩一, 中須賀真一: マルチエージェント学習における知識の再利用と電気回路設計への応用. コンピュータソフトウェア, Vol. 16, No. 5, pp. 37-49, 1999.
- 11) 寺野隆雄: ERP/SCMと人工知能技術. 人工知能学会, 知識ベースシステム研究会(第44回), 1999. (講演)
- 12) 寺野隆雄: GAを使いこなすには. 情報処理. Vol. 40, No. 6, pp. 628-631, 1999.
- 13) *K. Takadama, T. Terano, K. Shimohara: Can Multiagents Learn in Organization? -- Analyzing Organizational Learning-Oriented Classifier System. IJCAI'99 Workshop on Agents Learning about, from and other Agents, 1999.
- 14) K. Takadama, T. Terano, K. Shimohara: How to Design Good Learning Agents in Organization? Proc. GECCO'99 (Genetic and Evolutionary Computation Conference), pp. 1398-1405, 1999.
- 15) E. Koshishiba, T. Terano: Knowledge Acquisition from Multiple Participants Using AHP and Decision Trees. Proc. 5th Int. Conf. o the Analytic Hierarchy Process (ISAHP'99), pp. 176-177, 1999.
- 16) K. Himura, T. Terano: Positioning Disaster Preventing Bases in Public Facilities Using Volonoi Diagram and Analytic Network Process. Proc. 5th Int. Conf. o the Analytic Hierarchy Process

- (ISAHP'99),pp. 249-250, 1999.
- 17) *K. Yoshinaga, T. Terano, N. Zhong: Multi-lingual Intelligent Retriever with Automated Ontology Generator. Proc. 3rd Int. Conf. on Knowledge-Based Intelligent Information Engineering Systems (KES'99), pp. 62-65, 1999.
 - 18) *H. Fujimori, H. Shirai, H. Suzuki, Y. Kuno, K. Tsuda, T. Terano: Business Game Development Toolkit for the WWW Environment. Proc. 3rd Int. Conf. on Knowledge-Based Intelligent Information Engineering Systems (KES'99), pp. 469-472, 1999.
 - 19) *S. Kurahashi, U. Minami, T. Terano: Why not Multiple Solutions: Agent-Based Social Interaction Analysis via Inverse Simulation. Proc. IEEE SMC'99, II-522-II-527, 1999.
 - 20) *K. Takadama, T. Terano, K. Shimohara: Agent-Based Model Toward Organizational Computing: From Organizational Learning to Genetics-Based Machine Learning. Proc. IEEE SMC'99, II-604-II-609, 1999.
 - 21) 角埜恭央, 寺野隆雄: 企業経営における情報技術の価値創造に関するモデル化. 経営情報学会1999年秋季全国研究発表会, pp. 251-254, 1999.
 - 22) 塩沢由典, 出口弘, 喜多一, 寺野隆雄: バーチャル市場研究の構想と意義 -- V-Mart 研究の目指すもの --. 計測自動制御学会, 情報部門合同シンポジウム, pp. 169-174, 1999.
 - 23) 高玉圭樹, 寺野隆雄, 下原勝憲: 組織学習エージェントの設計に関する考察. 計測自動制御学会, 情報部門合同シンポジウム, pp. 139-144, 1999.
 - 24) 塩沢由典, 出口弘, 喜多一, 寺野隆雄: バーチャル市場による実験の試み. 経済・社会システム学会第18回大会, pp. 58-59, 1999.
 - 25) *K. Takadama, T. Terano, K. Shimohara, K. Hori, S. Nakasuka: Making Organizational Learning Operational: Implication from Learning Classifier System. J. Computational and Mathematical Organization Theory, Vol. 5, No. 3, pp. 229-252, 1999.
 - 26) *倉橋節也, 南潮, 寺野隆雄: 逆シミュレーション手法による人工社会モデルの分析. 計測自動制御学会論文集, Vol. 35, No. 11, pp. 1454-1461, 1999.
 - 27) *高玉圭樹, 寺野隆雄, 下原勝憲, 堀浩一, 中須賀真一: 組織学習に基づく分類子システムを用いた組織的問題解決への接近. 計測自動制御学会論文集, Vol. 35, No. 11, pp. 1486-1495, 1999.
 - 28) *K. Takadama, S. Nakasuka, T. Terano: An Approach to Printed Circuit Board Design with Organizational Learning Agents. Systems and Computers in Japan, Vol. 30, No. 11, pp. 33-42, 1999.
 - 29) 寺野隆雄, 吉村, 村上, 石野洋子: ICカードが街とエンドユーザを結ぶ. MACC'99
 - 30) 寺野隆雄, 久野靖, 津田, 藤森, 白井, 鈴木: ソフトウェアエージェントを備えたビジネスゲーム開発・実行環境.MACC'99
 - 31) T. Terano, S. Kurahashi: Inverse Simulation: Genetic-Algorithm Based Approach to Analyzing Emergent Phenomena. Proc. Int. Workshop on Emergent Synthesis'99, pp. 271-276, 1999.
 - 32) 寺野隆雄: デジタルシティで市民と街をつなぐ.情報処理学会情報メディアシンポジウム99. pp. 37-42, 1999, 12月.
 - 33) 石川泰志, 寺野隆雄: 分類子システムによるエージェントの共進化とマーケティングシミュレーション. 情報処理学会知識と複雑系研究会(2000-ICS-119-10), pp. 65-72, 2000
 - 34) 菱山玲子, 寺野隆雄: マルチエージェントを用いた社会的交渉の分析. 情報処理学会知識と複雑系研究会(2000-ICS-119-11), pp. 73-80, 2000
 - 35) *石川孝, 美宅成樹, 寺野隆雄: 概念階層と探索バイアスを用いたILP手法によるタンパク質機能モデルの発見. 人工知能学会誌, Vol. 15, No. 1, pp. 169-178, 2000
 - 36) *寺野隆雄: スマートICカードを用いた知的携帯エージェントシステム.人工知能学会誌, Vol. 15, No. 1, pp. 74-77, 2000
 - 37) 寺野隆雄: 計算組織理論による組織行動の分析: 現状と課題.人工知能学会第46回知識ベースシステム研究会, pp. 47-52, 2000.
 - 38) 寺野隆雄: 計算組織理論:エージェントで社会を調べる.第6回社会情報システム学シンポジウム, 招待講演, 2000.
 - 39) *K. Kurumatani, Y. Koyama, H. Matsubara, T. Terano, Y. Shiozawa, Deguchi, H. Kita, A. Namatame: V-mart: A Virtual Market as a Forum for Market Structure Analysis and Engineering. Proc. 5th Joint Conference on Information Sciences, Vol. 2, (1st Int. Workshop on Computational Intelligence in Economics and Finance (CIEF)-2000), pp. 957-960, 2000.

- 40) *Y. Kadono, T. Terano: How Information Technology Creates Value in Business Management. Proc. 5th Joint Conference on Information Sciences, Vol. 2, (1st Int. Workshop on Computational Intelligence in Economics and Finance (CIEF)-2000), pp. 883-886, 2000.
- 41) *T. Terano, S. Kurahashi: Agent-Based Approach to COnformation Behavior Analysis in a Cyber-Market. Proc. 5th Joint Conference on Information Sciences, Vol. 2, (1st Int. Workshop on Computational Intelligence in Economics and Finance (CIEF)-2000), pp. 887-890, 2000.
- 42) T. Terano, T. Nishimura, E. Murakami, Y. Ishino: Fairy in a Smart IC Card: Interfacing People, Town, and Digital City. Proc. Kyoto Int. Workshop on Digital City. 2000 (Poster and Demo)
- 43) 菱山玲子,寺野隆雄:人工社会シミュレーションによる交渉メカニズムの分析. 計測自動制御学会第27回知能システムシンポジウム資料, pp. 83-88, 2000.
- 44) 石川泰志,寺野隆雄: 組織学習指向型分類子システムを用いたエージェントの共進化. 計測自動制御学会第27回知能システムシンポジウム資料, pp. 89-94, 2000.
- 45) 村上英治,寺野隆雄:学習分類子システムを利用した動的協調フィルタリング方式. 計測自動制御学会第27回知能システムシンポジウム資料, pp. 95-100, 2000.
- 46) 倉橋節也,寺野隆雄: タブー遺伝的アルゴリズムによる多峰性関数と多目的関数最適化. 計測自動制御学会第27回知能システムシンポジウム資料. pp. 19-24, 2000.
- 47) 広岡康雄,寺野隆雄,大塚雄吉: コンテンツに基づくリコメンダーシステムと顧客興味の推定方式. 計測自動制御学会第27回知能システムシンポジウム資料, pp. 189-192, 2000.
- 48) 幡鎌博, 寺野隆雄:ナレッジチェーンモデル -組織の中の知識共有を表現する手段として-. 人工知能学会人工知能基礎論研究会(第41回)資料, SIG-FAI-9904-4(3/21), pp. 19-26, 2000.
- 49) Keiki Takadama, Takao Terano, Katsunori Shimohara: Role of Individual Evaluation in Multiagent Organization. 進化経済学会論集 第4集 (進化経済学会第4回東京大会研究報告) (Papers of the Fourth Annual Conference of the Japan Association for Evolutionary Economics), pp. 162-165, 2000.
- 50) Reiko Hishiyama, Takao Terano: Analyzing Negotiation Mechanisms among International Telecommunication Carriers via Agent-Based Approach. 進化経済学会論集 第4集 (進化経済学会第4回東京大会研究報告) (Papers of the Fourth Annual Conference of the Japan Association for Evolutionary Economics), pp. 170-173, 2000.
- 51) 広岡康雄,寺野隆雄,大塚雄吉: コンテンツに基づくリコメンダーシステムと顧客興味の推定方式.人工知能学会知識ベースシステム研究会(第47回)資料, SIG-KBS-9904-11, (3/28), pp. 61-66, 2000. (人工知能学会研究奨励賞受賞論文)
- 52) *Takao Terano, Toshikazu Nishimura, Yoko Ishino, Eiji Murakami: Fairy in a Smart IC Card: Interfacing People, Town, and Digital City. in Toru Ishida, Katherine Isbister (eds.): Digital Cities: Technologies, Experiences, and Future Perspectives. Springer LNCS 1765, pp. 378-390, 2000
- 53) Takao Terano, Huan Liu, Arbee L. P. Chen (eds.): Knowledge Discover and Data Mining - Current Issues and New Approaches Fourth Pacific-Asia Conference, PAKDD-2000. Springer Verlag, LNCS 1805, 2000.
- 54) *Cindy Yoshiko Shirata, Takao Terano: Extracting Predictors of Bankruptcy: Empirical Study on Data Mining Methods. in Takao Terano, Huan Liu, Arbee L. P. Chen (eds.): Knowledge Discover and Data Mining - Current Issues and New Approaches Fourth Pacific-Asia Conference, PAKDD-2000, pp. 204-207, Springer Verlag, LNCS 1805, 2000.
- 55) *Takashi Ishikawa, Masayuki Numao, Takao Terano: Discovering Protein Functional Models Using Inductive Logic Programming. in Takao Terano, Huan Liu, Arbee L. P. Chen (eds.): Knowledge Discover and Data Mining - Current Issues and New Approaches Fourth Pacific-Asia Conference, PAKDD-2000, pp. 212-215, Springer Verlag, LNCS 1805, 2000.
- 56) *Hiroshi Hatakama, Takao Terano: Modeling Knowledge Logistics for Knowledge Management. Proc. 10th European-Japanese Conf. on Information Modeling and Knowledge Bases, pp. 235-247, 2000.
- 57) 倉橋節也, 寺野隆雄: タブーリストによる選択圧力を利用した多峰性関数最適化GA. 電子情報通信学会技術研究報告[人工知能と知識処理] Vol. 100, No. 89, AI2000-16, pp. 49-56, 2000.
- 58) 谷口憲, 寺野隆雄: 進化論的計算手法によるサプライチェーンマネジメント支援に関する一考察. 電子情報通信学会技術研究報告[人工知能と知識処理] Vol. 100, No. 89, AI2000-17, pp. 57-61, 2000.

- 59) Yasushi Ishikawa, Takao Terano: Co-evolution of Multiagents via Organizational-Learning Classifier System and Its Application to Marketing Simulation. Proc. 4th Pacific-Asia Conf. on Information Systems (PACIS-2000), pp. 1114-1127, 2000.

(2) 学会活動等

- 1) 人工知能学会：全国大会プログラム副委員長，理事
- 2) 計測自動制御学会：智能工学部会委員、論文誌編集委員
- 3) 日本機械学会：RC155プラントエンジニアリングにおける知的統合システム化技術研究分科会委員，
- 4) 情報処理学会：学会誌編集委員
- 5) 経営情報学会：学会論文誌編集委員長、理事
- 6) 電子情報通信学会：人工知能と知識処理研究会委員，
- 7) 第4回 PAKDD2000 (Pacific-Asian Conference on KDD) プログラム委員長
- 8) ISAHP'99(Int. Symp on AHP) プログラム委員
- 9) GECCO-2000 (Genetic and Evolutionary Computation COnference) プログラム委員
- 10) AI Communications誌 編集委員

(2) その他の研究活動

(1) 文部省科学研究費

- 1) 基盤研究展開(B)「高度職業人のためのビジネス教育ツールの開発」(研究代表者：鈴木久敏(筑波大学教授))研究分担者
- 2) 基盤研究展開(B)「多主体複雑系として見た経営組織とそのマネジメントの研究」(研究代表者：高木晴夫(慶応大学教授))研究分担者
- 3) 基盤研究展開(B)「デジタル・ミュージアムにおける参加型創造学習システム」(研究代表者：橋爪宏達(国立情報学研究所教授))研究分担者
- 4) 地域連携推進研究(2)「社会情報基盤としてのデジタルシティの構築」(研究代表者：石田亨(京都大学教授))研究分担者
- 5) 基盤研究(C)「創発的計算と機械学習理論による情報ネットワーク社会モデルへの接近」研究代表者

(2) 一般受託研究

- 1) 「社会システムシミュレーションの研究」(日本電信電話株式会社より)

業務

- 1) 夜間修士課程経営・政策科学研究科経営システム科学専攻において、人工知能、計算機科学基礎、プログラミング基礎、特別演習、特別研究の授業を、夜間博士課程企業科学専攻において、協調システム論の授業を担当した。
- 2) 東工大、非常勤講師

土井 正幸

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Endogenizing Consumption in the Input-Output Model: Theory and Application, ICSEAD Working Paper Series, Vol. 99-17, 1999.
- 2) 国際コンテナ港経営の環境変化と動向、『埠頭経営研究会講演集』、pp. 91 - 112、2嘗研究会講演集』、pp. 91 - 112、2000 .
- 3) 物流、在庫管理と企業立地、日交研シリーズ、A-278-2、2000 .
- 4) A CGE Analysis of the Efficiency Effects of Ports in Japan, Proceedings of the Third Annual Conference in Global Economic Analysis, Monash University, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 環太平洋産業連関分析学会第10回発表、1999年10月3日
- 2) アジア経済学会合同学会発表、1999年11月5日
- 3) 応用地域学会第13回研究発表大会発表、1999年12月4日

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費基盤研究(C)(2)、研究代表者
- 2) 財団法人国際東アジア研究センター客員研究員

教育・業務活動

- 1) 社会工学系、社会工学研究科、経営・政策科学研究科、社会工学類の各運営委員

社会的活動

- 1) 茨城県港湾審議会委員
- 2) 国際協力事業団支援委員会委員
- 3) 茨城県・北関東物流マネジメント調査委員会委員長
- 4) 運輸省、NIRA、日本港湾協会等各種調査・研究委員会委員

中村 豊

I . 研究活動

(1) 研究業績

(1) Publication:

- 1) Nakamura, Yutaka (2000) Finite-dimensional utilities, Economic Theory, vol.16, 209-218.
- (2) Unpublished manuscripts:
 - 1) Nakamura, Yutaka (1999) Additive utilities on densely ordered sets.
 - 2) Nakamura, Yutaka (1999) Real interval representations.
 - 3) Nakamura, Yutaka (2000) Quasilinear lexicographic utility.

(2) 学会活動

- 1) Nakamura, Yutaka (1999) Choquet expected utility with dense capacities, presented at the 5th Decentralization Conference. (東京大学)
- 2) 林、中村、竹村(1999)意志決定における確率加重関数の推定と解釈、第4回曖昧な気持ちに挑むワークショップ講演論文集、pp.63-66.
- 3) 大橋、朱、中村、竹村：弁別閾と心理物理関数との関係ー心理実験による系列効果の検証ー、第4回曖昧な気持ちに挑むワークショップ講演論文集、pp.29-32.

教育・業務活動

- 1) クラス担任(社会工学類)
- 2) 図書委員(社会工学系)
- 3) 入試実施委員(社会工学類)
- 4) 入試実施委員(経営・政策科学研究科)

橋田 温

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) S.Kudo,H.Takagi and O.Hashida, "Second moments of the waiting time in symmetric polling systems," Journal of the Operations Research Society of Japan, Vol.43, No.2, pp.306-316

(2) 学会活動

- 1) オペレーションズ・リサーチ関連の国際的学術雑誌であるNaval Research Logistics誌の associate editor
- 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会の表彰委員

教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科の副研究科長(企業科学専攻担当)
- 2) 東京理科大学理工学部の非常勤講師(「電気通信工学I」を担当)
- 3) 東京情報大学経営情報学部および大学院の非常勤講師(「オペレーションズ・リサーチ」, 「オペレーションズ・リサーチ特論」を担当)

橋本 昭洋

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Hashimoto, A., Proposing non-uniform evaluation in social systems analysis. Inst. Policy & Plann. Sci. Discussion Pap. Ser. 827, Univ. Tsukuba, 1999.
- 2) 尾鷲瑞穂・橋本昭洋,都道府県ランキング再考:「新国民生活指標」を例に .Inst. Policy & Plann. Sci. Discussion Pap. Ser. 850, Univ. Tsukuba, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 投稿論文査読 Asia-Pacific Financial Markets, J. Global Optimization, J.Opns Res. Soc. Japan, Trans. SICE 各誌

・教育・業務活動

- 1) 社会工学系 図書委員長
- 2) 社会工学研究科 図書委員
- 3) 経営・政策科学研究科 募集委員長, 顧問教官, 新コース準備委員
- 4) 社会工学類 学生委員, クラス担任

・社会的活動

- 1) 自治大学校講師
- 2) 図書館情報大学講師

藤原 良叔

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Balanced Arrays from Quadratic Functions, Journal of Statistical Planning and Inference, 84 (2000), 285-293 (with Nobuko Miyamoto)
- 2) Mutually M-intersecting Hermitian Varieties, Finite Fields and Their Applications 5 (1999) ,285-293 (with Nobuko Miyamoto)
- 3) Complete Set of disjoint difference families and their applications, (with Y.Miao and S.Shinohara) to appear in JSPI
- 4) Balanced nested designs and balanced n-ary designs, (with S.Kuriki,Y.Miao and S.Shinohara), to appear in JSPI
- 5) Optical orthogonal codes: their bound and new optimal constructions (with Y. Miao), IEEE Transactions on Information Theory , to appear
- 6) Geometrical Constructions for Ordered Orthogonal Arrays and (T,M,S)-nets (with Ying Miao) submitted
- 7) Directed $B(K,1;v)$ with $K=\{4,5\}$ and $\{4,6\}$ related to codes in deletion and insertion metric (with Y. Miao, J. Wang and J. Yin) submitted

(2) 学会活動

- 1) 発表: Algebraic Curves and Balanced n-ary Designs, Fifth International Conference on Finite Fields and Applications, University of Augsburg, August 2 - 6, 1999
- 2) 主催: 「組合せ的デザインとその推測への応用」筑波国際会議場 (共同開催: 組合わせ理論とその応用) 10月7- 9日, 1999
- 3) 発表: 組合せ的デザインの最新の応用, 「組合せ的デザインとその推測への 応用研究集会」筑波国際会議場10月7-9日, 1999
- 4) 発表: $V(m,t)$ Vector and Their Related Optimal Orthogonal Codes, (with Y. Miao) 31-st Southeastern International Conference on Combinatorics, Graph Theory and Computing, Florida Atlantic University , March 13-17, 2000

(3) その他の研究活動

- 1) 受託研究「家電ネットワークの規格化に関する研究」
- 2) 科学研究費補助(C)(2)「代数曲線を用いた組合せ的配列やブロックデザインの構成に関する研究」
- 3) レフリーイング, AMSレビューイング, 研究集会座長 等

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類 社工情報処理実習 3
- 2) 社会工学類 シミュレーション
- 3) 社会工学類 経営工学実習
- 4) 社会工学研究科 情報離散数学
- 5) 経営政策研究科 経営工学演習
- 6) 講演「離散数学とその情報科学への応用」理科大情報科学科

星野 靖雄

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Pimonwan Siripaisalpipat and Yasuo Hoshino, Firm-specific Advantages, Entry Modes, and Performance of Japanese FDI in Thailand, Japan and the World Economy, Vo.12 No.1, 2000 pp.33-48.
- 2) Yasuo Hoshino, Further Study on the Performance of Mergers among Credit Associations in Japan, in the Proceedings of the 2000 International Conference in Management Sciences, Tamkang University, ROC, June 10, 200, pp.253-270. (Invited presentation by Tamking University)
- 3) Mourad Mansour and Yasuo Hoshino, Firm-specific Factors, Shareholding Structure and Corporate Performance: The Case of Japanese manufacturing investments in Europe, in the 2000 AJBS Conference Best Papers Proceedings, Oiso, Kanagawa, Japan June 9-10, 2000, pp.170-184.
- 4) Pimonwan Siripaisalpipat and Yasuo Hoshino, Entry Strategy in the View of Network Relationship and Stability of Japanese Manufacturing Affiliates in 4 ASEAN Countries. in the 2000 AJBS Conference Best Papers Proceedings, Oiso, Kanagawa, Japan, June 9-10, 2000, pp. 261-275.
- 5) Yeh Tsung-Ming and Yasuo Hoshino, The effects of Mergers and Acquisitions on Taiwanese Corporations, forthcoming from Review of Pacific Basin Financial Markets and Policies, Vol.3 No.2, 2000.
- 6) 金融機関の合併：信用金庫と銀行の場合、COFIS研究会レポート Vol. 4、全国信用金庫協会 発行予定。
- 7) 銀行合併の計量分析、講座 M&Aの経営学 第1巻 企業価値創造とM&A、中央経済社 発行予定。

(2) 学会活動

- 1) Cristian Vega-Cespedes and Yasuo Hoshino, Effects of Ownership and Internalization Advantages on Performance: The Case of Japanese Subsidiaries in the United States and Latin America, The Eighth Pacific Basin Finance, Economics and Accounting Conference and The Second ADSGM International Conference. June 1-2, 2000, Bangkok, Thailand.
- 2) Yeh tsung-ming and Yasuo Hoshino, An evaluation on the effects of mergers by financial performance: in the case of Taiwanese corporations, The Seventh Conference on Pacific Basin Finance, Economics and Accounting, May 29, 1999, Taipei, Taiwan.
- 3) Yasuo Hoshino and Cristian Vega-Cespedes, Effects of Ownership and Internalization Advantages on Performance: The Case of Japanese Subsidiaries in the United States and Latin America, Western Academy of Management- Shizuoka International Management Conference, 2000・7/9-7/12.
- 4) Yasuo Hoshino and Yeh Tsung-Ming, The Performance of the Merging Firms in Taiwan.Western Academy of Management- Shizuoka International Management Conference, 2000・7/9-7/12.
- 5) 金融機関の合併効果、第36回COFIS研究会報告、平成12年7月18日。
- 6) The Japanese Economy誌の諮問会の委員として編集活動にあたった。
Journal of Financial Management and Analysis: International Review of Finance, Review of Pacific Basin Financial Markets and Policies, 経営行動科学の編集委員会の委員として編集活動にあたった。

(3) その他の研究活動

- 1) 平成12年度科学研究費補助金(基盤研究(c)(2))「日本企業関連の国際的買収、合併、合併、全額出資の実証的・理論的研究」を実施した。

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類、全学就職委員、施設委員 社会工学系教育機器センター運営委員、社会工学系施設委員
- 2) 星野靖雄、論点 優遇しすぎ国費留学外国人、読売新聞 平成11年12月8日。
- 3) 星野靖雄、日本の大学における国際化の虚と実、西村和雄・岡部恒治・戸瀬伸之偏「分数ができない大学生 第3弾 東洋経済新報社出版予定。

・社会的活動

- 1) 東京家政学院大学筑波女子大学国際学部国際ビジネス論・短期大学部経営学総論担当常勤講師
- 2) 名古屋外国語大学国際経営学部国際経営戦略論担当非常勤講師
- 3) 茨城県立竹園高等学校 PTA副会長

細野 昭雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 『AFTA, MERCOSURとNAFTAの比較と協力の可能性』ラテンアメリカ協会刊, 1999年
- 2) 『中南米における地域経済統合に関する調査研究報告書』日本プラント協会刊, 1999年
- 3) 「アルゼンチンの経済発展」『日本アルゼンチン修好100年記念論文集』京都外国語大学刊, 1999年
- 4) 「NAFTA型FTA型の検討」大石編『日本メキシコ自由貿易の可能性に関する研究』日本貿易振興会刊, 1999年
- 5) 「中南米における危機と改革 - 東アジアへの教訓 - 」『海外ビジネス情報』全国商工会連合会, 1999年6月号

(2) 学会活動

- 1) 日本ラテンアメリカ学会理事(国際交流担当)
- 2) Latin American Studies Association(LASA)米国のTask Force on Scholarly Relations with Japan.

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費(基盤研究A) 研究代表者「移行経済における分配と制度的要因に関する比較研究」

・教育・業務活動

- 1) 博士課程委員会委員
- 2) 世界銀行共同プログラム(国際政治経済学研究科)への協力

・社会的活動

- 1) 国立大学協会(JUSSEP) 委員会委員
- 2) 国際協力事業団(JICA南米委員会委員長) ペルー委員会委員

穂鷹 良介

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 不動産登記データベースの遠隔更新について、データベースの研究動向 平成10年度 科学研究費
- 2) 特定領域研究 メディア統合および環境統合のための高機能データベースシステムの研究開発
- 3) 特定領域研究「高度データベース」総括班、pp. 16 - 23、1999. 1. 25 - 1. 26.

(2) 学会活動

- 1) 科学研究費特定領域研究 メディア統合および環境統合のための高機能データベースシステムの研究開発
- 2) 特定領域研究「高度データベース」総括班 のメンバーであった。

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類長を務めた。

松尾 博文

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Flexibility, Adaptability, and Efficiency in Manufacturing Systems, co-authored with S.K. Bordoloi and W.W. Cooper, Production and Operations Management, Vol. 8, No. 2, 1999, 133-150.
- 2) A Mini-Line Approach for Pull Production, co-authored with R. Ahmadi, European_Journal of Operational Research, Vol. 125, 2000, 340-358.
- 3) Human Resource Planning in Knowledge-Intensive Operations: A Model for earning with Stochastic Turnover, co-authored with S. K. Bordoloi, forthcoming in European_Journal of Operational Research.
- 4) “ Operations Planning in the Presence of Innovation Diffusion Dynamics, co-authored with M.A. Cohen and T.H. Ho., forthcoming in New Innovation Diffusion Models, edited by V. Mahajan and J. Wind.
- 5) オンライン・ショッピングシステムで収集したブラウジングデータに基づく、顧客の製品選好度推定の一方法, 共著, 小野俊之, 印刷中, 電気学会論文誌C

(2) 学会活動

- 1) Area Editor for Production and Operations Management
- 2) Editorial Review Board Member for Manufacturing and Service Operations Management
- 3) 日本オペレーションズリサーチ学会「統合オペレーション」特別研究プロジェクト「戦略・マネージメント」研究グループ運営委員
- 4) 招待講演：
 1. 米国にみる S C M戦略のケース：顧客情報とサプライチェーン、筑波大学地域・市・交通経済研究会、平成12年1月
 2. 米国にみる S C M戦略のケース：顧客情報とサプライチェーン、日本オペレーションズリサーチ学会「統合オペレーション」特別研究プロジェクト合同研究会、平成12年2月
 3. Retail Inventory and Shelf Space Allocation, Vienna University of Economics and Business Administration, March 2000.
 4. 米国にみる S C M戦略のケース：顧客情報とサプライチェーン、電気通信大学、平成12年6月

(3) その他の研究活動

- 1) 科学研究費補助金基盤研究(C)(2) サプライチェーンにおける顧客情報に基づく在庫管理システムの構築, 研究代表者
- 2) 奨学寄付金、半導体サプライチェーンに関する研究、株式会社日立製作所半導体グループ
- 3) 奨学寄付金、サプライチェーンに関する研究、株式会社日立製作所システム開発研究所

・教育・業務活動

- 1) 大学(部局)間交流協定締結校連絡調整責任者：ウィーン経済・経営大学、ザンクト・ガレン大学

III. 社会的活動

1) 招待講演

1. サプライチェーンの経営戦略とERP、次世代経営システム工学研究会、社団法人システム総合研究所、平成11年7月
2. 米国にみる S C M戦略のケース：顧客情報とサプライチェーン、第9回オープンシステムフェア、株式会社ウイズシステム、平成11年10月

I . 研究活動

(2) 学会活動

- 1) MATSUDA*, N., TSUNODA, T., KIMURA, H. On the JS (Just-Suggestiveness) Principle as a Web Usability Factor

(3) その他の研究活動

- 1) 双方向環境における顧客満足把握ソフトの開発 (大成建設株式会社との共同研究) .
- 2) 筑波大学「感性評価構造モデル構築特別プロジェクト」 運営委員(1997.4.1-2002.3.31)
- 3) 文部省科学研究費 基盤研究 (C) 感性工学 (時限) [マルチプルアクション型電動車椅子の開発による下肢障害者の運動実感に関する研究] 代表者 : 筑波大学助教授 芸術学系 蓮見孝

. 教育・業務活動

- 1) 広報・公開室長 (1999.4.1-2001.3.31)
- 2) 全学情報化推進委員会委員 (1999.4.1-2001.3.31)
同ホームページ専門委員会委員長 (1999.4.1-2001.3.31)
- 3) 企画調査室々員 (1999.4.1-2001.3.31)
- 4) 改革委員会委員 (1999.4.1-2000.3.31)
- 5) システム情報工学 研究科計量ファイナンス・マネジメント専攻長 (2000.4.1-2001.3.31)
社会工学研究科 計量ファイナンス・マネジメント専攻運営委員 (1998.4.1-2001.3.31)
- 6) 経営・政策科学研究科運営幹事 (1999.4.1-2001.3.31)
- 7) 社会工学類カリキュラム委員長 (1999.4.1-2001.3.31)

. 社会的活動

- 1) サイバ - ・メッセの運営に関する調査研究会委員長 (1998.4.1-2000.3.31) (財) エンジニアリング振興協会 .

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “日本のソフトウェア産業の課題と解決方向”, Aug.1999, 電子情報通信学会、知能ソフトウェア工学研究会
- 2) “An Approach for Collaborative Enterprise Business Modeling”, Sept., 1999, Research Report of IEICE, SGC99-27. pp.36-43, IEICE,
- 3) “From IS-conscious to Interprise Model-based Enterprise Framework: Global Competence Impacts”, October 26, 1999, Proc. OOPSLA '99 Workshop Achieving Bottom-Line Improvements with Application and Enterprise Frameworks, UNL-CSE-99-410, Denver, CO, USA
- 4) “Business Modeling Scheme in Collaborative Enterprise Frameworks, October 26, 1999 Proc. OOPSLA '99 Workshop Achieving Bottom-Line Improvements with Application and Enterprise Frameworks, UNL-CSE-99-410, Denver, CO, USA,
- 5) “Strategic Scenario Architecture”, October 26, 1999 Proc. OOPSLA '99 Workshop Achieving Bottom-Line Improvements with Application and Enterprise Frameworks, UNL-CSE-99-410, Denver, CO, USA,
- 6) “On Model-Based Software Composition”, October, 1999 Proc. Int. Multi-Conf. Info.Society (IS '99), Ljubljana, Slovenija, pp.78-82,
- 7) Evaluating Adaptability of Software Systems Based on Algebraic Equivalency, Dec., 1999 IEICE Trans. Inf. & Syst., Vol. E82-D No.12
- 8) “Knowledge-Based Software Composition using Rough Set Theory”, April, 2000 IEICE Trans. Info. and Sys. Vol.E83-D, No.4,
- 9) “A Perspective on interprise Modeling Research stem in the new Millennium”, May 2000, Proc. Interprise Modeling Research, IEICE

- 10) Business Modeling based on The Ontology and First-Order Predicate Logic ” , May 2000, Proc. Software Interprise Modeling, IEICE
- 11) “ Identifying the Structure of Business Processes for Comprehensive Enterprise Modeling, May 2000, Proc. Software Interprise Modeling, IEICE
- 12) プロダクトラインの定義方法に関する一考察, May 2000, Proc. Software Interprise Modeling, IEICE,
- 13) “ A bumon Methodology for Product line Conceptual Modeling ” , June 2000, Proc. The 1st Workshop on Product line, ICSE 2000, Limerick,
- 14) “ Business Modeling and Component Mining Based on Rough Set Theory, June 2000 Proc. The 6th Int. Conf. Software Reuse, IEEE Press

(2) 学会活動

- 1) 国際学会参加：The 1st Workshop on Economics-driven Software Engineering Research, Los Angeles, 99年7月, 国外
- 2) 国際学会論文委員：Symposium on Software Reusability(SSR '99), Los Angeles, 99年7月, 国外
- 3) 研究会主宰：『ソフトウェアagro - バル競争力』第6回研究会, 99年7月, 電子情報通信学会、
- 4) 研究会主宰：『ソフトウェアagro - バル競争力』第7回研究会、電子情報通信学会、99年9月, 国内
- 5) 研究会主宰：『ソフトウェアagro - バル競争力』第8回研究会、電子情報通信学会、99年11月, 国内
- 6) 国際学会論文委員会参加：International Conference on Software Reuse, Washington ,D.C. 2000年1月, 国外
- 7) 研究会主宰：『ソフトウェアagro - バル競争力』第9回研究専門委員会、電子情報通信学会、2000年1月, 国内
- 8) 研究会主宰：『ソフトウェアagro - バル競争力』第10回研究専門委員会、電子情報通信学会、2000年3月, 国内
- 9) 研究会主宰：『ソフトウェアインタープライズモデリング』第1回研究会, 00年5月, 電子情報通信学会、国内
- 10) 国際学会会議参加：IEEE International Conference on Software Engineering, The 2nd Workshop on Economics-driven Software Research, Limerick June 2000
- 11) 国際学会会議論文委員：IEEE the 1st International Workshop on Product-line, Limerick June 2000
- 12) 国際学会会議参加：World IT Forum, Interlarken, June 2000
- 13) 国際学会会議運営主催（論文委員・組織委員）：IEEE International Conference on Software Reuse, Vienna June 2000
- 14) 国際学会会議出席：International Conference on Enterprise Information Systems, Stafford, July 2000
- 15) 研究会主宰：『ソフトウェアインタープライズモデリング』第2回研究会, 00年7月, 電子情報通信学会、国内

・教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科企業科学専攻入試委員
- 2) 経営・政策科学研究科企業科学専攻（システムズマネジメントコース）入試委員
- 3) 学系長選挙管理委員
- 4) 経営・政策科学研究科企業科学専攻（システムマネジメント）博士論文審査委員
- 5) 経営・政策科学研究科経営システムズ科学専攻修士論文審査委員

・社会的活動

- 1) 宇宙開発事業団「高度情報化委員会」委員、99年8月－01年3月
- 2) 電子情報通信学会e-ビジネスIT専門委員会委員
- 3) 講演：Qフォーラム、ソフトウェア計量化の新たな概念、99年10月、東京
- 4) 講演：新たなソフトウェア技術、中国NES、00年3月、広島

IV . その他の活動

- 1) 共同研究 “ Business Process Modeling手法に関する研究 ”、Prof. Scheer, Saarbrueken University (ドイツ連邦共和国)
- 2) 委託研究 “ PSPの適用に関する研究 ”、ソニー株式会社
- 3) 委託件研究 “ e-ビジネスIT：フレームワークアーキテクチャに関する研究 ”、NEC
- 4) 委託件研究 “ インタープライズモデリングに関する研究 ”、NTTソフトウェア

門田 安弘

・ 研究活動

(1) 研究業績

著書

- 1) 『日本のコストマネジメント：日本企業のコスト構造をいかに変えるか』同文館 1999年5月。(筆頭編著者、共編著者：浜田和樹・李 健泳)
- 2) 『管理会計学テキスト・第2版』税務経理協会 2000年3月(単編著)

論文 (*印は査読付き論文)

- 1) * JIT環境における車種投入順序問題のための2段階法、「日本経営工学会論文誌」Vol.50 No.1, 2000年2月. pp.455-463. (共著者、ゼラムディニ・ワリド、アイベド・ヘンリー)
- 2) * "Motivational Impact of the Type and Tightness of Target Cost Information: A Laboratory Experiment", Advances in Management Accounting, Vol.8, 1999. pp.159-171. (coauthored with Akter, M. and Lee, J.Y.)
- 3) * "Target Costing based on QFD", Controlling, Heft 11, November 1999. pp.525-534. (筆頭、coauthored with Mahfuzul Hoque)
- 4) * 原価企画におけるサプライヤー関係が原価低減に及ぼす効果に関する実証的研究、「管理会計学」Vol.8 No.1/2, 2000年. pp.119-137. (共著者：李 超雄)
- 5) * "Using Genetic Algorithms for Sequencing Mixed-Model Assembly Lines to Level Parts Usage and Workload", Proceedings of The Second Asia-Pacific Conference on Industrial Engineering and Management Systems (APIEMS'99), Oct.30-31, 1999, Kanazawa, Japan, pp.589-592. (coauthored with Walid Zeramdini and Henry Aigbedo)
- 6) * "Effects of Designers' Participation and Evaluation Measures on Simultaneous Achievement of Quality and Costs of Product Development, International Journal of Innovation Management, Vol.4 No.1, 2000. pp.77-96. (co-authored with Mahfuzul Hoque)
- 7) * "Bicriteria Sequencing for Just-in-time Mixed-model Assembly Lines", International Journal of Production Research, (coauthored with Walid Zeramdini and Henry Aigbedo,) (Accepted)
- 8) グローバル企業の業績管理会計, 日本学術会議・会計学研究連絡委員会篇「会計の国際化」2000年.
- 9) JIT生産のもとでのミニ・プロフィットセンターの会計 JIT生産方式とキャッシュフロー会計の邂逅, 「企業会計」Vol.52 No.5, 2000年5月号, pp.4-13.
- 10) "New Paradigm of Management Accounting Research on Decentralized Organizations", Japanese Accounting Forum, 1999, pp.16-18. (Japan Accounting Association刊行).
- 11) * "An Empirical Study on the Simultaneous Achievement of Quality, Cost and Timing in Product Development," International Journal of Manufacturing Technology and Management, Vol.1, No.2, 2000. (co-authored with Mahfuzul Hoque) (forthcoming)
- 12) 原価の諸概念 (共著者：松岡俊三) in: 『管理会計学テキスト・第2版』税務経理協会 2000年3月, 第2章 pp.25-44.
- 13) 原価企画の計算例, in: 『管理会計学テキスト・第2版』税務経理協会 2000年3月, 第16章 pp.335-349.

辞典

- 1) 日本管理会計学会編『管理会計学辞典』中央経済社, 2000年5月予定。(本辞典は編集委員長として過去6年間かけて編集に携わった。)
- 2) 櫻井通晴編『管理会計辞典』同文館, 2000年3月。執筆項目：JIT、かんばん、取引データ処理、EOQ、バックフラッシュ会計、感度分析、原価維持、原価改善、TPM、PM、社内振

替価格、内部取引、原価基準振替価格、交渉価格基準の振替価格、市価基準振替価格、QCD、
など16項目

その他（随筆）

- 1) 筑波大学における高柳先生の思い出、中央大学「総合政策研究：故高柳暁教授追悼論文集」
第5号、2000年3月. pp.12-16.

(2) 学会活動

学会誌編集

- 1) 日本管理会計学会の機関誌『管理会計学』の編集委員長(Editor in Chief)として、そのVol.6
No.2、Vol.7 No.1/2合併号、Vol.8 No.1/2合併号の3冊を平成11年度中に編集・刊行した。

学会の新規役職

- 1) 日本管理会計学会の副会長に選任された（任期4/1/1999 - 3/31/2002）
- 2) 日本管理会計学会の学会誌編集委員長に選任された（任期：4/1/1999 - 3/31/2002）
- 3) 日本管理会計学会の学会賞審査委員会委員に選任された（任期：4/1/1999 - 3/31/2002）
- 4) 日本経営分析学会の理事に選任された（任期：5/22/99 - 2002年第19回通常総会）

学会役職活動

- 1) 99年4月3日(土)、日本管理会計学会フォーラム（筑波大学大塚校舎）常務理事会、理事会など
に出席
- 2) 99年7月17日(土)、日本管理会計学会フォーラム（札幌学院大学）常務理事会などに出席
- 3) 99年9月6日(月)～8日(水)、日本管理会計学会全国大会（福岡大学）常務理事会、理事会、学
会賞審査委員会などに主席
- 4) 99年9月9日(木)～11日(土)、日本会計研究学会全国大会（京都産業大学）原価企画セッショ
ン4報告の司会
- 5) 99年9月30日(木)～10月1日(金)、日本原価計算研究学会（山口大学）理事会および学会賞審
査委員会などに出席
- 6) 99年11月27日(土)、日本管理会計学会フォーラム（武蔵大学）常務理事会などに出席

(3) その他の研究活動

- 1) 平成11年度文部省科学研究費補助金 萌芽的研究「社内分社制のもとでの社内資本金制度
と社内金利制度に関する研究」（課題番号10873016）研究代表者

・教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科：予算委員長
- 2) 社会工学研究科：運営委員、論文審査委員
- 3) 社会工学系：研究計画委員長
- 4) 大学センター：運営委員
- 5) 12単位の科目の授業を担当した
（社会工学類）会计学概論，経営計画，生産システム論
（経営政策研）管理会計論，経営演習1，生産管理論（大塚博士課程）
（社会工学研）管理会計演習
- 6) 計8名の研究指導を担当した
（社会工学類）3名，（経営政策研）1名，（社会工学研）5名

・社会的活動

講演：

- 1) 1999年4月12日、日欧産業協力センターにて EU Mission for "Challenge towards World Class
Manufacturing 99" に対し「New Development of Toyota Production System」を講演
- 2) 1999年4月13日、社会経済生産性本部 国際本部国際部にてラテンアメリカ・マネジメント
視察団に対し、「トヨタの生産・原価管理システムの新展開」を講演
- 3) 1999年9月21日、中部インダストリアル・エンジニアリング（IE）協会主催『管理・間接部
門生産性向上（業務革新）セミナー』にて「管理間接部門における生産性向上の推進方策
戦略・革新・改善のアプローチ」を講演し、かつコーディネータを務める
- 4) 1999年11月29日、社会経済生産性本部 国際本部国際部にてラテンアメリカ・マネジメント
視察団に対し、「トヨタの生産・原価管理システムの新展開」を講演

非常勤講師：

- 1) 東京大学経済学部 担当科目「管理会計」4単位、1999年度後期。
- 2) 国際大学大学院 国際経営学研究科 担当科目 Strategic Management of Manufacturing I : Japanese Cost Management, 1単位、1999年度。
- 3) 上武大学大学院 経営管理研究科 担当科目「管理会計特研」4単位、1999年度夏季集中講義

その他の活動

- 1) International Academy of Management(IAM) のメンバーに選任された。(IAMはスペインのバルセロナ大学(IESE)に本部がある。)

山田 直志

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "The Demand for Health Check-up and Uncertainty," in Transitions in Employment and Firm Benefit Policies in Japan and the United States (tentative title), eds. David A. Wise, Seiritsu Ogura and Toshiaki Tachibanaki. Chicago: University of Chicago Press, Forthcoming; and Institute of Policy and Planning Sciences, Discussion Paper Series, No.849, January 2000.
- 2) "Hospital Services under the National Health Insurance System: A Transition from Fee-for-Service to Capitation System," in Health Economics, eds. M. Grossman, T.W. Hu, and C. R. Hsieh. U.K.: Edward Elgar Publishing, Forthcoming, (with Tetsuji Yamada, Seiritsu Ogura and Reiko Suzuki).
- 3) "Determinants of Social Violence among the Youth and Anti-Health Activities: Policy Implications," Violence and Health, World Health Organization (WHO), WHO Publication, Forthcoming, (with Tetsuji Yamada, Ratona Karmakar and Gordon G. Liu); and University of Chicago Press, Forthcoming; and Institute of Policy and Planning Sciences, Discussion Paper Series, No.838, November 1999 (with Tetsuji Yamada, Ratona Karmakar and Gordon G. Liu).
- 4) "Differentials in the Demand for Health Check-up," 『季刊・社会保障研究』, Forthcoming, University of Tsukuba, Institute of Policy and Planning Sciences, Discussion Paper Series, No.876, June 2000 (with Tetsuji Yamada).
- 5) "日本女性の離職行動," 労働市場研究委員会報告書 2000年3月、University of Tsukuba, Institute of Policy and Planning Sciences, Discussion Paper Series, No.860, April 2000.

(2) 学会活動

- 1) "Differentials in the Demand for Health Check-up in Japan," the 35th Econometrics Research Conference (Biwako Conference), Kyoto, Japan, July 13 - July 15, 2000.
- 2) "The Demand for Health Check-up and its Effect on the Length of Hospital Stay," the 75th Annual Western Economic Association International Conference, Vancouver, B.C., Canada, June 29 - July 3, 2000.
- 3) Comment on Paper entitled "Alcohol Consumption and Alcohol Advertising Bans," by Henry Saffer, National Bureau of Economic Research, the 75th Annual Western Economic Association International Conference, Vancouver, B.C., Canada, June 29 - July 3, 2000.
- 4) "The Demand for Health Check-up and Uncertainty," Conference on Labor Markets and Firm Benefit Policies in Japan and the United States by Japan Center for Economic Research and National Bureau of Economic Research, Hawaii, January 20-23, 2000.
- 5) "Determinants of Social Violence among the Youth and Anti-Health Activities: Policy Implications," WHO International Conference to be held in Kobe, Japan, October 12-15, 1999.
- 6) "Medical Services and Imperfect Information in," the 6th International Conference on Japanese Information in Science, Technology, Education & Commerce to be held at the European Institute of Japanese Studies (EIJIS), Stockholm School of Economics, Sweden, September 1-3 1999.

(3) その他の研究活動

- 1) 科研費：基盤研究(C) 研究課題名：高齢者医療の部分的定額制導入と医療セクター及びマクロ経済システムへの影響

教育・業務活動

学類

- 1) カリキュラム委員
- 2) コンピュータ委員

学系

- 1) 施設委員

大学

- 1) 就職委員会委員

山本 芳嗣

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) X.J. Liu, T. Umegaki and Y. Yamamoto, "Heuristic methods for linear multiplicative programming," Journal of Global Optimization 15 (1999) 433-447.

(2) 学会活動

- 1) 講演・学会発表
2000年1月, 福島大学行政社会学科 「大学における数理計画の応用」
- 2) 編集委員等
 1. 日本オペレーションズ・リサーチ学会論文誌
 2. Optimization and Engineering

(3) その他研究活動

- 1) 文部省科学研究費基盤研究C「非凸数理計画問題の大域的最適化法の研究」

教育・業務活動

- 1) 学生生活審議会委員
- 2) 社会工学系運営委員
- 3) 経営・政策科学研究科運営委員、修士論文委員会委員長
- 4) 社会工学類非常勤講師審査委員、クラス担任、学生委員

吉澤 正

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) (監修) 吉澤正監修・日本電気(株)NECエコ・マネジメント委員会編(1999): ECにおける環境マネジメントの実際, 企業における環境マネジメントシリーズ6, 日科技連出版.
- 2) (監修・執筆) 吉澤正編集(1999): 環境マネジメント便覧, 日本規格協会.
- 3) (編集・執筆) 吉澤正編(2000): OHSAS 18001・18002労働安全衛生マネジメントシステム, 日本規格協会.
- 4) Yuko Nishiyama and Tadashi Yoshizawa(1999). "A study on the management system for human development in Japanese Deming-prize-winner companies", Proceedings of Conference on TQM and Human Factors, Linkoping, Sweden, pp.90-95.
- 5) Takamichi Kihara, Tadashi Yoshizawa et al. (2000): "An Application of QFD to System Integration Test 煤CQuality(品質), Vol.30, No.1, pp.113-125.
- 6) 吉澤正(2000): 労働安全衛生マネジメントシステムの標準化と審査登録制度, 安全工学, 第39巻2号, pp.80-86.
- 7) 吉澤正(2000): 環境分野におけるISO. 水環境学会誌, 第23巻4号, pp.192-197.

(2) 学会(国際・国内) 活動等

- 1) 日本品質管理学会会長(1998年10月-1999年9月)
- 2) プロジェクトマネジメント学会会長(2000年3月-)
- 3) 第51回国際統計協会大会, ヘルシンキ, フィンランド, 1999年8月

- 4) 第13回アジア品質会議 (AQS), 大阪, 1999年11月
- (3) その他の研究活動
 - 1) 日本学術会議人工物設計・生産研究連絡委員会経営管理工学専門委員会委員
 - 2) ISO/TC207総会, スtockホルム, スウェーデン, 2000年6月

・教育・業務活動

- 1) 中央大学非常勤講師 夜間大学院外部評価実行委員会委員長

・社会的活動

- 1) 環境管理規格審議委員会副委員長
- 2) 日本適合性認定協会環境部会委員長
- 3) 日本統計協会理事
- 4) 全国統計連合会理事

IV. その他

- 1) 東京大学工学系研究科先端学際工学専攻外部評価委員長
- 2) 山梨大学工学部外部検証委員

赤根谷 達雄

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Theorizing IR the Asian Way: Security Studies in Japan,” 『政治経済学研究』(筑波大学国際政治経済学研究科)第5号(2000年3月)、1-17頁
- 2) “The View from Japan: Tasks for the G8 Kyushu-Okinawa Summit Meeting,” NIRA Review, vol.7, no. 2, Spring 2000, pp.11-15.

(2) 学会(国際・国内)活動

- 1) 国際法学会2000年度研究大会(2000年5月14日、京都産業大学)において、「WTOとグローバル・ガバナンス」との論題で報告
- 2) 日本国際政治学会2000年度研究大会(2000年5月19日~21日、名古屋国際会議場)の部会において、「先進国サミットとグローバル・ガバナンス サミットの機能と限界」との論題で報告(5月20日)

(3) その他の研究活動

- 1) 内閣安全保障・危機管理室長の私的研究会「総合安全保障研究会」の委員

・教育・業務活動

- 1) 国際総合学類入試実施委員
- 2) 国際総合学類カリキュラム委員
- 3) 国際総合学類クラス担任
- 4) 国際政治経済学研究科入試実施委員
- 5) 国際政治経済学研究科カリキュラム委員

III. 社会的活動

- 1) 財団法人南西地域産業活性化センター(沖縄那覇市)の「国際研究拠点調査」意見交換会に出席(2000年3月6日)

IV. その他

- 1) 人事院公務員研修所において、国家公務員上級職採用者(1種試験合格者)に対する初任行政研修の一環として、国際関係演習の講師を担当

岩城 秀樹

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 木島正明, 岩城秀樹「経済と金融工学の基礎数学」1999年10月, 朝倉書店.
- 2) 岩城秀樹「デリバティブ」, 青山 護, 井上 正, 松井美樹編著「制度経営学入門」第9

章, pp.186-197, 1999年11月, 中央経済社.

- 3) Hideki Iwaki, Masaaki Kijima: "An Economic Premium Principle in Multiperiod Time Horizon", Proceedings of 9th International AFIR Colloquium, Tokyo, Japan, pp.125-140 (1999).
- 4) Hideki Iwaki, Masaaki Kijima, Katsuya Komoribayashi: "Optimal Life Insurance and Portfolio choice in a Life Cycle", Proceedings of ASSM2000, International Conference on Applied Stochastic System Modeling, Kyoto, Japan, pp.88-86 (2000)
- 5) 岩城秀樹「無裁定価格とリスク・ヘッジ」SUT Bulletin, Mar 2000, pp.4-7.

III. 社会的活動

- 1) 南山大学経営学部経営学科 非常勤講師 (演習, 演習 及び卒業論文)

大沢 幸生

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 砂山渡・野村勇二・大澤幸生・谷内田正彦: Webページ検索におけるユーザの興味表現支援システム, 電子情報通信学会誌 J82-D-1, No.12, 1394 --1402 (1999)
- 2) Yukio Ohsawa, Discovery of Unknown Causes from Unexpected Co-occurrence of Inferred Known Causes, Journal of New Generation Computing Vol.18-1, 75--86, (2000)
- 3) 大澤幸生: 地震履歴データマイニングによる危険断層の発見, 人工知能学会誌 Vol.15, No. 1, 57--60 (2000)
- 4) 大澤幸生・谷内田正彦: キーワード抽出法 KeyGraph の転用による地震履歴データからの要注意活断層発見支援, Vol.15, No. 4, 665 -- 672 (2000)

大澤 義明

I. 研究活動

(1) 研究業績

(1) 論文

- 1) Y.Ohsawa and T.Koshizuka(2000). Evaluation of zone orderings based on the correlations of order-differences and distances. Geographical Analysis, 32(1), 173-185.
- 2) Y.Ohsawa(2000). Bicriteria Euclidean location associated with maximin and minimax criteria. Naval Research Logistics, (in the press).

(2) 学会口頭発表

- 1) 大澤義明, ジョルジュ・デュプレー, 車田宇子(1999). 学園都市施設計画の国際比較 - ルーバン・ラ・ヌーブと筑波とを対象として -, 建築学会第17回地域施設計画シンポジウム, pp.45-54.
- 2) 大澤義明(1999). 通勤行動から見た研究学園都市の比較 - ルーバン・ラ・ヌーブと筑波とを対象として -, 1999年度日本建築学会大会学術講演梗概集 - 都市計画・建築経済・住宅問題, pp83-84.
- 3) Y.Ohsawa(1999). A bicriteria location model for an undesirable facility. The 15th International Federation of Operational Research Societies, (Beijing, China).
- 4) Y.Ohsawa(1999). Two-dimensional commodity tax competition. 第13回応用域学会研究発表会, (熊本).

(3) セミナー発表

- 1) 東北大学情報科学研究科、ルーバンカトリック大学経済学部 (ベルギー、ルーバンラヌーブ) のセミナーにて発表.

(4) その他

- 1) 科学研究費 (萌芽的研究) 「都市計画における時空間自由度の大きさとその影響に関する研究」の研究代表者
- 2) 大澤義明(1999). 筑波研究学園都市に暮らして. 宅地開発, 177, pp.52-54.

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類学生委員，クラス担任
- 2) 社会工学系研究計画委員
- 3) 研修施設運営委員及び山中共同研修所運営委員

・社会的活動

- 1) 都市計画学会学術委員
- 2) 建築学会地域施設計画小委員会委員
- 3) 建築学会建築システム最適化特別研究委員会委員

太田 充

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) * 小野正雄、太田充、佐藤仁志、東京大都市圏の効用分布の推計と住居選択モデルの応用可能性に関する研究、地域学研究、第29巻 第三号、pp. 25-37、1999.
- 2) 太田充、佐藤仁志、テレコミュニケーションの副都心の形成に及ぼす影響に関する分析、第13回研究発表大会、1999年12月4日 於 熊本学園大学.
- 3) 産業立地論から見た最適環境5つのポイント、Forbes日本版2000年5月号、Gyosei、pp. 136-137.

(2) 学会活動

- 1) 日本都市計画学会学術委員会委員

(3) その他の研究活動

- 1) 科学研究費奨励研究(A) 1998-1999 都市内情報流を考慮した空間構造の自己組織化

・教育・業務活動

- 1) 社会工学系ファカルティセミナー委員長

小場瀬 令二

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 建築学会関東支部の研究論文発表会で「ロードサイドショップが連坦する道路における空間秩序に関する基礎的研究」p413～416を発表した
- 2) 財団法人日本住宅住宅協会が主催して開かれる 第16回ハウジング研究講演会で「茨城県南部地域における住宅地開発の現況-限界住宅地の市場からの退場?-」p36～41を講演した

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会の関東支部主催のシンポジウム「川崎市新百合丘のまちづくり」のコーディネーターを務める
- 2) 日本建築学会都市計画委員、学会雑誌編集委員を務める
- 3) 日本都市計画学会の学術委員を務めた
- 4) 夏期には、中国の黄山で開催された「国際農村集落学会」に参加し、集落についての調査を行った

(3) その他の活動

- 1) 研究室で取り組んだ、阿見町の「阿見中学校横の歩行者緑道」のワークショップでの計画が実現化し、県より「ブルーリボン賞」受賞
- 2) 茨城県木材組合主催、県の住宅供給公社共催の「水戸市百合丘団地内の木造住宅設計コンペで」最優秀を受賞した。
- 3) 日本建築学会関東支部主催「美しくまちを作る、村をつくる」コンペで優秀賞受賞した

・教育・業務活動

- 1) 昨年の夏期のオープンキャンパスの折には、都市系からミニ講義の担当者として、来校高校生に景観シミュレーションの授業を行った

・社会的活動

- 1) 鹿嶋市の都市計画マスタープラン策定委員会会長
- 2) 水戸市役所景観アドバイザー
- 3) つくば市総合運動公園策定委員会委員
- 4) 阿見町の景観計画、美浦村のホープ計画、等の計画立案や調査に直接関わった

梶井 厚志

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "The Structure of Sunspot Equilibria: the Role of Multiplicity," with Piero Gottardi. Review of Economic Studies, 66 (1999), 713-732.
- 2) "Temporal Resolution of Uncertainty and Recursive Non-Expected Utility Models," with Simon Grant and Ben Polak. Econometrica, 68, (2000), 425-434.
- 3) "Preference for Information and Dynamic Consistency," with Simon Grant and Ben Polak. Theory and Decision. Volume 48, issue 3 (May 2000) pages 263-286.

(2) 学会活動

- (1) 学会発表
 - 1) Game theory conference (香港市立大学)
 - 2) Conference on Game Theory and Contracts (京都大学)
 - 3) 「認識論理とゲーム論」学会発表 (京都大学数理解析研究所)
- (2) セミナーでの発表
 - 1) 慶応大学経済学部 (TCERセミナー)

(3) その他の研究活動

- 1) 2000年度科学研究費

III. 社会的活動

- 1) 二酸化炭素排出権取引問題研究会委員 (地球産業文化研究所)

金沢 雄一郎

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Survey Responses: The Case of Japanese Voters on Party Support, Behaviormetrka, to appear.
- 2) Evaluating treatments of rapidly progressive glomerulonephritis when the response is potentially non-ignorably missing, Japanese Journal of Biometrics, to appear.

岸本 直樹

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "Pricing Path Dependent Securities by the Extended Tree Method," (undersubmission)

(2) 学会活動

- 1) Associate Editor, International Review of Finance

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学系： 図書委員
- 2) 社会工学類： 入試実施委員、クラス担任 (1年次)
- 3) 経営・政策科学研究科： 募集委員 (インターネット)

金顕哲

. 研究活動

(1) 研究活動

- 1) Rajiv Lal, Chansu Park and Hyunchul Kim(2000),"Margin or Sales? Two Royalty Structures in the Japanese Convenience Store Industry," in Japanese Distribution Strategy, M.R.Czinkota and

M.Kotabe, eds. London, Business Press, pp253-262

- 2) 金顕哲・千本木修一(1999)、コンビニエンス・ストアにおける廃棄ロスの最適配分について、流通情報、364、4 - 14頁
- 3) 金顕哲(1999)、流通業における組織間学習、流通研究、2巻2号、47 - 60頁

教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科で流通論、マーケティング等を担当
- 2) 企業科学専攻の入試担当

社会的活動

- 1) 伊藤謝恩育英財団後援の小売イノベーション研究会の座長
- 2) 武蔵大学非常勤講師

久野(吉瀬) 章子

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) A complexity analysis of a smoothing method using CHKS-functions for monotone linear complementarity problems, to appear in Computational Optimization and Applications.
- 2) complexity bound of a predictor-corrector smoothing method using CHKS-functions for monotone LCP, Discussion Paper Series, Institute of Policy and Planning Sciences.
- 3) OR事典2000 項目「内点法」, 日本オペレーションズ・リサーチ学会

(2) 学会活動

- 1) Complexity analysis for a path-following smoothing algorithm using CHKS-function, International Federation of Operations Research Societies, The Friendship Hotel, Beijing, China.
- 2) 線形相補性問題に対するCHKS関数を用いたプレディクタ・コレクタ型平滑法の計算複雑度解析と計算機実験, 1999年度日本OR学会秋季研究発表会.

教育・業務活動

- 1) 教育計画室室員
- 2) 社会工学類学生担当教官
- 3) 社会工学類学類運営委員
- 4) 社会工学研究科入試実施委員

久野 靖

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 久野 靖, 普通教科「情報」におけるWWW情報発信教育の位置付け, 情報処理学会「情報教育」シンポジウムSSS'99, pp. 39-46, 1999.
- 2) 上田哲郎, 久野 靖, Nuts --- ホワイトボックスコンポーネントアーキテクチャ, 電子情報通信学会論文誌D-I, Vol. J82-D-I, pp. 1008-1016, 1999.
- 3) 上田哲郎, 久野 靖, ベクターコンポーネント --- コンポーネント結合による差分プログラミング, 情報処理学会PRO論文誌, Vol. SIG 7(PRO 4), pp. 40-50, 1999.
- 4) Yasushi Kuno, Solving Inheritance Anomaly Problems by State, Abstraction-Based Synchronization, Jean-Paul Bahsounet. al. eds., Object-Oriented Parallel and Distributed Computation, pp. 167-186, Hermes.
- 5) 久野 靖, OS/言語処理系とセキュリティ, 山口, 鈴木編, bit別冊「情報セキュリティ」, pp. 126-141, 共立, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会初中等教育委員会委員, 教科書ワーキンググループ委員.
- 2) 情報処理学会プログラミング研究会連絡委員, PRO論文誌編集委員.

教育・業務活動

- 1) 修士経営システム科学専攻において、プログラミング基礎、計算機ソフトウェア、計算機

プログラミング輪講I、計算機プログラミング輪講II、計算機システム、経営システム科学特別研究I～IVを担当

- 2) 博士課程企業科学専攻において、情報システム技術論、システムズマネジメント講究I～IVを担当
- 3) 東京地区SCSワーキンググループ委員
- 4) 附属学校情報教育委員会委員
- 5) 東京大学教養学部非常勤講師(計算機プログラミングI)

グレーヴァ、ヘンリク・R.(GREVE, Henrich R.)

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Fujiwara-Greve, Takako and Henrich R. Greve. Forthcoming. “ Organizational ecology and job mobility. ” Social Forces, forthcoming.
- 2) Greve, Henrich R. and Alva Taylor. 2000. “ Innovations as catalysts for organizational change: Shifts in organizational cognition and search. ” Administrative Science Quarterly, 45 (March): 54-80.
- 3) Greve, Henrich R. 2000. “ Market niche entry decisions: Competition, learning, and strategy in Tokyo banking, 1894-1936. ” Academy of Management Journal, 43 (October): in press.
- 4) Greve, Henrich R. 2000. “ Organizational investment decisions: Learning through adaptive aspiration levels. ” Association of Japanese Business Studies Best Paper Proceedings: 89-101. Oiso, Japan: AJBS.
- 5) Greve, Henrich R. 2000. “ Learning about innovation: Organizational attention and social structure. ” Conference on Knowledge and Innovation: Paper Proceedings. Helsinki, Finland: Helsinki School of Economics and Business Administration.
- 6) Greve, Henrich R. 1999. “ The effect of change on performance: Inertia and regression toward the mean. ” Administrative Science Quarterly, 44 (September): 590-614.
- 7) Greve, Henrich R. 1999. “ Branch systems and nonlocal learning in populations. ” Advances in Strategic Management, 16: 57-80.

(2) 学会活動

- 1) The Academy of Management Association Meetings 2000 (Toronto, Canada)
 - “ Sticky aspirations across time: Organizational time perspective and competitiveness. ” (報告はテープで販売予定)
 - “ Organizational investment decisions: Learning through performance feedback or slack search? ”
 - “ Where have all the actors gone? Using micro theory to explain macro behavior ” (部会オーガナイザー、Pino Audioと共同(4))
- 2) The Sunbelt Conference on Social Networks 2000 (Vancouver, Canada) “ General models of social influence. ” (Nancy Brandon Tumaと共同)
- 3) Association of Japanese Business Studies Meetings (慶応大学湘南藤沢キャンパス)
“ Organizational investment decisions: Learning through adaptive aspiration levels. ”
- 4) Conference on Knowledge and Innovation (Helsinki, Finland)
“ Learning about innovations: Organizational attention and social structure. ”

(3) その他の研究活動

- 1) “ Organizational investment decisions: Learning through adaptive aspiration levels. ” Norwegian School of Economics and Business Administration, 平成12年5月29日
- 2) “ Organizational investment decisions: Learning through adaptive aspiration levels. ” Norwegian School of Management, 平成12年5月30日.

教育・業務活動

- 1) 社会工学類：行動科学概論、組織行動論
- 2) 経営政策修士過程：組織と戦略、行動科学演習
- 3) 社会工学類薄志過程：マクロ組織論

小林 信一

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 小林信一、科学技術のモード論の背景と展開、日本金属学会会報(まてりあ)、38巻11号、pp.3-6、1999年11月
- 2) KOBAYASHI,S., Changes in the S&T Labor Market and its Future、Mobilising Human Resources for Innovation、Proceedings from the OECD Workshop on Science and Technology Labor Markets、DSTI/STP/TIP(99)2/FINAL、pp91-99、Dec. 1999
- 3) 小林信一、科学技術基本計画時代の科学研究費、高等教育財政の国際比較(高等教育計画・財政研究会講演録第2集)、pp.197-224、1999年12月
- 4) Shinichi Kobayashi、Applying Audition Systems from the Performing Artst R&D Funding Mechanisms、Research Policy、vol.29、no.2、pp.181-192、Feb. 2000

(2) 学会活動

- 1) 小林信一、科学技術のモード論(招待講演)、熱工学講演会講演論文集、日本機械学会、pp.41-42、1999年10月
- 2) 小林信一、「科学技術と社会、その背景」、日本工学会第9回「科学技術振興・推進に関するシンポジウム」、1999年12月17日
- 3) 研究・技術計画学会・編集委員長
- 4) 日本高等教育学会・編集委員
- 5) 社会情報学会・評議員

(3) その他の研究活動(科研費、学内プロ、受託研究など)

- 1) OECD Workshop on Research-Based Spin-Offs(1999年12月8日)のPanel Discussion on Policies for Spin-off Formationにパネリストとして参加、発表
- 2) The First JAPAN-Korea Science and Technology Forum(1999年11月24、25日、ソウル)に参加し、"Education Systems in Knowledge Society"について発表
- 3) 文部省科学研究費補助金研究代表者
 1. 基盤研究(B)(2)「新しい知識生産」の日仏比較
 2. 基盤研究(C)(1)「知識生産システムのモード転換とポスト・マス高等教育時代の大学」
- 4) 文部省科学研究費補助金研究分担者(数件)

教育・業務活動

- 1) 国際基督教大学非常勤講師(科学技術と社会：特別研究Ⅰ)

社会的活動

- 1) 科学技術庁科学技術政策研究所外部評価委員会委員
- 2) 通産省産業技術審議会専門委員
- 3) 東京都総合技術教育センター平成11年度先端技術研修会・講師

IV. その他の活動

- 1) 科学技術庁科学技術政策研究所第2研究グループ総括主任研究官(兼任)

猿渡 康文

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「ピザショップ開店計画」、実用OR入門セミナーテキスト、pp.67-72、1999

(3) その他の研究活動(科研費、学内プロ、受託研究など)

- 1) 文部省科学研究費補助金奨励研究(A) 「グラフ構造を有する組合せ最適化問題に対する並列解法の構築」

・ 教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科経営システム科学専攻入試担当委員

・ 社会的活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 研究普及委員会委員
- 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 編集委員
- 3) 日本オペレーションズ・リサーチ学会 「新編OR事典」編集幹事
- 4) 中央大学理工学部非常勤講師(プログラム言語C, プログラム言語C演習)

庄司 功

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Approximation of conditional moments of diffusion processes (multi dimensional case) (投稿中)
- 2) An approximation method of conditional moments of diffusion processes (one dimensional case), Proceedings of the International Symposium on Frontier of Time Series Modeling, 264-275
- 3) Approximation of nonlinear term structure models, with H. Takamizawa (投稿中)
- 4) Estimating the single-factor CIR model by Kalman filter, with Y. Makita (投稿中)
- 5) Comparative analysis of stochastic models for financial uncertainty in forest management, with A. Yoshimoto, Optimal Landscape Management in Farm Woodlands, 121-148.
- 6) Reconsideration of the local linearization scheme for nonlinear time series modeling, with T. Ozaki, Optimal Landscape Management in Farm Woodlands, 149-162

・ 教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科 修士論文委員
- 2) 社会工学研究科 論文審査委員
- 3) 統計数理研究所予測制御研究系併任

IV . その他の活動

- 1) Program Committee, International Symposium on Frontiers of Time Series Modeling

徐 華 (XU Hua)

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) H. Xu and K. Mizukami, Nonstandard Extension of H infinite Optimal Control for Singularly Perturbed Systems, Annals of the International Society of Dynamic Games, Vol.5, pp.81-94, 2000.

(2) 学会活動

- 1) H. Xu, Connection Between the Generalized Riccati Equations and the Standard Reduced-Order Riccati Equations, International Congress on Dynamics and Control of Systems, Ottawa, Canada, August, 1999.

・ 教育・業務活動

- 1) 経営システム科学専攻入試担当委員

・ 社会的活動

- 1) The external examiner of the Ph.D degree thesis of Nanyang Technological University, Singapore.

I . 研究活動

(1) 研究業績

学術論文

- 1) 竹村和久 1999 広告コミュニケーション効果の状況依存性とその説明広告科学, 39, 163-169. (Takemura, K. 1999. Context dependences of advertising communication effects and an theoretical explanation of them. Advertizing Science, 39, 163 - 169. (In Japanese))

編著

- 1) 山本嘉一郎・小野寺孝義・竹村和久(編著) 1999 SPSS オプション編 東洋経済(K.Yamamoto, T.Onodera, & K.Takemura(Eds.), 1999 SPSSX:Option version, Toyo-Keizai).
- 2) 竹村和久(編著) (印刷中) 消費行動の社会心理学 北大路書房 (K.Takemura(Ed.), (in press) Social psychology of consumer behavior. Kyoto: Kitaohji Shobo. (In Japanese))

著書(分担執筆)

- 1) 竹村和久 2000 援助行動研究 下山晴彦(編) 臨床心理学の技法 福村出版(Takemura, K. 2000 Research method of helping behavior In H.Shimoyama (Ed.), Techniques for clinical psychology. Fukumura Shuppan.(In Japanese))
- 2) Takemura,K. (in press) Vagueness in judgment and decision: Analysis of fuzzy rating data, In Q. Liu, & S. Miyamoto, Yager(Eds.), Softcomputing for human centered centered machines. Springer Verlag. (In English)
- 3) Takemura, K. (in press) Contingent decision making in the social world: The 'Mental Ruler' model. In C. M. Allwood, & M. Selart (Eds.), Decision making: Its creative process and group factors. Kluwer Academic. (In English)

事典・ハンドブック(分担執筆)

- 1) 林英夫・上笹恒・種子田實・加藤五郎(編著) 2000 体系マーケティング事典 同友館(H. Hayashi, H.Kamisasa, M.Taneda, G.Kato (Eds.), 2000 Marketing research encyclopedia, Do h yukan.(In Japanese)) (11, 12, 17, 18章を担当)
- 2) 日本認知科学会(編) (印刷中) 認知科学事典 共立出版(Japanese Cognitive Science Society (Ed.), (in press) Dictionary of cognitive science, KyoritsuSuppan (In Japanese).) (意思決定関連用語を担当)
- 3) 日本ファジィ学会(編) (印刷中) ファジィ・ハンドブック 日刊工業(Japanese Association of Fuzzy Sets and Systems (Ed.), Handook of Fuzzy set theory, Nikkan Kogyo.(In Japanese)) (心理・評価関連の節を担当)

書評

- 1) 竹村和久 1999 書評 「藤沢等著 複合システムネットワーク論：心と社会のシステム理論 北大路書房」 社会心理学研究, 14(2), 108 - 110. (Takemura, K. Book review: Fujisawa,H. Theory of complex system networks: A system theory of mind and society Kitaoji-syobo, Research in Social psychology, 14(2), 108-110. (In Japanese))
- 2) 竹村和久 1999 書評 「中村和男・富山慶典著 選択の数理：個人的選択と社会的選択 朝倉書店」 行動計量学, 26(1), 60 - 63. (Takemura, K. Book review:Nakamura,K. and Tomiyama,Y. Mathematical theory of choice: individual choice and collective choice,Japanese Journal of Behaviometrics, 26(1), 60-63. (In Japanese))

未公刊論文(Working Paper等)

- 1) Takemura,K., & Selart, M. 1999 Decision making with information constraints. Descussion Paper, Institute of Policy and Plannning Sciences, University of Tsukuba, Japan (In English).
- 2) Smithson,M., Bartos, T., & Takemura,K. 1999 Human judgment under sample space ignorance., Working Paper, Department of Psychology, Australian National University,Australia (In English).
- 3) Boe,O., Selart.,M., Takemura,K. 2000 Perspectives on information acquisition: Rethinking its role in the construction of reason-based preferences. Goteborg Psychological Reports, Goteborg University Sweden, Vvol.30, 20(In English).
- 4) Takemura, K. 2000 Contingent decision making in the social world: The 'Mental Ruler' model. Working paper, Department of Social and Decision Sciences, Carnegie Mellon University, USA (In English).

- 5) Selart, M., Boe, O., & Takemura, K. 2000 What matters in the building of preferences: Decision heuristics or social value orientation? Working paper. Vaxjo University, Sweden (In English).
- (2) 学会活動
- 1) 学会発表
日本行動計量学会、日本ファジィ学会、日本社会心理学会、日本グループダイナミックス学会で計11件の国内学会発表を行った。また、国際主観的期待効用理論学会(SPUDM)、国際不確実性研究シンポジウム (IPTA)で計2件の発表を行った。
 - 2) 学会役員
日本行動計量学会編集委員、日本心理学会評議員、日本広告学会専門委員、日本ファジィ学会・ノンエンジニアリング部会幹事
 - 3) 論文査読
IEEE、日本心理学会、日本行動計量学会、日本社会心理学会、日本グループ・ダイナミックス学会の学会誌の査読を行った
- (3) その他の研究活動
- 1) 講演発表
カーネギーメロン大学社会意思決定学部およびサウスカロライナ大学心理学部で意思決定研究に関する招待講演を行った
 - 2) 海外研修
フルブライト上級研究員として、米国カーネギーメロン大学社会意思決定学部において海外研修を、1999年12月より9ヶ月間行った。

・教育・業務活動

- 1) 授業
社会工学類 マーケティング、問題発見とモデル化
経営政策科学研究科 マーケティング
社会工学研究科 消費者行動論
- 2) 論文指導・演習
社会工学類
経営政策科学研究科
社会工学研究科

III. 社会的活動

- 1) 住宅金融公庫総合企画調査室講師
- 2) サッポロビール企画調査室講師
- 3) アサツーDK マーケティングサイエンス部門講師
- 4) 博報堂マーケティング研究部門講師
- 5) 日本中小企業診断士会 経営戦略研究会講師
- 6) フルブライト上級研究員としてJUSECおよびCIES主催の各種の社会活動や会議に参加した。

豊谷 整克

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Tatamitani, Y., " Implementation by Self-Relevant Mechanisms, " under revision for Journal of Mathematical Economics.
- 2) Tatamitani, Y., " Self-Relevant Implementation: Algorithms and Applications, " April, 2000, mimeo.

・教育・業務活動

- 1) 社会工学系： 予算委員
- 2) 社会工学類： 学類運営幹事
- 3) 経営・政策科学研究科： 入試委員

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) An efficient load balancing algorithm based on a two-threshold cell selection scheme in mobile cellular networks (with S.K. Das), Computer Communications, Vol. 23, No. 5-6, pp.441-461 (2000)
- 2) An integrated routing and admission control mechanism for real-time multicast connection establishment (with X. Jia), Accepted for publication in Int. J. Communication Systems (2000).

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学系コンピュータ委員
- 2) 社会工学系技官委員会委員
- 3) 社会工学類コンピュータ委員
- 4) 社会工学研究科情報機器委員

鄭 小平(Xiao-Ping Zheng)

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「ネットワーク経済性と地域経済に関する実証研究：道路交通網と工業生産性を中心に」、『日本都市計画学会学術研究論文集』、第34巻、235～240頁（安藤靖雄氏と共著）
- 2) Economies of network, urban agglomeration, and regional development: a theoretical and empirical analysis. 『日本交通政策研究会シリーズ』、A-278-1、1～13頁
- 3) Estimating the effects of moving capital functions on the Tokyo metropolitan area. Australasian Journal of Regional Studies, Vol.5, No.2,pp.131-151.

(2) 学会活動

- 1) 1999年11月に、慶応大学藤沢キャンパスにて日本都市計画学術研究論文発表会に出席し、研究報告を行った
- 2) 1999年12月に、熊本学園大学にて応用地域学会研究発表会に出席し、研究報告を行った
- 3) 2000年3月に、ドイツのミュンヘンにて国際大西洋経済学会の第49回大会に出席し、研究報告を行った

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学系図書委員会委員
- 2) 社会工学類予算委員会委員
- 3) 経営・政策科学研究科新コース準備委員会委員

. 社会的活動

- 1) 国際地域学会機関誌 Papers in Regional Science の Editorial Board メンバー

津田 和彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Hiroshi Fujimori, Hiroaki Shirai, Hisatoshi Suzuki, Yasushi Kuno, Kazuhiko Tsuda, Takao Terano : "Business Game Development Toolkit for the WWW Environment", 3rd International Conference on Knowledge-Based Intelligent information Engineering Systems, Adelaide, Australia, pp.469-472 (1999)
- 2) Kazuhiko Tsuda, Masami Nakamura : "The Extraction Method of the Word Meaning Class.", 3rd International Conference on Knowledge-Based Intelligent information Engineering Systems, Adelaide, Australia, pp.534-537 (1999)
- 3) Kazuhiko Tsuda, Tomoko Nakamura : "The Method of Learning the Word Meaning Relation from

the Documents.", 8th Multi-Agent and Cooperative Computing Workshop. Kyoto, Japan, pp.83-84 (1999)

- 4) Osamu Yamagata, Tomoko Nakamura, Kazuhiko Tsuda : "A consideration about the focusing WWW-pages by using the degree prediction of concern.", 8th Multi-Agent and Cooperative Computing Workshop. Kyoto, Japan, pp.85-86 (1999).
- 5) Takao Terano, Hisatoshi Suzuki, Yasushi Kuno, Kazuhiko Tsuda, Hiroshi Fujimori, Hiroaki Shirai : "Business Game Development Toolkit With Software Agents.", 8th Multi-Agent and Cooperative Computing Workshop. Kyoto, Japan, pp.73-74 (1999).

(2) 学会活動

- 1) 情報処理学会 知能と複雑系研究会 連絡委員
- 2) 国際会議 International Conference on Computer Processing of Oriental Languages program committee

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費補助金基盤研究(B) (2) 「高度職業人要請のためのビジネス教育ツールの開発」

・ 教育・業務活動

- 1) 筑波大学大学院経営・政策科学研究科企業科学専攻システムズ・マネジメント教育担当

・ 社会的活動

- 1) 徳島大学大学院 工学研究科 知能情報工学専攻 非常勤講師(自然言語理解)

椿 広計

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 尾島善一,仁科健,椿広計,加藤洋一(1999)統計的方法JISの大改正 - ISOとの整合化, 品質月間テキスト291巻, 品質月間委員会.
- 2) 椿広計,藤田利治, 佐藤俊哉編(1999)これからの臨床試験 ,医薬品の科学的評価 - 原理と方法, 朝倉書店.
- 3) 椿広計(1999)製品規格の環境配慮,環境マネジメント規格における用語と定義,吉澤正編環境マネジメント便覧での分担執筆, 日本規格協会 .
- 4) 椿広計、栗原雅直(1999)臨床評価における総合評価の意義, 臨床評価27巻83-99 .
- 5) 佐藤栄作、椿広計(2000)来店目的と同時購買の影響を考慮した小売店舗内空間行動モデル, マーケティング・サイエンス8巻1-2号,46-68.

(2) 学会活動

研究発表

- 1) 横田達也, 椿広計, 笹野泰弘(1999)ADEOS 衛星搭載センサー ILAS のデータ処理における誤差評価 (その 4), 日本リモートセンシング学会第 26 回学術講演会 .
- 2) 佐藤正博, 椿広計(1999)地球温暖化統合モデルの研究 , 環境経済政策学会1999年大会 .
- 3) 椿広計(2000)混合状態を記述する統計モデル - ミクセル問題への接近, 日本計量生物学会・応用統計学会2000年度合同年次大会.
- 4) 岩崎学, 椿広計(2000)介護保険の一次判定システムに関する統計学上の論点 - 介護保険ワークショップの議論を踏まえて - , 日本計量生物学会・応用統計学会2000年度合同年次大会.

学会活動

- 1) 応用統計学会庶務理事, 地方区評議員, 編集委員, 合同年次大会プログラム編成委員長 .
- 2) 日本計量生物学会理事 .
- 3) 日中統計シンポジウム組織委員, プログラム委員 .
- 4) 日本品質管理学会標準化委員会委員

(3) その他の研究活動

- 1) 椿広計(2000)MAの新しい魅力・実践力 - 多変量データ解析による「知 = 仮説」の成長 - , 第23回多変量解析シンポジウム基調講演 .
- 2) 椿広計(2000)統計科学と実社会の接点,シンポジウム「21世紀へ向けての統計教育」報告書,

統計数理研究所研究教育活動報告, No.5,43-50.

- 3) 奨学寄付「ニコン」、「富士通FIP」

・教育・業務

- 1) 総合研究大学院大学数物系論文審査委員会委員
- 2) 東京大学工学部計数工学科非常勤講師(応用統計学)

・社会的活動

- 1) 国立環境研究所客員研究員(ILASサイエンティスト・チーム)
- 2) 統計審議会調査技術開発部会専門委員
- 3) 医薬品副作用救済機構治験相談臨時顧問
- 4) OFスタディ倫理モニタリング委員会委員長
- 5) 国際標準化機構第207専門委員会「環境マネジメント」第6小委員会「環境マネジメント用語」エキスパートメンバー.

永井 裕久

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「社長のキャリアパーソナリティと組織業績」産業・組織心理学会第15回大会(富士短期大学)報告論文集、pp1-4.1999年8月
- 2) Socio-cultural bases of entrepreneurship functions in Japan and Taiwan Japanese Association of Administrative Science, (Mishima, Japan) November 21,1999.
- 3) A Comparative Study of Presidents ' Vocational Interests on Corporate Strategy, Organizational Structure and Performance between Japanese Venture Companies and Chinese in Taipei SME ' s APEC HRM Symposium on SME ' s, (Kaoshiung Taiwan) October 30, 1999, pp.1-23.
- 4) 「海外派遣者の異文化適応 53カ国の国際比較から」日本労務学会関東部会報告(於立教大学)2000年4月22日
- 5) HRM Strategy of Japanese MNCs in the European Union-Managing Uniformity vs. Diversity-12th World Congress, (Tokyo) pp.247-256.
- 6) Factors Promoting Japanese Expatriates Cross-cultural Adjustment-A comparison between high adjusting and low adjusting areas- 30th Anniversary of Japanese Society of Human Resources Management,(Kobe University, July 22, 2000), pp.1-21.

野上 佳子

I . 研究活動

ラグランジェ法を用いた統計的推論の適用例について考えた

(1) 研究業績

- 1) Y.Nogami(1999,August).縮み型分布族と、それに、含まれる母数の推測問題. Institute of Policy & Planning Sciences Discussion Paper Series No. 829, Univ. of Tsukuba, pp.1-18
- 2) Y.Nogami(2000,April). Unbiased tests for location and scale parameters case of Cauchy distribution-- . , Institute of Policy & Planning Sciences (IPPS) Discussion Paper Series No.856, Univ. of Tsukuba, pp.1-12
- 3) Y.Nogami(2000,April). Unbiased test for a location parameter case of Logistic distribution-- . , IPPS Discussion Paper Series No.857, Univ. of Tsukuba, pp.1-7
- 4) Y.Nogami(2000,April). An unbiased test for the location parameter of the uniform distribution. , IPPS Discussion Paper Series No.861, Univ. of Tsukuba, pp.1-4

平瀬(西尾) チヅル

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「企業は社会的、倫理的存在:ザ・ボディショップ」嶋口充輝・竹内弘高・片平秀貴・石井淳蔵編『マーケティング革新の時代:第3巻 ブランド構築』第4章、有斐閣、1999年
- 2) 「環境とマーケティング」茅陽一監修『ISO14001 環境マネジメント便覧』第5部第6章、

- 日本規格協会、1999年
- 3) 「環境マーケティングとは」 山本良一監修『環境マーケティングと環境 ラベル: エコプロダクツ時代の到来』第2章3節、日科技連出版社、1999年
 - 4) 『エコロジカル・マーケティングの構図: 環境共生の戦略と実践』(単著) 有斐閣、1999年
 - 5) "The Qualitative Contents of Television Advertising and its Penetration: The Case in Japan," Marketing Intelligence & Planning, Vol.18, No.2, pp.78-86, 2000. (T.Takeuchi との共著)
- (3) その他の研究活動
- 1) 1999年9月～2000年4月 米国UCLAアンダーソン経営大学院客員研究員

・社会的活動

- 1) 統計審議会分類部会専門委員
- 2) 日本マーケティング・サイエンス学会 理事ならびに学会誌編集委員
- 3) 日本ファジィ学会評価問題研究部会幹事
- 4) 学生広告論文電通賞審査委員

古川 俊一

I . 研究活動

(1) 研究業績

[審査付論文]

- 1) Unfinished Agenda for Performance Measurement: A Japanese Experience and Perspective, " in Arie Halachmi, ed. Public Sector Productivity: Measuring Performance and Value in the Public Sector, the International Institute of Administrative Sciences, forthcoming.
- 2) " An Institutional Framework for Japanese Crisis Management, " Journal of Contingencies and Crisis Management Vol. 8, No. 1(March 2000), pp. 3-14.
- 3) " Political Authority and Bureaucratic Resilience: The Administrative Reform in Japan, " Public Management Vol. 1, No. 3 (September 1999), pp. 439-448.
- 4) 「アカウンタビリティと公会計制度改革」 『公会計研究』 創刊号、1999年9月, pp. 21-33.

[A Paper submitted for publication:]

- 1) Unfinished Agenda for Performance Measurement: A Japanese Experience and Perspective, " A Chapter presented to the International Working Group on Public Sector Productivity of the International Institute of Administrative Sciences.
- 2) 的rrelevant Agenda for Crisis Management, " Crisis and Management.
- 3) アカウンタビリティと公会計制度改革」国際公会計学会学会誌

[著書]

- 1) 『政府間財政関係の政治分析』(単著)、第一法規、2000年(科学研究費補助金(一般学術図書)交付対象, No.202098), 336 p.

[その他の論文]

- 1) 「地方公共団体における評価の進めかたと課題」 『都道府県展望』2000年6月号、pp. 4-17.
- 2) 「政府間財政関係の制度論的基礎」 『地方財政』2000年5月号, pp. 4-9.
- 3) 「自治体行革の理論と実際 公共経営の展望」 『調査資料94 東京再生特集 行財政改革を中心として』東京都議会議会局調査部調査課(2000年2月)、pp. 3-38.
- 4) 「中央政府における評価システムの制度化の意義と課題」 『NIRA政策研究』13巻2号(2000年2月), pp. 12-15.
- 5) 「評価システムにおける管理統制と公会計制度」 『都市問題研究』52巻(2000年)2号, pp. 30-43.
- 6) 「政策評価の概念・類型・課題(上)(下)」 『自治研究』76巻(2000年)2号、pp. 62-83; 4号、pp. 47-67.
- 7) 「公共部門評価システムの制度化と限界 計画行政への含意」 『計画行政』22巻4号(1999年12月), pp. 8-13.
- 8) 「情報公開とアカウンタビリティ」 『地域政策研究』第8号、1999年, pp. 10-18.
- 9) 「地域間の税財源配分と税制改正に関する一考察」 『地方税』1999年7月, pp. 4-15.

- 10) 「アカウントビリティの制度化と政治的権威」『ECO-FORUM』18巻2号、財団法人 統計研究会、1999年、pp. 13-20 .

(2) 学会活動

以下の報告を行った。

- 1) “Japan ’ s Decentralization Strategy Adapting to Globalization,” paper presented at the First Regional International Conference of the International Institute of Administrative Sciences, Bologna, Italy, 19-22 June 2000, 19p.
- 2) 「独立行政法人の概念をめぐって 国立大学の事例」日本公共政策学会2000年度大会分科会「行政改革の行方」、慶應義塾大学、2000年6月10日、提出論文「独立行政法人の制度設計と政治過程」20p.
- 3) 「政府間財政関係の制度論的基礎」日本地方財政学会、横浜国立大学、2000年6月4日、『日本地方財政学会第8回大会報告要旨』pp. 97 - 100 .
- 4) 「評価は万能か？自治体における課題と展望」日本行政学会、明治大学、2000年5月14日、27p.
- 5) “Past, Present, and Future of Decentralization in Japan,” A Paper submitted to the International Seminar cosponsored by the Promotion of Local Administration Foundation and Thammasat University, Bangkok, Thailand, 23 November 1999, 18p.
- 6) “NPOs in New Governance Structure: Japan ’ s Recent Experience,” A Paper submitted to the First Asian Third Sector Research Conference, Bangkok, 20-22 November 1999, 15p.
- 7) “Politics and Bureaucracy: Institutional Changes to Political Governance in Japan,” A Paper presented at the SOG (Structure and Organization of Government) Tokyo Conference “The Quest for Governance: Reforms, Renovations, and Retrenchments in Government for the 21st Century,” November 17-19, 1999, Tokyo, Japan, 12p.
- 8) “Local Government Reform from Above and Within: Japan ’ s Recent Experience,” Proceedings of the 1999 International Symposium of the Korean Association for Public Administration: Asian Values and Government Reforms, October 21-22, 1999, Hoam Convention Center, Seoul National University, pp. 309-326.
- 9) 「自治体の貸借対照表をめぐって」国際公会計学会第2回全国大会（関西大学）報告、1999年9月12日、大阪 .
- 10) Political Authority and Bureaucratic Resilience: The Administrative Reform in Japan, 蚤 paper presented at the International Association of Schools and Institutes of Administration (IASIA) International Conference, Birmingham, UK, 19-22 July 1999, 11p.
- 11) Accountability Issues in Japanese Administrative Reform,” a paper presented at the IIAS First Specialized International Conference, London, 12-15 July 1999, 18p.

(3) その他の研究活動

[報告書]

- 1) 『地方公共団体に行政評価を円滑に導入するための進めかた—地方公共団体における行政評価についての研究会報告書 』（座長、共著：古川俊一、太田栄子、北大路信郷、木村慎一郎、辻琢也）自治省行政局行政体制整備室、2000年3月、116p.
- 2) 『会計検査院の業績検査に関する事例研究 GAOの現地調査を中心として 』（共著：宮川公男、井村進哉、山本清、古川俊一、松本安生、秋吉貴雄）財団法人 統計研究会、2000年3月、第1章「米国会計検査院の概要」中pp. 6-10、第2章「分野別の業績検査 第5節公共事業」pp. 46-51、第3章「業績検査に関する検査・評価手法と事例 第1節 評価の設計と戦略」pp. 68-76、第4章「事例研究から得られる示唆」中、pp. 98-99, 103, 104-105 .
- 3) 「市民参加の評価方式 制度化の可能性と課題」『行政の評価方式に関する研究 参加型の評価方式を中心として—』（共著：西尾勝、古川俊一、山谷清志、武智秀之、高橋滋、武藤博巳）財団法人 行政管理研究センター、2000年3月、pp. 23-47 .

[その他の論説]

- 1) 「政策評価の過去・現在・未来 本質と陥穽」『石積み』19号、滋賀県政策研修センター、1999年12月、pp. 1 - 4 .
- 2) 「行政評価と補助金管理」『タウン・アンド・バジェット』Vol . 3、1999年12月、第一法規、pp . 2 - 8 .

- 3) 「政策評価三つの疑問に答える」『JICHIKEN』1999年11月、p. 3. 茨城県自治研修所。
- 4) 「財政調整制度の問題を正しく理解して税制改正を論じよう」『世界と議会』1999年11月号、尾崎行雄記念財団、pp. 7 - 12.
- 5) 「『地方分権推進計画』と補助金の整理合理化」『タウン・アンド・バジェット』Vol. 2, 1998年11月、第一法規、pp. 2 - 8.
- 6) 「国際交流活動とボランティア」『自治体国際化フォーラム』財団法人 自治体国際化協会、1999年7月、pp. 2 - 5.
- 7) 「行政改革の本質と業績測定・評価」『住民行政の窓』1999年8月号、pp. 21-38.

・教育・業務活動

- 1) 地方行財政論(社会工学類、経営・政策科学研究科)
- 2) 社会システム論(社会工学類)
- 3) 公共政策評価論(経営・政策科学研究科)
- 4) 比較行政論(社会工学研究科)を担当
- 5) 経営・政策科学研究科入試実施委員
- 6) 就職委員会委員、同公務員関係小委員長

・社会的活動

- 1) 自治省「行政評価研究委員会」座長
- 2) 会計検査院「業績検査手法調査委員会」委員
- 3) 茨城県「行財政改革推進懇談会」委員
- 4) 茨城県「公共事業再評価委員会」委員
- 5) 日本財団「事業企画委員会」委員
- 6) 財団法人 日本都市センター「都市行政評価委員会」委員
- 7) 財団法人 行政管理研究センター「行政評価委員会」委員

牧本 直樹

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Katou, K., Makimoto, N. and Takahashi, Y., 「Analysis of the departure process of a MAP/M/c queue and its application to composite tandem queues」, Proc. of Probabilistic Analysis of Rare Events: Theory and Problems of Safety, Insurance and Ruin, pp.149-156, 1999.
- 2) Kijima M. and Makimoto N., 「Quasi-stationary distribution arising from queueing processes: A survey」 Applied Probability and Stochastic Processes, (eds.) J.G. Shanthikumar and U. Sumita, Kluwer, 277-311, 1999.
- 3) Katou, K. and Makimoto, N., 「Upper bounds for the geometric decay rates of the joint distribution in two--node Markovian queues」, Advances in Algorithmic Methods for Stochastic Models, (eds.) G., Latouche, and P., Taylor, 215--233, 2000.

(2) 学会活動

- 1) 所属する学会
日本オペレーションズ・リサーチ学会
日本応用数学会
- 2) Makimoto, N. and Katou, K., 「On the geometric decay rate of Markovian queueing networks」 Proc. 10th INFORSM Applied Probability Conference, p.136, 1999.
- 3) Makimoto, N. and Katou, K., 「Some results for two nodes Markovian queueing networks」 Proc. 15th IFORS Conference, p.9, 1999.
- 4) Katou, K. and Makimoto, N., 「Upper bounds for the decay rates of the joint distribution in two--node Markovian queues」, Symposium on Performance Models for Information Communication Networks, 1--10, 2000.

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費補助金 奨励研究 (A) 「動画データの高トラフィック特性と情報ネットワーク性能評価に関する研究」

教育・業務活動

- 1) 経営・政策科学研究科経営システム科学専攻教育担当委員

社会的活動

- 1) 東京工業大学・確率と統計第1 (2単位)
- 2) 東京工業大学・計画数理 (2単位)

松井 彰彦

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Inductive Game Theory: Discrimination and Prejudices 共著 1999 Journal of Public Economic Theory, vol.1 pp. 104137 経験を元に社会像を構築する、という人間の帰納という行為のモデル化をした。この理論をフェスティバル・ゲームというゲームに適用し、差別という事実が歪んだ社会像という意味での偏見を生み出す、という現象を説明した。これは、正しい社会像を知っている人間を初めに仮定してしまう従来の経済学やゲーム理論では論理的に説明不可能であった現象である。当論文はこの観点から、ゲーム理論による社会現象の解明のための1手法を開発したものと位置づけられる。共著者：Mamoru Kaneko, Akihiko Matsui

(2) 学会活動

研究発表

- 1) 日本経済学会 プログラム委員 (香川大会) 運営委員 (東京大会)

安田 八十五

I . 研究活動

(1) 研究業績等(*印は審査付き論文) (**印は査読付き論文)

著者・学術論文等の名称 / 発表年月日 / 発行所、発表雑誌等の名称・その他

- 1) ごみから社会を見つめ直す (1999)、公明新聞連載
<第32回>哲学と社会システム：ドイツと日本の決定的な違い - 平成11年4月6日
<第33回>ダイオキシン : 「所沢産廃銀座」を見学して - 平成11年5月4日
<第34回>ダイオキシン : 所沢問題の究極の解決策 - 平成11年5月11日
<第35回>科学技術至上主義：環境問題の基本的原因を探る - 平成11年5月18日
<第36回>本当の豊かさとは？：目的と手段との正しい関係 - 平成11年5月25日
<第37回>足尾鉍毒事件：日本の公害・環境問題の原点 - 平成11年6月1日
<第38回>足尾鉍毒事件 : 鉍山の発展と鉍毒被害の拡大 - 平成11年6月8日
<第39回>ダイオキシン : 欧州の汚染再燃問題から学ぶ - 平成11年6月15日
<第40回>製造物責任基本法：ごみ問題の根本的解決めざして - 平成11年6月2日
<第41回>電話公害：現代社会の情報環境汚染 - 平成11年6月29日
<第42回>ダイオキシン : 排出量の9割削減は可能か？ - 平成11年7月6日
<第43回>大都市のごみ問題 : 名古屋VS東京：新しい処理ルール求めて
- 平成11年7月27日
<第44回>大都市のごみ問題 : 東京のリサイクル二千年問題 - 平成11年8月3日
<第45回>大都市のごみ問題 : 横浜市のリサイクル：混合収集方式に問題点
- 平成11年8月10日
<第46回>大都市のごみ問題 : 横浜市：リサイクル政策転換への提言
- 平成11年8月17日
<第47回>リターナブルの復権：ワンウェイ容器の限界が見えた
- 平成11年8月24日
<第48回>牛乳瓶の開発：リターナブルボトル復活のための社会実験
- 平成11年8月31日
<第49回>「買って良い」もの：再生面から見た「いけない」もの
- 平成11年9月7日
<第50回>循環の思想：日本の社会の仕組みを変えよう！ - 平成11年9月14日
- 2) 霞ヶ浦流域：市民と行政の「研究会」 - 環境問題：自由に議論 - (1999)、読売新聞 (茨

- 城県版)、平成11年5月3日(月)
- 3) 資料紹介:「環境政策学研究」(第一巻)(1999)、月刊廃棄物 第25巻 第5号、PP. 138 - 139、平成11年5月
 - 4) つなぎ伝える命の循環 - ダイオキシンを考える -、元気なごみ仲間の会編「ごみから未来を学びたい」、日報出版、PP. 47 - 70、平成11年5月(共同)
 - 5) **安田八十五・大島克也(1999)、廃棄物処理有料化政策の有効性の総合評価、廃棄物学会論文誌、Vol.19, No.4, PP. 46 - 53、平成11年7月
 - 6) アメリカンリサイクル(1999)日報(第4版)、平成11年7月
 - 7) **安田八十五・石井敦(1999)、地球温暖化問題における共同実施プロジェクトの評価:チェコ共和国におけるエネルギープロジェクトのケース・スタディ、環境経済・政策学会編、環境経済・政策学会年報第4号:地球温暖化への挑戦、東洋経済新聞社、PP. 145 - 157、平成11年9月
 - 8) 容器包装リサイクルへの提言(1999)、国民生活、1999年10月号、第29巻、第10号、PP. 3、国民生活センター発行、平成11年10月
 - 9) *安田八十五・大島克也・藤本順也(1999)、廃棄物処理有料化政策に関する実証分析と政策提言 - 茨城県常陸太田市と千葉県野田市における事例研究 -、第10回廃棄物学会研究発表会講演論文集、PP. 76 - 78、平成11年10月
 - 10) *安田八十五・大島克也・藤本順也(1999)、廃棄物処理有料化政策に関する総合評価 - 一般均衡理論的フレームワークの構築 -、第10回廃棄物学会研究発表会講演論文集、PP. 79 - 81、平成11年10月
 - 11) *安田八十五・山田圭介・深津学治(1999)ペットボトルのリサイクルシステムの費用と便益の評価、第10回廃棄物学会研究発表会講演論文集、PP. 82 - 85、平成11年10月
 - 12) *安田八十五・深津学治・藤本順也・生田大悟・藤澤航祥・斉藤晃太郎・中居大亮・菊池直人・山本美香・魯向群・関口悦子・友末優子(1999)、霞ヶ浦流域における水源地への廃棄物処分場立地問題、第10回廃棄物学会研究発表会講演論文集、PP. 189 - 191、平成11年10月
 - 13) レジ袋を有料化すれば、人々は買い物袋を持参するようになる - 環境にやさしい生活様式(エコライフ)及び循環型社会システムの構築と実践 - (1999)、「環境にやさしい暮らし」モデル事業実施報告書、PP. 1 - 8、神奈川県消費生活課発行、平成11年11月
 - 14) **安田八十五・山川肇・大島克哉(1999)、「廃棄物処理有料化政策の有効性の総合評価」に対する討論、山川肇氏の討論に対する回答、廃棄物学会論文誌、Vol.10、6、PP. 366 - 370、平成11年11月
 - 15) ごみゼロ社会をめざして - 循環型社会システムの構築と実践 - (1999)、日報(第7版)、平成11年12月
 - 16) *安田八十五・石井敦(2000)、共同実施活動とその現状・評価:チェコ共和国におけるエネルギープロジェクトから、第16回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス講演論文集、PP. 533 - 538、平成12年1月、
 - 17) **安田八十五・劉庭秀(2000)、都市地域における潜在エネルギーと熱需要のエネルギー収支バランス、MACRO REVIEW(日本マクロエンジニアリング学会誌)、第12巻、第1号、平成12年1月、PP. 37 - 50
 - 18) 安田 八十五編著(2000)、茨城県北西部地域における廃棄物発電PFIモデル調査事業調査報告書、城北地方広域事務組合・茨城県北西部地域PFIごみ処理調査研究協議会発行、平成12年2月
 - 19) 循環型社会構築のための哲学と社会システム(2000)、=第4回全国とことん討論会(第10回全国リサイクルシンポジウム)=、日本版循環経済法について考える~何をどう実現させるための法律であるべきか~、平成12年2月17日:基調講演、筑波大学社会学系安田研究室講演報告シリーズ、No. 2000 - 2
 - 20) 安田 八十五編著(2000)、霞ヶ浦の価値はいくらか - 霞ヶ浦の経済的価値の評価と測定に関する方法論開発と適用 -、環境政策学研究:特別研究報告書、(財)河川環境管理財団、河川整備基金助成事業調査研究報告書、平成12年2月
 - 21) 安田 八十五編著(2000)、平成11年度地域環境ビジネス発展促進調査研究<資源循環型経済システム構築調査>調査報告書、関東通商産業局、平成12年3月

- 22) 安田 八十五編著(2000)、新しいリターナブルボトルの開発に関する調査研究報告書、筑波大学社会工学系安田研究室編集、環境庁・(社)環境生活文化機構発行、平成12年3月

(2) 学会活動等

- 1) 日本経済政策学会理事
- 2) 日本マクロエンジニアリング学会ゴミ問題研究委員会副委員長
- 3) 第9回廃棄物学会研究発表会にて論文発表(平成11年10月)
- 4) 東京湾海洋研究会顧問

(3) その他の活動

- 1) (財)河川環境管理財団から「霞ヶ浦の価値はいくらか」に関する研究の奨学寄付金、調査研究報告書作成

・教育・業務活動

- 1) 大学院環境科学研究科予算委員
- 2) 社会工学類入試実施副委員長

・社会的活動

- 1) 東京都新宿区リサイクル審議会副会長
- 2) 環境庁「リターナブルボトルシステムに関する調査研究会」委員長
- 3) 通産省「アルミ缶リサイクルシステムに関する調査研究会」委員長
- 4) 茨城県「固形燃料化政策に関する調査研究会」委員長
- 5) ごみ問題とリサイクル政策に関して、全国各地の自治体等多数箇所で講演活動を実施

横張 真

・研究活動

(1) 研究業績

- 1) Protecting and appreciating nature in the fringe of a major civilization: A case study of EXPO2005 in Aichi, Japan, 1999. 7, Proceedings of the 5th World Congress of the International Association for Landscape Ecology. Vol. 2, 単著, 171頁
- 2) 畑地景観保全のための地域住民による畑地景観の評価構造の把握. 1999.10, 6. 農村計画学会論文集1, 共著(4人), 49-54頁
- 3) 国内外の農政における環境保全の位置づけ. 2000.01, 11. 日本造園学会誌, 63巻3号, 単著, 182-185頁
- 4) 農地の居住快適性機能. 2000.03, 農業および園芸, 75巻3号, 共著(3人筆頭) 357-365頁
- 5) Beyond greenbelts and zoning: Future directions of the environment of Asian mega-cities. 2000. 04, Landscape and Urban Planning, 47, 共著(4人, 筆頭), 159-171頁

(2) 学会活動

- 1) 農村計画学会理事
- 2) 農村計画学会事務局長
- 3) 日本造園学会論文集委員会委員
- 4) Editorial board member of Landscape and Urban Planning journal (Elsevier)

・教育・業務活動

- 1) 東京大学非常勤講師(緑地計画・設計実習)
- 2) 日本大学非常勤講師(環境アセスメント論)
- 3) Adjunct professor of University of Guelph, Canada
- 4) JICA集団研修講師
- 5) 環境庁環境研修講師

・社会的活動

- 1) 農林水産省関係の各種委員会委員
- 2) 2005年国際博覧会プロジェクトチーム委員

- 3) 埼玉県土地政策課、緑政課による委員会委員
- 4) 埼玉県大宮市環境基本計画策定委員会委員
- 5) その他、各種法人団体の専門委員会委員

吉田 雅敏

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 公共資本の生産性に関する経済分析、1999、経済学研究、第48巻第4号、75-85.
- 2) Intergenerational Pigouvian Tax Systems, Japanese Economic Review, forthcoming.

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類：運営委員
- 2) 経営政策科学研究科：防犯委員
- 3) 社会工学系：ファカルティ・セミナー委員

李 明宰(M.J.Lee)

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Lee, M.J., 1999, Nonparametric Estimation and Test for Quadrant Correlations in Multivariate Binary Response Models, Econometric Reviews 18, 387-415

渡辺 俊

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 福居広樹・渡辺俊：くまもとアートポリスに見る都市計画のイニシアチブに関する研究、1999年度大会(四国)学術講演梗概集、日本建築学会、1999年9月
- 2) 高橋良・葛城桂子・渡辺俊：地方小都市における市街化区域の面積と人口の変遷、1999年度大会(四国)学術講演梗概集、日本建築学会、1999年9月
- 3) 寺門泰治・葛城桂子・渡辺俊：QuickTime VRによるキャンパスガイドマップの開発、1999年度大会(四国)学術講演梗概集、日本建築学会、1999年9月
- 4) 渡辺俊・谷村秀彦：北京豊盛地区四合院実測調査における都市データの構築、日本建築学会 第22回情報・システム・利用・技術シンポジウム論文集、1999年12月

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会、計画設計情報小委員会・情報化設計小委員会・知的システム研究小委員会等 委員
- 2) 日本建築学会大会(中国)、広島大学、1999年9月
- 3) 日本建築学会
- 4) 第22回情報・システム・利用・技術シンポジウム、建築会館、1997年12月

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学系 コンピュータ委員、広報委員
- 2) 社会工学類 学生担当教官、コンピュータ委員
- 3) 社会工学研究科 広報委員

アイベド、ヘンリー (Henry Osadolor Aigbedo)

I . 研究活動

- 1) Aigbedo, H (In press) Some structural properties for the Just-In-Time level schedule problem, Production Planning and Control.
- 2) Monden, Y. and Aigbedo, H., Just-In-Time and Kanban scheduling, in Maynard痴 Industrial Engineering Handbook, Fifth Edition (Revised-forthcoming) , McGraw Hill, (Editor : Zandin, K.)
- 3) Aigbedo, H., Just-In-Time and its cost reduction framework, in Japanese Cost Management, forthcoming, Imperial College Press, U.K, (Editor: Monden, Y.)
- 4) Aigbedo, H. 1999, A probabilistic search algorithm for planning JIT mixed-model production to

simultaneously smooth parts consumption and assembly workload, Proceedings of the 5th International Conference of the Decision Sciences Institute, Athens, Greece, July, pp. 1683-1687.(Eds. Despodis, D. and Zopounidis, C.)

- 5) Aigbedo, H., On time span variance in parts supply in a JIT assembly system, forthcoming in Proceedings of the Decision Sciences Annual Meeting, New Orleans, USA, November, 1999.
- 6) Aigbedo, H., Contribution on: Beam Search, Cycle Time, Discrete Product Manufacturing, Evolutionary Computations, Kanban, Line Balancing, Production Smoothing, Sequencing, for Industrial Engineering Encyclopedia, forthcoming, (Managing editor, Mital, A.)

(2) 学会活動

- 1) 日本スケジューリング学会への参加、東北大学にて。平成10年10月8日～平成10年10月9日。
- 2) 1998 Annual Meeting of the Decision Sciences Instituteへの参加、Las Vegas, USAにて。平成10年11月21日～平成10年11月24日。
- 3) Fifth International Conference of the Decision Sciences Instituteへの参加、Athens, Greeceにて。平成11年7月4日～平成11年7月7日。

(3) その他の研究活動

- 1) Monden, Y. and Aigbedo, H., Some Mathematical Programming Models for the Just-In-Time Assembly Sequencing Problem, Research Forum presentation (研究会発表)、筑波大学にて。平成11年3月18日。

・ 教育・業務活動

- 1) 生産・プロジェクト計画論の担当(経営・政策科学研究科)
- 2) 経営演習Ⅰの担当(経営・政策科学研究科)
- 3) 生産システム論の担当(社会工学類)

・ 社会的活動

- 1) 筑波学園教会にて子供の日曜学校の教師
- 2) 平成10年9月ごろに北並木中学校の生徒たちにナイジェリアの文化や習慣などを紹介。

IV. その他の活動

- 1) International Journal of Production Research(四つの論文審査)

石井 健一

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 『情報行動と社会心理』第7章 メディアの代替過程、北樹出版、1999年 * Japanese and U.S. Programs in Taiwan: New Patterns in Taiwanese Television, Journal of Broadcasting and Electronic Media,(出版予定, Heng Su 及び Satoshi Watanabeと共著)
- 2) * 1996年保釣運動と新聞報道 - 内容分析とアンケート調査結果から - 、日中社会学研究、6号、120-137, 1998年
- 3) 香港における日本のポピュラー文化と消費行動、プレーン、1998年4月号、118-124頁 (渡辺聡と共著)
- 4) 「台湾における日本流行文化と消費行動」報告書、社会工学系ディスカッションペーパー

(2) 学会活動

- 1) 日本社会心理学会大会で研究発表を行った。

(3) その他の研究活動

- 1) 東京大学社会情報研究所の情報通信研究会において情報通信行動に関する社会調査を実施した。財団法人・交流協会の派遣により台湾にて「台湾における日本流行文化と消費行動」のテーマで研究を行った。

石生 義人

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Ishio, Yoshito. 1999. "Interest Groups' Lobbying Tactics in Japan and in the U.S.: The Influence of Political Structures and Conflict on Tactical Choices." *Southeastern Political Review* 27: 243-64.
- 2) Kabashima, Ikuo and Yoshito Ishio. 1998. "The Instability of Party Identification Among Eligible Japanese Voters: A Seven-Wave Panel Study, 1993-6." *Party Politics* 4: 151-176.
- 3) Knoke, David and Yoshito Ishio. 1998. "The Gender Gap in Company Job Training." *Work and Occupations* 25: 141-167.
- 4) Broadbent, Jeffrey and Yoshito Ishio. 1998. "The 'Embedded Broker' State: Social Networks and Political Organization in Japan." Pp. 79-108 in *Networks, Markets, and the Pacific Rim: Studies in Strategy*, edited by W. Mark Fruin. New York: Oxford University Press.
- 5) Galaskiewicz, Joseph, Wolfgang Bielefeld, Mark Hager, Yoshito Ishio, and Joel Pins. 1998. "Growth and Decline among Nonprofit Organizations." Pp. 83-124 in *Nonprofit Organizations in an Age of Uncertainty: A Study of Organizational Change*, by Joseph Galaskiewicz and Wolfgang Bielefeld. New York: Aldine de Gruyter.
- 6) 辻中豊、石生義人. 1998. 「利益団体ネットワーク構造と政権変動：二層構造の発見」『レヴァイアサン』1998年臨時増刊号: 22-43.

(2) 学会活動

- 1) Yoshito Ishio. "Multinomial Logit Model and LIMDEP" Presented at the Annual Meeting of the Japanese Election Studies Association, Akita, Japan, May, 1999
- 2) Yoshito Ishio. "Determinants of Interest Groups' Lobbying Tactics: An Analysis of the Japanese and U.S."
- 3) "Labor Policy Domains in the 1980s." Presented at the Annual Meeting of the American Sociological Association, San Francisco, August, 1998.
- 4) Discussant, Session on "Parties in Transition," Annual Meeting of the Japanese Political Science Association, Doshisha University, Kyoto, 1998.

イリチュ(佐藤) 美佳

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) M. Sato and Y. Sato, Asymmetric Aggregation Operator and its Application to Fuzzy Clustering Model, *Computational Statistics and Data Analysis*, Vol. 32, pp. 379-394, 2000.
- 2) M. Sato-Ilic, Clustering Models Extracting Dynamic and Non-Dynamic Changes for 3-Way Data, *Soft Computing in Industrial Applications*, Springer-Verlag, pp. 117-127, 2000.
- 3) 大学入試データ解析の理論と応用 - 大学進学者のクラスタリングモデル -, 1999, 現代数学社 (共著).
- 4) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Model based on Changes in Vagueness, *The Second International Conference Intelligent Processing and Manufacturing of Materials*, pp.207-212, 1999.
- 5) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering for Uncertainty Data, *IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics*, pp. 359-364, 1999.
- 6) M. Sato-Ilic, Non-Metric Neural Clustering, *6th International Conference on Neural Information Processing*, pp. 72-77, 1999.
- 7) M. Sato-Ilic, Fuzzy Clustering Based on Homogeneity Analysis, *The Fourth Asian Fuzzy Systems Symposium 2000 - International Symposium on Theory and Applications of Soft Computing -*, pp. 498-501, 2000.
- 8) 佐藤美佳, 連続的曖昧性変化に対するファジィクラスタリングモデル, *ファジィ学会関東支部特別ワークショップ - AFSS2000に向けて -*, pp. 81-84, 1999.
- 9) 佐藤美佳, 佐藤義治, *ファジィクラスタリングと関連手法について*, *日本統計学会第67回*, pp. 337-338, 1999.
- 10) 佐藤美佳, 佐藤義治, *ファジィ類似度に基づくクラスタリング*, *日本計算機統計学会, 第13回シンポジウム論文集*, pp. 64-67, 1999.
- 11) 佐藤美佳, *Relational Fuzzy c-Means for 3-way Data*, *第16回日本分類学会研究報告予稿集*, pp.

40-43, 2000.

- 12) M. Sato-Ilic, Classification based on Relational Fuzzy c-Means for 3-way Data, International Conference on Enterprise Information Systems, 2000 (accepted).
- 13) M. Sato-Ilic, On Evaluation of Clustering using Homogeneity Analysis, IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, 2000(accepted).

(2) 学会活動

- 1) IEEE Systems, Man & Cybernetics Society Administration Committee 委員.
- 2) International Journal of Knowledge-based Intelligent Engineering SystemsにおいてEditorial Board 委員.
- 3) 日本分類学会 運営委員.
- 4) 6th International Conference on Neural Information Processing, 1999においてプログラム委員.
- 5) 第13回日本計算機統計学会シンポジウム座長.
- 6) 日本計算機統計学会ニューズレター委員.
- 7) IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, TokyoにおいてBest Student Paper Competition, member of the panel of judges.
- 8) Asian Fuzzy Systems Symposium 2000 - International Symposium on Theory and Applications of Soft Computing - においてLocal Arrangement.
- 9) IEEE International Conference on Systems, Man and Cybernetics, Tennessee において Technical Program Committee 委員.
- 10) 日本ファジィ学会関東支部委員.
- 11) 第17回ファジィシステムシンポジウム財務委員会委員.

(3) その他研究活動

- 1) 学内プロジェクト(奨励研究)「動的クラスタリングモデルの開発と応用」
- 2) 科学研究費(奨励A)「不確実性情報を考慮したデータの分類手法に関する研究」

・教育・業務活動

- 1) 経営, 政策科学研究科: 入試委員会委員
- 2) 社会工学類: コンピュータ委員会委員, 就職委員会委員
- 3) 社会工学系: 総務委員会委員, 防災委員会委員
- 4) 4年生クラス担任

祝迫 得夫

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「経済成長の実証研究」, 伊藤・園部編『構造変化を伴う東アジアの成長? 瑞V古典派成長論 VS 雁行形態論? = 経済分析第160号(経済企画庁経済研究所)所収.
- 2) "Does International Diversification Really Diversify Risks?" Journal of the Japanese and International Economies, forthcoming.
- 3) 「資産価格モデルの現状: 消費と資産価格の関係を探って」日本ファイナンス学会研究観望会(1999年11月)報告論文. 現代ファイナンス(近刊).

(2) 学会活動

- 1) 日本ファイナンス学会研究観望会(1999年11月)報告「資産価格モデルの現状: 消費と資産価格の関係を探って」
- 2) 1999年度JAFEE冬季研究発表大会 " Crazy Explanations for the Performance of Consumption CAPM using Japanese Data. "

(3) その他の研究活動

- 1) 経済企画庁 経済研究所 客員研究員(「アジアの経済成長プロジェクト」メンバー)(平成11年末まで)
- 2) 経済企画庁「開発途上国の経済発展と円借款の役割研究会」委員(平成12年3月 -)

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類図書委員

2) 学類クラス担任

宇井 貴志

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "A Shapley Value Representation of Potential Games," Games and Economic Behavior 31, (2000), 121-135.
- 2) "Asymmetric Effects of Monetary Policy: Japanese Experience in the 1990's," Bank of Japan Research and Statistics Department Working Paper 99-2, (1999).

(2) 学会活動

- 1) 学会討論
日本経済学会(香川大学)
- 2) セミナーでの発表
東京大学経済学部
筑波大学社会工学系

上田 貴子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) "A Growth Model of "Miracle" in Korea", 2000, Journal of Policy Modeling 22 (1), 43-59
- 2) "A Dynamic Decision Model of Marriage, Childbearing, and Labor Force Participation of Japanese Women", 2000, mimeo
- 3) "Consumer Sentiment and Household Spending: Evidence from Microdata in Japan", 2000, mimeo
- 4) 「消費者マインドと個人消費行動」、2000、建設省道路局・(財)財政経済協会、『日本経済の構造変化と財政政策に関する調査研究』所収予定
- 5) 「経済成長、女子労働供給と出生率」、2000、筑波大学社会工学系『平成11年多目的データバンク年報』、25 - 45ページ
- 6) "Measuring Distortion in Capital Allocation: - the Case of Heavy and Chemical Industries in Korea -", 1999, Journal of Policy Modeling 21 (4), 427-452

(3) その他の研究活動

- 1) TCER(東京経済研究センター)「景気循環の日付研究会」に参加
- 2) 労働省女性局女性政策課「女性労働政策研究会」に参加

教育・業務活動

- 1) 社会工学類 コンピューター委員(-1999.3)・広報委員・3年クラス担任(2000.4-)
- 2) 経営・政策科学研究科 新分野準備委員
- 3) 全学 セクシャル・ハラスメント相談員

大江 麻衣子

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Maiko SHIGENO, "Minimax Inverse Problems of Minimum Cuts," Discussion Paper, No.847 (1999)
- 2) Maiko SHIGENO, Satoru IWATA and S.Thomas McCORMICK, "Relaxed most negative cycle and most positive cut canceling algorithms for minimum cost flow," Mathematics of Operations Research, 25, 76-104 (2000).
- 3) Satoru IWATA, S. Thomas McCORMICK and Maiko SHIGENO, "A fast cost scaling algorithm for submodular flow," Information Processing Letters, 74, 123-128 (2000).

(2) 学会活動

- 1) 日本オペレーションズ・リサーチ学会編集委員
- 2) 電子情報通信学会「離散数学とその応用」小特集編集委員

- 3) OR事典2000 「ネットワークフロー問題」担当執筆
- (3) その他の研究活動
 - 1) 科研費特定領域研究(B) (研究分担者)

・教育・業務活動

- 1) 学類広報委員
- 2) 経営・政策科学募集委員
- 3) 学系研究計画委員

岡本直久

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Effect of Large Scale Container Terminal Improvement to the Regional/National Economic Development, Selected proceedings of the 8th World Conference on Transport Research, No.3 pp.555-568, 共著(2人), 1999
- 2) 中核国際港湾整備の効果と今後の方向, 運輸政策研究, Vol.2 No.3, pp.2-8, 単著, 1999

・社会的活動

- 1) 土木学会 出版委員会幹事兼委員

加藤 毅

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「学術研究資源」に関する研究の動向と課題 『大学研究』第21号, 1-9, 2000
- 2) 研究資源と研究成果 『大学研究』第21号, 113-134, 2000
- 3) 認知された資金供給システム 『大学研究』第21号, 135-144, 2000

・教育・業務活動

- 1) 事務情報化専門委員会委員
- 2) 事務用クライアント/サーバシステム仕様策定委員会委員
- 3) 大塚地区学内LAN委員会委員
- 4) SCS事業実施委員会東京(大塚)地区部会委員

姜 晟振 (Sung Jin Kang)

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) “Financial Repression and External Openness in an Endogenous Growth Model”, Discussion Paper Series No.837, Institute of Socio-Economic Planning, University of Tsukuba, November 1999, pp. 1-27, (with Yasuyuki Sawada).
- 2) “Relative Backwardness and Policy Determinants of Technological Catching Up”, Discussion Paper Series No.852, Institute of Socio-Economic Planning, University of Tsukuba, February 2000, pp.1-37.

川邊 みどり

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 川邊みどり 「零細漁民は沿岸漁場を守れるか - マレーシア国ペナン島の浅海漁民の試み」地域漁業研究第40巻第1号37-53頁、1999年.
- 2) 川邊みどり 「日本で沿岸域管理はできるのか - その課題についての考察 - 」、水産海洋研究第64巻第2号107-110頁、2000年.

(3) その他の研究活動

- 1) 第23回「相模湾水産振興」シンポジウムにおいて、「総合的な沿岸域管理の提案 - 東京湾

- の有機汚濁を例に - 」と題して講演を行なった（1999年10月、神奈川県小田原市）
- 2) エビ問題研究会（代表：多屋勝雄(東京水産大学教授)）事務局を務め、研究会を企画・開催した
 - 3) アジア太平洋資料センター自由学校にて「アジアのエビ養殖の背景」について講義を行なった（1999年11月、東京都千代田区神田）

鈴木 勉

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 鈴木 勉: 「移動損失基準による地域施設密度と人口密度の理論的關係に関する研究」, 日本建築学会計画系論文集, 521, 1999.
Tsutomu Suzuki: "Theoretical Relationship Between Facility Density and Population Density Determined by Minimizing Travel Cost of Users," Journal of Architecture, Planning and Environmental Engineering, 521, 1999.
 - 2) 鈴木 勉: 「Minisum型施設配置における需要密度と施設規模」, 日本OR学会1999年度秋季研究発表会アブストラクト集, 80-81, 1999.
 - 3) 渡部大輔・鈴木 勉: 「領域形状による同一交通サービス水準のためのネットワーク必要量」, 日本OR学会1999年度秋季研究発表会アブストラクト集, 82-83, 1999.
 - 4) Hiroshi Miura, Haruo Ishida and Tsutomu Suzuki: "Multiple Individual Attribute Expansion Method for Person Trip Surveys," Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, 3, 5, 347-360, 1999.
 - 5) 渡部大輔・鈴木 勉・石田東生・古屋秀樹: 「領域形状が交通ネットワーク必要量に与える影響に関する数理的研究」, 都市計画論文集, 34, 769-774, 1999.
Daisuke Watanabe, Tsutomu Suzuki, Haruo Ishida and Hideki Furuya: "A Study on the Relationship between Regional Form and Length of Transportation Network," Papers on City Planning, 34, 769-774, 1999.
 - 6) 古屋秀樹・中村哲也・石田東生・鈴木 勉: 「戦略的都市交通政策予測・評価モデルのための人口フレーム作成手法の開発」, 土木計画学研究・講演集, 22, 2, 411-414, 1999.
 - 7) 鈴木 勉: 「空間複合型施設の最適配置問題」, 日本OR学会2000年度春季研究発表会アブストラクト集, 28-29, 2000.
 - 8) 渡部大輔・鈴木 勉: 「一次元都市における最適な集約・分配輸送システムに関する研究」, 日本OR学会2000年度春季研究発表会アブストラクト集, 136-137, 2000.
 - 9) 大山 崇・鈴木 勉: 「病院までの搬送を考慮した救急車の最適配置」, 日本OR学会2000年度春季研究発表会アブストラクト集, 212-213, 2000.
 - 10) 鈴木 勉・田頭直人: 「地域人口の変化による国土レベルの旅客・貨物輸送のエネルギー消費・環境負荷への影響と対策」, 総合都市研究, 71, 109-129, 2000.
Tsutomu Suzuki and Naoto Tagashira: "Effect of Population Distribution Transition on Passenger/Freight Transport Energy Use and Carbon Dioxide Emission in Japan," Comprehensive Urban Studies, 71, 109-129, 2000.
 - 11) Tsutomu Suzuki: "Urban Structure and Commuting Distance: A Theoretical Approach to Excess Commuting," presented at the 6th World Congress of Regional Science Association International, Lugano, Switzerland, May 16-20, 2000.
 - 12) 鈴木 勉: 「p-メディアン問題における規模密度法則の成立性」, 日本建築学会計画系論文集, 532, 171-176, 2000.
Tsutomu Suzuki: "A Test of the Size-Density Hypothesis in p-Median Problems," 532, 171-176, 2000.
 - 13) 日本オペレーションズ・リサーチ学会, OR事典2000, 2000. (分担執筆)
- (2) 学会(国際・国内) 活動
- 1) 日本都市計画学会学術研究発表会論文審査部会委員
 - 2) 日本オペレーションズ・リサーチ学会IAOR委員会委員
- (3) その他の研究活動(科研費、学内プロ、受託研究など)
- 1) 文部省科学研究費(奨励研究(A)) 「人口変動下での施設配置モデルの構築と都心における

学校統廃合計画立案への応用」

Scientific Research awarded by the Ministry of Education, Science, Sports and Culture of Japan, "Dynamic Facility Location Model under Changing Demand and its Application to the Reorganization Planning of Spatial School Systems"

- 2) (財)科学技術振興事業団 戦略的基礎研究推進事業 低環境負荷型の社会システム「都市交通の環境負荷制御システムに関する基礎的研究」(研究分担者)
JST CREST (Core Research for Evolutional Science and Technology), "Development of Environmental Load Management Systems for Urban Transportation"

・教育・業務活動

- 1) 1999年度社会工学類カリキュラム委員会委員
- 2) 2000年度社会工学類広報委員会委員

鈴木 秀男

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Hideo Suzuki and Naoki Shinoda, "Constructing Control Limits of X-Bar -s2 Charts Using Bootstrap Method", Journal of the Japanese Society for Quality Control", 1999, Vol.29, No.4, pp.487-502.
- 2) Hideo Suzuki, "Recognition of Unnatural Patterns in Manufacturing Processes Using the Minimum Description Length Criterion", Communications in Statistics: Simulation and Computation, 2000, Vol.29, Issue 2, pp.583-601.

(2) 学会活動

- 1) 鈴木秀男, 斎藤猛, 「ブートストラップ法を用いた因子モデル適合度の評価と因子数の決定」, 日本品質管理学会, 1999年10月, 第29回年次大会研究発表要旨, pp.133-136.

(3) その他の研究活動

- 1) 文部省科学研究費(奨励研究A、代表)「ブートストラップ法を用いた品質管理、マーケティング手法に関する研究」

・教育・業務

- 1) 社会工学類3年クラス担任
- 2) 経営・政策科学研究科：募集委員

・その他の活動

- 1) 日本品質管理学会誌編集委員
- 2) 日本品質管理学会評議委員

曽根 昭夫

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Griffith, Daniel A, and L. Layne. 1999. A Casebook for Spatial Statistical Data Analysis: A Compilation of Analyses of Different Thematic Datasets. New York. Oxford University Pressの Appendix 3-B, D, Fを担当

(3) その他

- 1) 全米科学財団の地域科学・地理学部門における科学研究費の審査依頼(1件) に応じた .

・教育・業務活動

- 1) 社会工学類 教育図書委員
- 2) 経営・政策科学研究科 機器委員会 委員
- 3) 社会工学系 実験廃棄物処理委員

Stephen John Turnbull

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Open Source Methods: Peering Through the Clutter, with Terry Bollinger, Russell Nelson, and Karsten M. Self. IEEE Software, Jul/Aug 1999, pp. 8-11.
- 2) The Simple Economics of Open Source Software. mimeo, Dec 1999.

(3) その他の研究活動

- 1) Linux Conference 1999 横浜報告：自由なソフトの経済論。1999年12月17日。

. 教育・業務活動

- 1) 大学公開広告委員会委員。

竹原 均

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 竹原 均, 矢野学, 「投資パフォーマンス評価とタイミング能力の測定：我が国の株式投資信託の評価をめぐって」, 『証券アナリストジャーナル』(July 1999) 76-91.
- 2) 久保田敬一, 竹原 均, 「株価変動, 経済成長と状態変数: 資産経済における期待リスクプレミアムの実証」, 『ファイナンス研究』25 (1999) 25-46.
- 3) 竹原 均, 「ファイナンシャル・リスクマネージメント」森平爽一郎編, 朝倉書店 ファイナンス講座第8巻 (2000)

(2) 学会活動等(研究発表)

- 1) 日本ファイナンス学会大会, 「動的ポートフォリオスタイル分析: スタイルの時間変化とパフォーマンス評価」
- 2) 11th PACAP Finance Conference, "Financial Sector Value and the CAPM: Evidence from Tokyo Stock Exchange Firms",
- 3) IFORS '99, "Dynamic Portfolio Style Analysis"
- 4) 日本経営財務研究学会大会, 「リスクファクターモデルと財務特性モデルの判別: Fama-French modelの検証をめぐる問題」

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類カリキュラム委員
- 2) 経営・政策科学研究科募集委員
- 3) 社会工学研究科広報委員

藤川 昌樹

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「農村における民家建築ストックの性格とその保全・継承に関する問題」(共著, 『ムラの潜在的資源の発見的創造』日本建築学会大会研究協議会資料, pp.63-67, 1999年9月)
- 2) 「港町」「生産と流通の在郷町」「門前町・宿場町」(単著, 都市史図集編集委員会編『都市史図集』pp.17-19, 174-176, 彰国社, 1999年9月)
- 3) 「伝統的都市の現代化における空間制御技術に関する研究 北京を事例として」(共著, 『住宅総合研究財団研究年報』26, pp.131-142, 2000年3月)
- 4) 『つくば市古民家調査報告書 その2 』(共編著, つくば市教育委員会, 2000年3月)

(3) その他の研究活動

- 1) 研究費等
「寺院を中核とした宗教都市における子院の成立・集合過程に関する研究」(文部省科学研究費, 奨励研究, 代表)
- 2) 学外研究会の運営(幹事)日本建築史研究会, 作事史料を読む会

. 社会的活動

- 1) 高知県室戸市伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
- 2) 地方農村環境技術検討委員会委員((財)農村環境整備センター)

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) プライシングが交通流動・汚染物質排出量に及ぼす影響分析(共著), 第23回日本道路会議一般論文集(A), pp.38-39, 1999年10月
- 2) 領域形状が交通ネットワーク必要量に与える影響に関する数理的研究(共著), 1999年度第34回日本都市計画学会学術研究論文集, pp.769-774, 1999年11月
- 3) 戦略的都市交通政策予測・評価のための人口フレーム作成手法の開発(共著), 土木計画学研究・講演集, No.22(2), pp.411-414, 1999年11月
- 4) 休日・観光交通への対応: 調査・分析手法の課題整理と展望(共著), 土木計画学研究・講演集, No.22(1), pp.671-678, 1999年11月
- 5) 個人・車両属性を考慮したギャップアクセプタンス行動に関する基礎的研究(共著), 第19回交通工学研究発表会梗概集, pp.64-67, 1999年12月
- 6) 中学校教科書における社会資本整備の捉え方の変遷(共著), 土木学会第53回年次学術講演会講演概要集第4部門, pp.500-501, 1999年9月
- 7) 車両挙動を考慮した自動車排出ガス総量の算出手法に関する研究(共著), 第27回関東支部技術研究発表会講演概要集第4部門, pp.662-663, 2000年3月
- 8) 交通事故の実態把握とその要因分析 - つくば周辺地域を対象として -, 第27回関東支部技術研究発表会講演概要集第4部門, pp.732-733, 2000年3月(共著)
- 9) 広域周遊観光と交通(土木計画学ワンデイセミナー支部開催シリーズ(中国支部)) (共著), 土木学会土木計画学研究委員会セミナー資料, 2000年6月

(2) 学会活動

- 1) 土木学会土木計画学研究委員会委員兼幹事
- 2) 交通工学研究会編集委員会委員
- 3) 日本計画行政学会査読小委員会委員
- 4) 運輸政策研究機構外国文献研究会メンバー

(3) その他の研究活動

- 1) 科研費研究代表者(奨励研究、プライシングなどによる交通流動の変化を考慮した環境影響の算出に関する方法論的研究)

. 教育・業務活動

- 1) 環境科学研究科広報委員会委員

Ying Miao

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Cyclically resolvable cyclic Steiner triple systems of order 21 and 39, Discrete Mathematics 219, 173-185, 2000 (共著)

(2) 学会活動

- 1) 分解可能や巢型構造を持つブロック計画の構成法の発展 (特別講演), 日本数学会, 広島大学, 東広島, 平成11年9月27日--9月30日.
- 2) Frames with block size four and index three, 日本数学会, 広島大学, 東広島, 平成11年9月27日--9月30日.
- 3) 組合せ的デザインの新しい応用 (その1): Optical orthogonal Codes について, 「組合せ理論とその応用」ワ - クショップ と「組合せ的デザインとその推測への応用」研究集会, つくば国際会議場, つくば, 平成11年10月7日--10月9日.
- 4) (t,m,s)-net とは, 筑波大学社会工学系第1回金融工学と組合せ論研究会, 平成11年11月1日.
- 5) (t,m,s)-net のサーベイ (m-t = 3, 4に関して), 筑波大学社会工学系第2回金融工学と組合せ論研究会, 平成11年11月30日.
- 6) V(m,t) vectors and their related optical orthogonal codes, Thirty-first Southeastern International Conference on Combinatorics, Graph Theory, and Computing, Florida Atlantic University, USA,

March 13--March 17,2000.

(3) その他の研究活動

- 1) 科研費(奨励研究(A)): 組合せ的デザインとその符号・暗号への応用共同研究集会「Designs, Codes, Graphs and their Links」の研究代表者, 京都大学数理解析研究所, 平成12年6月27日(火)~6月30日(金)。

吉田 友彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 吉田友彦・三宅醇・熊谷雄・奥部雪絵(2000.1): 「愛知県における市街化区域内土地改良事業地区の発生状況」, 日本建築学会計画系論文第527集, p.209-215
- 2) 森本信明・吉田友彦他5名(2000.3): 「昭和20年代を中心とした住宅計画の史的研究 - 西山文庫資料をもとにして - 」住宅総合研究財団研究年報 No.26, p.215-226

(2) 学会活動

- 1) 日本建築学会関東支部住宅問題専門研究委員会委員
- 2) 日本建築学会建築経済委員会住宅の地方性小委員会委員
- 3) 日本建築学会大会: 吉田友彦・谷武(1999.9): 「調査研究リスト」, 日本建築学会建築経済委員会住宅の地方性小委員会編「大震災四年半 住宅復興の教訓」, p.193-205

(3) その他の研究活動

- 1) 住宅総合研究財団助成研究: 昭和20年代を中心とした住宅計画の史的研究 - 西山文庫資料をもとにして - (主査森本信明)(委員)
- 2) 科学研究費・奨励研究(A): 地方都市における基盤整備事業別住宅フローの立地に関する研究 - 愛知県豊川市を事例として - (研究責任者)
- 3) 科学研究費・基盤研究(A)(2): 東アジア伝統的都市の現代化における空間制御技術に関する研究(研究分担者)
- 4) 科学研究費・基盤研究(A)(2): 帰国アジア元留学生の日欧比較追跡調査による留学効果に関する研究(研究分担者)

教育・業務活動

- 1) 社会工学類広報委員
- 2) 留学生センター相談指導業務(火曜日及び水曜日)
- 3) 留学生センターホームページ作業委員
- 4) 外国人留学生及びチューター向けオリエンテーション(国費2回・私費2回・チューター1回, 合計年5回)
- 5) 短期交換留学生に関する学系等の業務補助

社会的活動

- 1) 国際協力事業団フィリピン地域振興コース研修指導(1997~)
- 2) 特定非営利活動法人西山記念すまいまちづくり文庫会員及び公式ウェブサイト作成

その他の活動

- 1) 筑波大学社会工学系ファカルティセミナーにて発表「北京四合院住区の現代化と再生」2000年3月

吉野 邦彦

I. 研究活動

(1) 研究業績

- 1) 「水稻品種による複数角分光反射特性の相違」, 吉野邦彦, 串田圭司, 農業土木学会論文集, Vol.68(1), No.205, pp.85-93, 2000年2月

(3) その他の研究活動

国際学会口頭発表

- 1) 「Classification of Rice Crop Varieties by Multiangular spectral Reflectance Data」, 1999.9 Ispra,

Italy, The Second International Workshop on Multiangular Measurements and Models, Kunihiko Yoshino, Keiji Kushida

- 2) 「BRDF Simulation based on digital 3D structure of rice plant」, 1999.9 Ispra, Italy, The Second International Workshop on Multiangular Measurements and Models, Keiji Kushida, Kunihiko Yoshino

科学研究費補助金研究

- 1) 研究報告書：基盤研究C（研究代表者）；「衛星画像データによる水稲品種判別に基づく米の反収量推定」
- 2) 共同研究：国際学術研究，創成的基礎研究費；「東アジアにおける地域の環境に調和した持続的生物生産技術開発のための基礎研究」

渡辺 真一郎

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (under review). The distinction between latent and manifest modes of fit between personality and personality requirements. Journal of Personality.
- 2) Watanabe, S. (in writing). Another look at the person and situation relations, A manuscript to be submitted to Academy of Management Review.

(2) 学会活動

- 1) Ad-hoc reviewer for Industrial and Labor Relations Review
- 2) Watanabe, S., & Hammer, T.H. (2000). The distinction between latent and manifest modes of personality fit. American Psychological Society 12th Annual Convention, Miami, FL.

(3) その他の研究活動

- 1) 2000年度学内プロジェクト
- 2) 2000年度文部省科研費基盤研究（C）研究統括者

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学類4年生クラス担任

安藤 和敏

I . 研究活動

(1) 研究業績

- 1) Kazutoshi Ando: The Greedy Algorithm for a Class of Lattice Polyhedra and its Consequences. Discussion Paper Series, Institute of Policy and Planning Sciences, University of Tsukuba, August 1999.
- 2) Faigle-Kern の双対貪欲算法とその帰結. 組合せ数学セミナー, 東京大学, 1999年11月.

(3) その他の研究活動

- 1) 学内プロジェクト研究 (奨励)

. 教育・業務活動

- 1) 社会工学系防災委員

大木 敦雄

I . 研究活動

(3) その他の研究活動

- 1) FreeBSDカーネル入門 改訂版、(株)アスキー、2000年2月
- 2) Emacs Lisp リファレンスマニュアル、単訳、(株)アスキー、2000年5月
- 3) GNU Emacs マニュアル 20.6、共訳、(株)アスキー、2000年5月

. 教育・業務活動

- 1) 専攻計算機システム(ワークステーション10台、PC60台)、および、LANの運営維持管理 (特に、外部からの不正使用防止対策、SPAMメールの防止対策)

- 2) 計算機を利用した講義・演習の補佐 (計算機科学基礎I、II、計算機システム、など)

その他の活動

- 1) 非常勤講師(電気通信大学)

坂本 淳二

研究活動

(1) 研究業績

- 1) 三上訓顯・坂本淳二(1999): 総合計画における副都心施策と実態に関する考察, 日本都市計画学会学術研究論文集, 34, pp115-120.
- 2) 2000年日本建築学会奨励賞受賞
- 3) Yasufumi Uekita, Junji Sakamoto, and Masahiko Furukata(2000): "Dynamic motion by kinetic typography for expressing sensible information", Proceedings of The Fourth Asian Fuzzy Systems Symposium, pp323-328.
- 4) Yasufumi Uekita, Junji Sakamoto, and Masahiko Furukata(2000): "The Method of Kinetic Typography Communication", IEEE International Conference on Systems Man and Cybernetics 2000(accepted).

(2) 学会活動

- 1) 坂本淳二・土肥博至・福本佳世(1999): 住民の意識の変容について - 筑波研究学園都市における都市形成過程に関する研究(1999)その1 -, 1999年度日本建築学会大会学術講演梗概集(中国), F-1, pp727-728.
- 2) 坂本淳二・土肥博至・田中一成・福本佳世(2000): 筑波研究学園都市における民有地の市街化に関する研究10(1999年までの状況) - その1 . 市街化の度合いと速度 -, 1999年度日本建築学会関東支部研究報告集, pp421-424.
- 3) 鎌田能尚・細矢健太郎・鎌田元弘・坂本淳二(2000): 都市近郊地域における混住コミュニティの地域交流に関する考察(茨城県猿島郡三和町を事例として), 1999年度日本建築学会関東支部研究報告集, pp493-496.

(3) その他の研究活動

- 1) 学内プロジェクト(奨励研究)「筑波研究学園都市の市街化に関する研究 区画整理民有地の市街化とその要因の考察を中心に」
- 2) 平成11年度財団法人名古屋都市センター助成研究「名古屋市の副都心形成に関する計画的な研究」(三上訓顯と共同研究)

教育・業務活動

- 1) つくば市総合計画策定に関する市民等アンケート調査(委託調査)
- 2) 茨城県三和町商工会主催のまちづくり懇談会で講演(2000年3月)

MONDAY OHI ASIKHIA

研究活動

(1) 研究業績

- 1) ASIKHIA, M. O. et. al. (1999) Replex: Regional Development Planning Exercise. Uncred Training Material Series No. 1. Published by the United Nations Centre for Regional Development Nagoya, Japan.
- 2) ASIKHIA, M. O. et. al. (1999) Pangaea: Gaming Simulation Exercise for Regional Development. Uncred Training Material Series No. 2. Published by the United Nations Centre for Regional Development Nagoya, Japan.

(2) 学会活動

- 1) ASIKHIA, M. O. (1999) Regional Development Policy and Planning in Africa: A case study of Nigeria. A paper submitted to the Global Forum on Regional Development Organized by the United Nations Centre for Regional Development and the United Nations Department of Economic and Social Affairs.
- 2) ASIKHIA, M. O. (1999) Planning Theories in Regional Development Planning. A paper presented

during the 27th International Training Course Organised by the United Nations Centre for Regional Development, Nagoya Japan.

.教育・業務活動

- 1) ASIKHIA, M. O. (1999) Guest Lecturer to the United Nations Centre for Regional Development, Nagoya Japan.

.社会的活動

- 1) Member of Nigerian Geographical Association
- 2) Member of Nigerian Society for Environmental Management and Planning
- 3) Member of Nigerian Meteorological Society
- 4) Member of the Architectural Institute of Japan

ANNUAL REPORT 1999 - 2000 No. 22

2000年10月 発行

発 行 筑波大学 社会工学系 総務委員会

〒305-8573 茨城県つくば市天王台 1 - 1 - 1

TEL 0298 - 53 - 5182, 5170

FAX 0298 - 53 - 5070, 55 - 3849

表紙写真 山田 圭一 名誉教授